

研究報告書

2014.3

平成25年度 市民研究報告書 ■

那古野まち歩き新発見

^{なごや} 那古野まち歩き新発見

平成25年度

市民研究員:水野 孝一

栗田 益生 富永 和良

水谷 栄太郎

小宅 一夫

オブザーバー:山田 和正

山田 美紀子

那古野まち歩き新発見

<目次>

I 概要編	ā
-------	---

\blacksquare	本	編		
		第1章	高齢者の時代	1
		第2章	調査・研究	5
		第3章	那古野まち歩き新発見事例	9
		第4章	提言	128
		第5章	謝辞	131

Ⅲ 資料編

参考資料

I 概要編

那古野まち歩き新発見

市民研究員:水野 孝一、粟田 益生、冨永 和良、水谷 栄太郎、小宅 一夫 オブザーバー:山田 和正、山田 美紀子

1 高齢者の時代

最近の高齢社会において、認知症や独居死(孤独死)など多くの現象が問題化している。さらに、公的年金や医療、介護に関する費用の問題も大きくクローズアップしてきている。

医療や介護の問題に注目すれば、高齢者が健康でありさえすれば問題が少なくなることから、長寿寿命よりも健康寿命を維持することが大切である。一方では、最近の商店街や地域に元気が見られない。これも高齢化と無関係ではなく、若者の減少と考えられることから、高齢者がまちへ出ることが地域活性化にも寄与すると考えた。

以上のことから、高齢者が毎日の生活をエンジョイしつつ健康を維持するためには、 まちへ出て歩くことが必要と考えた。また、まちを活性化させるためには、高齢者だけ でなく、多くの市民がまちに出ることが必要と考えた。その手段として、自由を拘束さ れず、思いついた時に気軽に出掛けられ、費用もさほど伴わないことが重要である。

私たちは協議の結果、高齢者を含む市民のまち歩きを促進する方策を考えた。それが「那古野まち歩き新発見」である。市内に点在する[知られざる]、[忘れられた]、[秘めたる]、[隠れたる]ものなどを「新発見」し、データ化して市民に提供するものである。そして、これを基に多くの高齢者を始めとする市民がまち歩きをし、健康を維持し、まちの活性化に寄与することを意図した。これは、観光都市を目指す名古屋にとっても格好の研究テーマでもある。

2 調査・研究

調査は、人づての情報や新旧の文献などからヒントを得て、市民研究員が実際にまちを歩き回って、見たり聞いたりして行った。

当初は、何があるのか分からずに、とにかく何でも集めることに没頭した。調査時期は大半が真夏に集中したが、各研究員は興味のあるものを探し求め、ペットボトルとカメラなどを持って市内のあちらこちらを歩き回った。

これらの調査した結果は、各調査員が個々に集めたデータをまとめて資料とし、月1 回の定例会に持ち寄って内容の検討をした。研究員一同が驚くほど、様々な興味ある「新 発見」が多く集まった。 だが、様式をはじめとして統一性に欠けていたので、以後、データを事例にまとめる にあたっての申し合わせ事項を定めた。

その結果として、多くのデータが事例にならずに削除されることとなった。それらの 多くは、プライバシーに関係するもの、市民に公開されていないもの、調査に時間を要 するもの、あまりにも数が多く膨大な調査が必要になるもの…、などだった。

3 報告書作成と結果

報告書をまとめるにあたっては、1項目が過大にならないように頁数を限定し、その場所へ行ってみたい気持ちにさせるような含みのある内容と、写真を豊富に入れてビジュアルなものを心掛けた。また、見開きで見られるようにも心がけた。

集められたデータを資料に整理して行く中で、1件の事例として取り上げるまでもないが、削除してしまうには惜しいもの、興味深いものについては〈コラム〉とか〈ミニ・データ〉として、随時、項目の間に挿入した。

当初、高齢者を主なターゲットにしたことにより、結果として難しい用語や読み難い 漢字が多く見受けられるデータが多くあった。しかし、一般市民、特に若い世代にも興 味を持ってもらうために、できるだけルビや解説を加え、可能なものには出典も明らか にした。

報告書を作成した結果、多くの市民に興味を持ってもらえるものが出来たと考えている。そのため、これを多くの市民の目に触れてもらい、できればこれによってまち歩きをしてもらいたいという希望などを最後の提言に示した。

一般的な報告書から見ると、今回の報告書の体裁は変則である。すなわち、頁数のほ とんどを事例が占めている。従って、概要編も簡潔となった。

4 おわりに

「今年は、酷暑の夏だ」と言われた真夏に、熱中症の心配をしながらも各研究員は、調査のために市内の各所を歩き回った。「暑かった」、「苦しかった」とぼやいていたのは調査直後のことで、終盤に近づくと、誰もが「調査が楽しかった」という感想に変わった。

それは、実際にまちを歩いてみて「まち歩き」の楽しさを感じたからである。事例に 表れなかったレトロな店舗や建物、坂道やカーブ、不可解なものなど様々なものから人々 の生活の息吹や知恵の豊かさに驚き、豊かなまちの表情を実感したからだった。

私たちのまとめた「那古野まち歩き新発見」の事例は、私たちの間でも興味深く、面白いものになったと考えている。まちへ飛び出し、いつのまにか体が軽く感じるようになったと実感していただきたい。

ここにまとめた事例以外にもまだ多くが埋もれていることも確信した。あわよくば、 これらに触発された多くの市民によって続編ができることを願ってやまない。

Ⅱ 本編

Ⅱ 本編

<目次>

第1章 高齢者の時代	1
1-1 市民研究のテーマ	2
1-2 まち歩きを誘うもの	3
第2章 調査・研究	5
2-1 研究テーマの標題	5
2-2 作業計画	5
2-3 まちを歩いて	6
2-4 資料の統一	8
第3章 那古野まち歩き新発見事例	9
3-1 事例について	9
3-2 知られざる	10
(1) 蒸気ポンプ消防車とベンツ社製はしご車	10
(2) 名古屋一の涅槃像	12
(3) なごや七福神	18
〈コラム〉市・坊・里・町・巷・街。さて、これをどう読みますか	? 25
(4) 新免政名って誰? ―八事に残る武蔵の碑	26
(5) 名古屋廿一大師	28
〈コラム〉大名のルーツ 名古屋	35
(6) 東区文化のみち 神話編	36
〈コラム〉えっ! カゴメとメナードって、本社は名古屋?	39
(7)鳴海宿十一ケ寺	40
〈コラム〉「松坂屋は松阪出身?」の間違い!	45
(8) 名古屋一の観音像	46
(9) 万年筆インクの「名古屋シリーズ」	48
(10) トイレにもなるマンホール	50
(11) 小さなブックカフェ	52
(12) 建中寺にある「蒙古襲来絵詞」	54
(13) 河童伝説が伝わる塩竈神社と笈瀬商店街	56
(14) 意外な出会い 鉈薬師 円空の世界	58
(15) 永禄3年創業の「鍋屋」	60
3-3 忘れられた	62
(1) 名古屋三大仏	62
(2) 宮本武蔵の足跡を訪ねて ― 笠寺観音界隈	66

〈コラム〉名古屋のナンバースクール (旧制中学)	69
(3)激動の戦中戦後を生き延びた格納庫	70
(4) 杉浦千畝と名古屋の小学校と中学校	72
(5) 徳川園北の赤い屋根	75
〈コラム〉名古屋の五摂家(?!)	77
(6) 愛知医学校発祥の地と後藤新平	78
〈コラム〉名古屋の老舗企業は!!	81
(7) 尾張徳川家の御霊屋はどこに?	82
(8) 混擬土代替の人造石	86
(9) ここに、お参りしたことありますか?	88
(10) 火葬場への電車?! - 八事電車と畜魂碑	90
〈ミニ・データ〉今も残る二宮尊徳像	93
(11) 市内唯一の跳上橋	95
〈コラム〉清洲越し ―町ぐるみの引っ越し―	96
〈コラム〉草薙の剣のルーツ	97
3-4 秘めたる	98
(1) 遺骨で造った観音菩薩像	98
〈ミニ・データ〉堀川で出会う不思議	101
(2) 名古屋城・石垣の謎	102
〈ミニ・データ〉掘ったら出てきた奉安殿	105
(3) クスノキから出てきた如来像	106
(4) 御器所交差点を中心にしたグランド・クロス	108
(5) ルルドの奇跡・名古屋にあるルルドの洞窟	114
3-5 隠れたる	116
(1) 旧名古屋商工会議所(名古屋商法会議所本館)	116
(2) 名古屋三珍狛犬	118
(3) 日本に3発、戦艦大和の主砲弾	122
(4) 軍馬・軍用犬・軍用鳩の慰霊碑	124
(5) 日本で唯一のチベット密教寺院、チャンバリン(弥勒寺)	126
第4章 提 言	128
4-1 提言1	128
4-2 提言 2	129
4-3 提言3	129
4-4 提言4	130
第5章 謝 辞	131

第1章 高齢者の時代

今や、日本は世界に冠たる超高齢社会となった。すでに何年も、いや何十年も前から「世界で一番早く、どこの国も経験したことのない超高齢社会の到来を迎える」と言われ続けてきたのだから、いまさら慌てることでもないかも知れない。だが、その影響で、かつて知られていなかった病とも言えない病のひきこもりとか現代型うつ、あるいは認知症や独居死(孤独死)など多くの社会現象が問題化している。

この背景には、世界でトップの日本人の長寿寿命化がある。明治以降の日本人の寿命は、明治24年(1891)から明治31年(1898)にかけて行われた第1回の調査で男子42.8歳・女子44.3歳だったものが、回数を重ねる毎に延び続け、第10回(昭和30年・1955)には男子63.6歳・女子67.75歳、第18回(平成7年・1995)には男子76.36歳・女子82.84歳になった。これを世界で比較してみると、女性でいえば2位フランスの81.13歳(1991年)に対してトップ、男性は2位スウェーデンの76.08歳(1994)に対してトップなのである(出典厚生省『平成7年簡易生命表』)。

長寿化は素晴らしいことには違いないが、これに伴うさまざまな問題も生じている。簡単に言ってしまえば公的年金、医療保険、介護保険といった経済的な負担が増えてくることである。このうち公的年金については、基金をカバーする働き盛りの人口減が大きな要因であることから、ここでは除外して考えるが、残る医療保険と介護保険に関しては、高齢者の問題として、軽減する方策を考える余地がある。心身が健康であれば、医療保険も介護保険も負担が減るはずだからである。

先ほども長寿化は素晴らしいと述べたが、生活をエンジョイできない状態での長寿化では意味が無い。このため、長寿寿命もさることながら、健康で生き生きと暮らせる健康寿命がより大切である。

高齢者とは何歳からをいうのだろうか。最近は元気な高齢者が増えたこともあって、様々な意見が飛び交っている。しかし、ここでは名古屋市の敬老パスが発行される年齢の満65歳以上を高齢者としておく。これは社会通念というより、国連が定義する年齢区分によるものでもあるからである。国連の定義とは、人口統計上の区分として幼年人口を0~14歳、生産人口を15~64歳、老年人口を65歳以上としている。

従って、本研究テーマで念頭に置いている高齢者も満 65 歳以上の人である。最も若い 65 歳の人は、昭和 24 年 (1949) に生まれ、20 歳の昭和 44 年 (1969 年) 頃から社会に出 で働き、60 歳となった平成 21 年 (2009) 頃に円満退職または再就職した、というのが平 均的な経歴である。

これら高齢者が過ごしてきた時代を振り返れば、非常に変化の激しい、波乱万丈の時代だったといえる。

20世紀のほぼ半分が人生の主要な時期を持つ現在の高齢者は、この波乱に満ちた年月をかい潜って生き抜いてきて、残りの人生をどのように過ごすのだろうか。したたかな現在の高齢者は、かつての「老人」という言葉からくる固定観念からは考えられない程のパワ

ーを持ち合わせていることは確かな様である。かつての老人は、家族の中で時々は家事の 手伝いをしながらもゆったりとした時間を過ごし、いつの間にか消えてゆくものと思われ ていた。童謡にある「村の渡しの船頭さんは、今年 60 のおじいさん」だったから、現在の 高齢者とは隔世の感がある。

まだまだ社会の一員として通用する現在の高齢者も、一日中何もせず、惰眠を貪っているだけでは、いつの日か足腰が弱り、気がつくと認知症になっていたということになりかねない。ひいては医療保険、介護保険の多額利用者となり国家の財源を圧迫する。なってから対応するより、なる前に予防するという考えは、近年、国のみならずどこの自治体も考え始めている。名古屋市が平成19年(2007)から始めた「なごや健康体操」もそのひとつである。さらに、瑞穂区ではこれをもとにして区独自の新たな区民体操として「みずほ健康体操」や「サンバ de みずほ」を作成し、地元の健康づくりグループ「健康ささえ隊」(平成21年3月結成)によって区内各所で実践するなど、地域で健康を維持する方法に取り組んでいる。

要するに、心身ともに健康な高齢社会のためには、体操に限らず心身ともに生活をエンジョイできる環境や仕掛けを考え、それに興味を持って参画したり、ともに楽しむ意欲を持ったりすればよい訳である。

レイチェル・カーソンの著に『センス・オブ・ワンダー』(新潮社・1996 発行)という本がある。この本の帯に記されたキャッチコピーには「美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性〔センス・オブ・ワンダー〕を育むために、子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる一」とある。この本は、子どもたちのために、メイン州の林や海辺、空などの写真を大判で収め、自然の驚異に興味を抱かせようとする内容だが、彼女の信念は子ども向けだけのものではない。人は、子どもであれ大人であれ、常に「美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性」を持ち続ければ活き活きとした生活がおくれることを示唆している。

1-1 市民研究のテーマ

私たちは、高齢者が生活をエンジョイするためのものにはどんなものが考えられるかを議論した。それには、メンタルな面とフィジカルな面が考えられる。家にこもって本を読んだり、地域の歴史を調べたり、また、それをまとめる執筆活動をしたりして楽しんでいる人がいる。逆に、野山の自然に親しむハイキングに出掛けたり、未知の世界を知るために地域を離れた土地へ旅行をしたりするのが楽しいと思う人もいる。それらをまったく別なものと考える場合もあるが、その両面を兼ね備えたものがあれば理想である。

現実には、毎日の生活を過ごすということは、人によって時間的な制約や金銭的な面も大きく関係する。何かの趣味を持ち、それを追求する楽しみも時間的・金銭的な余裕がなければならない。ましてやハイキングや旅行なども、年に何回かのレクリェーションと考えれば多少の出費はやむを得ないと考えられなくもないが、毎日となると現実的でなくなる。最近はカルチャー・センターやアスレチック・ジムに通う人も多くいるが、これも自

由が拘束されるし費用もばかにならない。この結果が、大型ゲームセンターに休日・平日 を問わず大勢の高齢者が詰めかけるという事態になっている。

一方で、最近、地域や街の衰退あるいは低迷といった社会現象が顕著化しているのが気になる。これは単なる経済的な面だけの問題だけでなく、高齢が大きく影響していることは間違いなく、生活をエンジョイできる環境づくりが進み、ひきこもり勝ちな多くの高齢者が街に出歩くようになれば、地域の活性化、まちの活性化にもつながるはずである。

市民研究のためのテーマを考えたとき、色々な議論の結果から到達したのが「那古野まち歩き新発見」だった。未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性、即ち新発見を求めて、若者であれ、高齢者であれ街に人があふれるようになれば、自然と地域もまちも活性化することに繋がってゆくということだ。これは、観光都市を目指す名古屋にとっても格好の研究テーマでもある。

幸いにして名古屋市民は一定の年齢になると、敬老パスを持つことができるので、交通 費に煩わされることなく街へ出て行くことができる。人の好みは多様で、歴史を訪ねるな どの知的好奇心を満足させたい人がいるだろうし、単に街を見て歩くだけでも楽しいとい う人もいるだろう。目的が何であろうと一旦外出すれば、途中で休息や食事などに色々な 店に立ち寄る。それが、ささやかな買い物であっても、買い物を楽しむこと自体が気持ち を若返らせるのに効果がある。

新たな見所を新発見し、資料として市民に提供できたら面白いのではないか、また、集まったデータをもとにした新たな名古屋の観光資源として活用することにも繋がるのではないか。このため、実際にどれだけの新たな見所が発掘できるかを調べることにした。

新発見というが、どんなものがあるかを議論した。その結果は、次のような4つのキーワードだった。即ち、[知られざる]、[忘れられた]、[秘めたる]、[隠れたる]である。そして、これらのキーワードに沿った魅力ある史跡・旧跡・言い伝えなどがこれに該当するのではないかということになった。

これらの例を探してみると、意外にも比較的簡単に見つかった。どんなものがあるのかといえば、市民研究員のプレゼンテーションに提出したものとして[知られざる]のキーワードでは「名古屋で一番大きな涅槃像」他、[忘れられた]では「旧陸軍航空隊の格納庫」他、[秘めたる]では「名古屋城の陰陽石」他、[隠れたる]では「旧名古屋商法会議所」他などである。(資料1)

1-2 まち歩きを誘うもの

名古屋市内に住む高齢者を始めとする市民を外へ誘うきっかけとなるものとして、名古屋市役所あるいは各区役所には様々なまち歩きのためのガイドブッマップや小冊子などが準備されている。それらは「史跡散策路」であったり「魅力マップ」であったりする。手始めに、それらを全区について調べた。(資料2、資料3)

集めた資料を閲覧した結果は、予想以上にきめ細かなマップを備えている区役所があって驚かされた。各区とも様々な工夫を凝らして、各種のマップや冊子あるいはパンフレッ

トを作成している。「〇〇区史跡散策路」というのは、どこの区にも統一した名称で備わっているので全市一斉に作成したものと思われるが、それ以外の各種マップや冊子はそれぞれの区が自主的に作成していると思われる。昭和区や緑区などはその代表区である。

昭和区では、「~歩いてみませんか昭和区~」という標題で「塩付街道」や「飯田街道」、 その他の史跡を区分した 10 コースに分けたマップが準備してある。これらは区民によるク ラブや研究会の協力を得て委員会を結成し、実際に歩いて現地を確かめたものをマップと してまとめたものである。

緑区も同様で、区民の協力を得て作成さた「神話の道・氷上姉子神社コース」を初めと する10コースの緑区散策マップが整備されている。

また、昭和区と緑区では、外国人居住者にも配慮した資料を提供している。国際化を見据えてのことなのか、居住者に外国人が多いからなのか、一度、区の担当者に聞いてみたいところである。日本の三大都市のひとつに数えられる名古屋なのに国際版のガイドブックが2区にしか整備されていないということ事体がおかしい。

さらに驚いたのは、史跡が多い区にもかかわらず資料は1枚だけという区がある反面、 史跡や見所などが少ないと思っていた中川区が多種多様な資料を備えて対応してくれたこ とだった。

もうひとつ付け加えるなら、これは史跡巡りやまち歩きとは少し異なるものの、天白区に「地産地消 Map」というものがあった。これは区内各所で開かれる野菜や果物を売る朝市や直売所をマップで示したもので、季節が限定されているとはいうものの、一度覗いてみようかなという意欲をかきたてるものという意味では興味深いものだった。

これ以外にも、様々なまち歩きに関する企画がある。「広報なごや」には各局や各区の催し、ウォーキング、現地学習といったものが掲載されている。平成25年9月号の「広報なごや」を例にとれば、レジャーの項目に「駅ちかウォーキングAUTUMN」、「あおなみウォーク」、「秋のファミリーウォーキング」…などが並んでいる。さらにはJRや私鉄でも同様の催し物がある。どれもよく考えられた力作で制作に携われた人達の苦労が偲ばれる。そして、高齢者を外へ誘うきっかけとなるものは、何も史跡巡りばかりではないことを気付かせてくれた。これも「まち歩き新発見」のひとつかも知れない。

これだけのものが揃っているなら、もうこれ以上のものを考える必要がないようにも思えてくるが、高齢者を対象にしているのだから、インターネットなどによる収集を除外すれば、各区役所を訪ね歩いて資料を得るのが大変なことに気がついた。そのため、区の境界を越えてどこの区役所でも市内すべての区のマップが手に入るような工夫があれば良いと感じた。

もうひとつは、集めてきた資料を調べてみると既に「知っている」、「行ったことがある」 という場所が多いことにも気がついた。もちろん初めて知るものや改めて分かったものも 多くあるのだが、これらに補完する新たな魅力ある場所があればなおいいだろう。それが 「まち歩き新発見」であると確信した。

第2章 調查・研究

2-1 研究テーマの標題

私たち研究グループが、市民研究のテーマとして「那古野まち歩き新発見」を提案した大きな理由のひとつには、名古屋には「名古屋城」や「熱田神宮」だけではない、もっと魅力のあるところがあるはずで、今回はそれらを発掘して老若男女あらゆる階層の市民や観光客に紹介し、まち歩きに活用してもらおうという目的からである。

また、このテーマのなかにある「那古野」という字句は、名古屋の最もふるい呼び方の一つで、文献上では旧広橋家本『江家次第』(東洋文庫蔵)に平安時代末期の荘園名として現れるのがもっとも古いと思われる。また、南北朝時代の写本『弘法大師御入定勘決記』(真福寺蔵)にも「尾張那古野荘安養寺」の記載がある。

江戸時代には「名古屋」と「名護屋」が併用されていたが、時代とともに「名古屋」が増え、明治2年(1869)尾張藩が名古屋藩と改称したことで統一されたもので、古くから現代までに至る名古屋の歴史を語る上で[知られざる]、[忘れられた]、[秘められた]、あるいは[隠された]など、歴史遺産や名所旧跡などを世に出したいとの強い希望からあえて「名古屋」でなく「那古野」を用いることとした。

2-2 作業計画

どんな調査・研究を行うにも、計画というものを考えるのが常套である。当然、今回の調査に入る前にも私たちは計画をたてるために集まった。計画といっても主に作業計画で、ひとりの担当者の範囲・項目(分類)・点数・収集内容などの目標を決めようとした。しかし「調べてみなければ、どんな項目があるのか分からない」、「範囲を決めようにも、どこに何が、またどれだけあるのか見当もつかない」などの意見が出て思惑通りの計画がたてられないことが分かってきた。従って、ともかく各々が気の付いたことをまとめて持ち寄り、ある程度の数が出た時点で方向性を再度見直すことにした。



オブザーバーも交えた定例会

その後、毎月1回の日時を決めて集まる定例会で各々が持ち寄ってきたデータを皆で討議した。調べてみるとすでに消滅しているものなど空振りも多くあったものの、面白いもの、興味深いものも続出した。

ところが、4ヶ月、5ヶ月と経

過しデータの数が増えてきても一向に方向性が定まらない。分類のための項目を何項目に したらよいのか難しく、また、類似項目で一括りにできるものがないという正に百花繚乱 といったところだった。

ところが、そのまとまりのないのが面白いという意見が出てきて、あえて無理に決めつけないこととした。誰もが思っていたことは、いずれもっと集まれば分類できるようにな

るだろうから、その時点で整理をすればよいということだった。

もっと数が集まれば、点と点でグループにまとめ、これらを結んでマップができるという考えなのだが調査や収集時期も後半を迎えていたので、このままグループ化できなければ、当初に考えていた「まち歩きマップ」なるものの提言があやしくなってくることも懸念された。

2-3 まちを歩いて

調査は、調査員の得意の分野を分担して色々な場所を歩いた。暑い中、移動は市民研究員という制約から、タクシーが使えず公共交通機関または徒歩に限られるため能率が悪い。 炎天下を歩くため、1日に1か所しか行けない日が続いた。

能率を上げるため、各区に備えられた史跡散策路の地図を参考にして歩いてもみたが、 市販の地図と対照してみても、縮尺が異なるために細い道が分からない。有名な場所や交 通の便利な場所はよいとしても、初めて訪れる場所へ行くのは特に難しかった。区役所に 備え付けられた史跡散策路のマップは、一部の地区だけを示しており、その区に住んでい ない者にとって、どの辺を歩いているのかを把握するのが難しかった。そこで、これも各 区に備わっているハザードマップを併用して全体を把握しつつ史跡散策路のマップを見る ようにして歩いた。

それにしても知らない街区を歩くということは、地下鉄はともかく、バスを自由に使いこなすことは難しかった。予期せずして現れたバス停では、どこへ行くバスが来て、どこで降りれば便利なのか、皆目、検討がつかないからである。

道に迷いながらも目的地へ向かう道すがら、最近のまちが随分と変貌してきたことに気がついた。以前には無かった広い道路ができていたり、記憶にあった建物や店舗がなくなって別なものに変わっていたりする。また、一昔二昔を思い出しては「ここは、昔、こうだったなあ」、「あれは残しておくべきだった」、「写真に撮っておけばよかったなあ」などと改めて思い、この先、名古屋のまちはどのように変遷してゆくのだろうかと考えてしまう。たとえば、ナディアパークの建っている場所は元中央高校だった、白川公園付近にはアメリカ村があった、主要な道路には市電が走っていたし、高辻交差点角の高層住宅付近は市電の車庫だった、吹上ホール辺りは刑務所だった、畑や田圃だった所が住宅地に…といった具合である。

先に「何も史跡巡りだけがまち歩きではないと気がつく」といったが、自分のかつて知っていたまちを歩くだけで、まち並みの変化に気づき昔を思い出すといった、認知症予防の回想法を実践していることになるではないかとさえ思えてくる。

一口に「まち歩き」というが、今回、様々な場所を歩いて新ためて「まち歩きの魅力を 新発見」した。いつもは車でさっと通り過ぎてしまったり、地下鉄で通り過ぎてしまった りしていた街や町の魅力に出会えたことである。まだ見ぬ場所を歩くわくわく感、そこに 住む人の生活感を見て「こんな生活もあるんだ」と妙に納得したりもした。坂やカーブに よって刻々変化する景色、木々や草花の季節感…、人それぞれの感じ方があるだろう。 人は、多かれ少なかれ、誰しもが自分の生きてきた証を残したいと思っている。しかし、それが現実にかなう人はごく限られている。そこで、自分の生きてきた時代の何かを多くの人と共感し、懐かしみ、若者に誇示することで満足感を得る。この何かの中から生き残ったものが文化として残っていく。だから単に古いからと言って捨て去るのでなく、種々選択をして残す努力をしなければならない。私たちが探し求めている新発見の中からも大方の共感が得られれば、後世に残されてゆくものになるだろう。

新発見を求め、あちこちの史跡などを訪ね歩いていると、様々な不思議なものに出会う。





不可解な電線

車が通り抜けられるの?

人々の生活の息吹や知恵の豊かさに驚き、豊かなまちの表情を実感した。これらもリストに入れたいものだと思っても、プライバシーを侵害する恐れのあるものとか、調べてみた結果、市民に開放していないと聞けばリストアップを断念せざるを得なかった。また、数が多すぎて調べきれないものもあった。

このような、数が多すぎたものや、調べきれなかったものなどの中から、興味をひくもの、いつかは調べ



これは街の美化のため?

てみたいものなどの幾つかは<コラム>や<ミニ・データ>として事例の中に示しておいた。

また、私たちが今回、歩いて集めたデータや事例を名古屋の観光資源として考えた場合、 新発見されたなかの多くが、市外あるいは県外からの観光客に自信を持ってアピールする ためには、もう少し整備されるべきと感じた。本来は魅力のある場所なのだろうが、放置 されたような状態では魅力も半減し、来訪者に見せたいという気持ちが薄らいでしまう。

さらに、海外からの観光客の目で見てみれば、整備もさることながら案内表示や説明板には日本語しかなければ訪れる者もいなくなるというものだろう。これが逆で、たとえ小さな石の塊や石仏であっても、丁寧な説明でその意義を感じとれれば、彼らの口コミで次々

と来訪者の数が増すはずである。

名所・旧跡や施設の維持管理には多くの人手と費用を伴うのだから、簡単なことではないのはもちろんである。しかし、地域住民の地域を愛する気持ちに地域の大小の企業が少なからずの費用を負担すればできないこともないはずである。そのような習慣作りやシステム作りを考えてもいい。

2-4 資料の統一

月日も経ち、各人が持ち寄ったデータも数を増してきたので、資料としてのまとめ方の 統一を試みた。

基本は、名古屋市内に存するものに限定し、市民の誰もが実際に見聞できるものだけとした。さらに検索が容易で、その場所へ行くのに便利なように、1項目2頁または偶数頁の見開きとすることを原則とし、冒頭に表題と種別・場所・交通機関を一覧表に付け、併せて地図も添付することにした。

特に、表題は興味を持ってもらえるような表現に努め、説明文は固有名詞や専門用語にはできるだけルビを付けたり平易な表現に置き換えたりし、さらにはすべてを説明してしまわずに、さらに追及したい意欲を掻き立てるような、余韻を残した内容となるように心がけた。

最終的には、集まったデータを分類することを試みたが、これは先の項目でも述べた繰り返しになるが、各データの共通性が薄く、依然として百花繚乱の様は最後まで同じだった。そこで原点に戻って、市民研究員に応募する際にプレゼンテーションで試みたキーワード[知られざる・忘れられた・秘めたる・隠れたる]の4項目で分類することが穏当であると気がついた。

また、資料の統一ということでの悩みのひとつとして、データの信ぴょう性ということがあった。データの根拠の多くが聞き伝え、記憶、憶測…といったものが混在し、既存データにあるものでも出典が明確でないものが多くあった。そうではあっても項目毎に様々な記録を照合することに努めた。既存データのあるものは新発見でなく再発見ということで、一部、出典が明確なものについては付記した。しかし、その他の聞き伝え、記憶…などが真実であるか否かの信ぴょう性を追求するだけの時間を研究員は持ち合わせていなかった。だからと言って、すべてのデータを破棄するのではなく、現に伝わっている聞き伝えなどで「存在する」として記録(資料)に残すことにした。残すことによって、さらなる新発見または再発見への契機となることを願ったからである。

私たちは、真実だと信じていたものが間違っていたことは往々に、あるいはごく稀にかもしれないが、経験することがある。何が真実で何が間違いなのは、最終的に受け手が判断することに委ねられていることを承知し、ゲーム感覚で楽しんでいただきたい。

第3章 那古野まちあるき新発見の事例

3-1 事例について

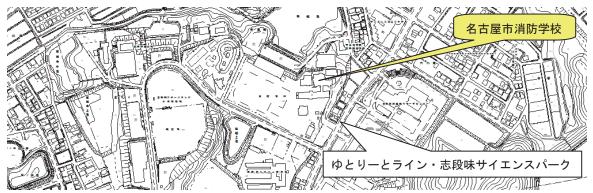
この事例は、次に示した幾つかの約束の下に編纂されていることを理解してから、活用 していただきたい。

- 1 基本的に名古屋市内に存している場所などとした。
- 2 一般に公開されているものを原則とした。ただ一部に、日時を限定して公開されているもの、予約をしたり声をかけたりすれば見せてもらえるものなども収録した。
- 3 各項目の冒頭には、検索したり、現地を訪れたりする際に便利なように種別・所在地・ 交通を表として付けた。
- 4 表の交通欄は、基本的に最寄りの公共交通機関の駅または停留所からの距離と徒歩による所要時間で示した。
- 5 距離は、最寄りの公共交通機関の駅または停留所から目的地までの大体の距離を計測し、所要時間は、歩く速度を時速4^{*}っとして計算し、端数は切り上げ処理した。
- 6 地図は「名古屋都市計画基本図」(平成23年3月・名古屋市発行)を使用した。
- 7 各項目は、見開きで見られるように偶数頁でまとめる事を基本とした。
- 8 奇数頁となった項目には、「コラム」や「ミニ・データ」を入れて調整した。
- 9 目次の大分類は、客観的な判断が難しいので厳密なものではないものと理解していただきたい。
- 10 表の種別欄の種別は、その項目を調査し、まとめた研究員の判断に基づいている。
- 11 現地を訪れる際には、各区に備えられた「史跡散策路」などのパンフレットとあわせてまち歩きを楽しんでいただきたい。

3-2 知られざる

(1) 蒸気ポンプ消防車とベンツ社製はしご車

種 別	遺産		
所在地	・守山区下志段味長廻間 2280-12 名古屋市消防学校内		
交 通	・地下鉄・名鉄瀬戸線・JRの各「大曽根」からゆとり一とライン「志段味サ		
	イエンスパーク」経由「中志段味」行きに乗車し「志段味サイエンスパーク」		
	下車すぐ左側。		
	または、地下鉄「藤が丘」から市バス、藤が丘 12 号系統「東谷山フルーツパ		
	ーク」行きに乗車し「志段味サイエンスパーク」下車。		



1 名古屋市消防学校

ここは毎年新規採用される消防士の訓練並びに 現役消防士の研修のための施設で、高層建築の消 火や救助訓練塔なども設置されている。また、消 防研究室と消防音楽隊もおかれている。

2 蒸気ポンプ消防車

蒸気ポンプは文政 12 年 (1829)、イギリスで発明され、明治 3 年 (1870) ごろから輸入されるようになった。しかし、当時 6,000 円と高価であったため、明治 33 年 (1900) ごろから国産されるように





なった。

この蒸気ポンプ消防車は東京市日本橋蛎 殻町の市原 葡萄 諸機械製作所で製造され たもので、当時の価格が3,363円あまり(現 在の2,000万円相当)といわれている。 明治の終わりから大正の初めにかけて消火活動に活躍したといわれているが、火事が発生して、火を焚いて蒸気圧を揚げるまでに 15分もかかり、人力で現場まで引いてゆくため機動性に欠け、ガソリンポンプの発達とともに現役を退いた。現在は教材として校内に保管されている。

蒸気ポンプの性能は、発生馬力が30馬力、 放水量が毎分1,200~1,500 ぱ、筒先圧力が4

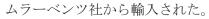




3 ベンツ社製はしご車

昭和 10 年 (1935)、建築高さが 30 にに決められたのに伴い、その高さに届くようなはし ご車が導入された。

その背景には、昭和7年(1932)12月16日、歳末でにぎわう東京日本橋の白木屋デパートで発生した火災があった。この火災は、昭和になって高層建築最初の火災であり、4階から8階まで焼失したが、この時出動したはしご車が4階までしか届かなかったこともあり、名古屋の高層建築関係者などの協力を得るなどして、総額75,000円でドイツ、ダイ





昭和10年(1935) 5月13日、中消防署に 配置され、昭和43年(1968)までの33年間 にわたり名古屋市の消防を代表する消防車と して活躍した。

はしご車の性能などは、車体総重量 8.5 ^トン、 全長 9.24 ^た元、車幅 2.5 ^た元、車高 2.8 ^た元、はし ご伸長 30 ^た元、規格放水量 2,500 ^ト元/毎分、最 高圧力約 82 ^{*}元、エンジン 6 気筒、95 馬力と なっている。





(2) 名古屋一の涅槃像

種別	寺院
所在地	・千種区星が丘山手 大乗寺
	・東区新出来1 徳源寺
	· 熱田区外土居町4番7号 大乗教総本山
	・千種区法王町1-1 日泰寺
交 通	・大乗寺:地下鉄「星が丘」①番出口から北西へ約200 な、徒歩3分
	・徳源寺:市バス基幹2「徳川美術館南」から西南へ約100 気、徒歩2分
	・大乗教:市バス「沢上」から南東へ約 400~500 な、徒歩6~8分
	・日泰寺:地下鉄「覚王山」①番出口から、北東へ約1*㎡、徒歩15分(本
	堂へは 10 分)

1 涅槃像とは

「涅槃」という言葉には、梵語で「吹き消すこと」とか「消滅」という意味がある。また、煩悩を断じて絶対的な静寂に達した状態をもいい、仏教における理想の境地ということになっている。これらのことから「涅槃像」は、釈尊の入滅(高僧の死という意味)の姿を彫刻として造ったもので、絵画の場合は「涅槃図」である。「涅槃図」には、周囲に弟子を始め菩薩・天龍・鬼畜などが泣き悲しむさまが描かれているのが一般的である。これら「涅槃像」、「涅槃図」は、陰暦2月(現在は3月)15日の釈尊の亡くなった日に、釈尊の遺徳奉賛追慕のための法会に使用され、これらの前で遺教経を読誦する。

名古屋市内には、涅槃図は多く見られるが涅槃像は少なく、調べたところでは、わずかに3箇所あるいは4箇所である。それらは、北から千種区の「大乗寺」、東区の「徳源寺」、それに熱田区の「大乗教総本山」の3箇所なのだが、これに入れるべきかどうかで悩んだ末に、千種区の「日泰寺」にある釈迦仰臥像も涅槃像のひとつと考え4箇所とした。

2 大乗寺(野天・石造涅槃像で名古屋一) 「大乗寺」は、地下鉄・星が丘から西へ向かって歩き、最初の角を右へ曲がると大きな石塔に寺名が書かれており、その背後に寺が見えている。坂を登るとやや左手に門が見えるが真っ直ぐの道もある。境内に入ると本堂が大きく正面に見え、背後の丘陵が墓地となっているのが分かる。注意してみれば、本堂の左後ろに涅槃像が見えている。階段状に整備された墓地の2段目にあたるだろうか。左か



大乗寺の位置

ら車でも上がれるスロープか、本堂左側の急な坂を登れば涅槃像のすぐ下に着く。さらに 1段上に上がれば間近に涅槃像に近づける。

花崗岩で作られた像が、同じく花崗岩で造られた基壇の上で横になっている。頭は西側

に向け、顔はやや上向きにして南 に向けている。

蓮をで使った枕と首の間に右手を差し込んでいる。左手は真っ直ぐ腰まで伸ばされているが、やや後ろへ下がっている。足は真っ直ぐに伸ばされ、足先はややハの字に開き加減になっている。身長は4~5気程あるだろうか。

基壇の正面には、右に弟子らが、 左には動物たちの泣いている様子の



大乗寺の入り口

レリーフがある。基壇の手前には、やはり花崗岩で出来た繁(台)が据えられ平たい香炉が置かれている。さらにその手前の床に仏足の黒い石が嵌めこまれている。



野外にあるだけ に、像に直に触れ ることが出来るし、 周囲を回ることも できる。足の裏を まざまざと観るこ とだってできる。

石の涅槃像



涅槃像の足裏

3 徳源寺 (ブロンズ製涅槃像で名古屋一)

「徳源寺」は、基幹バスの「徳川園新出来」停留所で下車して、西の方を見ると、いかにもお寺の塀と思しきものが見えるので迷うことはない。入口はバス通り側の北側と枝道に入った東側にある。

正門とおぼしき北側からひとけのない境内へ入る。右手奥に大きめの建物があり、やや左手奥にも建物がある。涅槃像のあるのは左手の建物である。

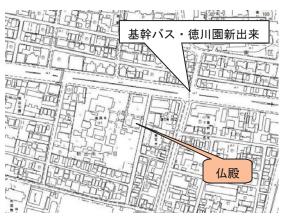


仏 殿

み、左手は真っ直ぐ腰の上に伸びている。身体と足は真っ直ぐに伸ばされ、両足はキチンと重ねられている。身長は1丈6尺というから5.3 にほどである。

背後のやや高い棚 にはおびただしい数 の木像(五百羅漢) が並んでいる。

白いコンクリート 製と思われる基壇の 正面には蓮 (ハス)



徳源寺と仏殿の位置

「仏殿」と書かれた額の掲げられた 建物の前へ行っても、始めのうちは暗 くて中の様子が分かりにくい。しかし、 西側正面の扉は大きく開いているので 中を覗くと、間近に大きな涅槃像が横 たわっていて驚かされる。

大きな像が頭を北に、顔を西に向け、 基壇の上で静かに横たわっている。像 はブロンズ製で黒光りして見える。右 手は布を巻いたような枕と頬の間に挟



涅槃像(背後に五百羅漢)

の葉があしらわれ、二人の僧が左右から手を差し延べている。その前には案が置かれ中央 奥に位牌のようなものがあり、常緑の葉を差した花瓶、蝋燭を立てた燭台、台に乗せられ た小さな器がそれぞれ一対、さらに中央手前に香炉が置かれている。天井からは四角い照 明具が下がっている。入り口に柵があるので近寄ることも出来ず、もちろん足の裏を観る ことも出来ない。

像は、道一和尚が発願し、浄財を募って完成させた。道一和尚は「梅干し和尚」とも言われたが、募材を集める度に戦争や風水害に遭い、その都度、募材のすべてを投げうち梅干しを購入して献納したことによるもので、三度目の募材で涅槃像の完成を見たという。

4 大乗教総本山(木造涅槃像で日本一)

「大乗教総本山」は、沢上陸橋から南に見 える大きな象の置いてある寺院としてよく 知られている。

大正3年(1914) 秋、名古屋に大乗教の 基礎となる仏教感化救済会を設立。

平成7年(1995)涅槃堂を建立し、涅槃像を安置。涅槃像は、長らく陸奥国分寺(仙台)の薬師堂に安置されていたものを陸奥国分寺から寄贈されたもの。元々は、約300年前にインドで制作され、ビルマ王国から大正天皇に友好親善の目的で贈られた仏像である。



大乗教総本山と涅槃堂の位置

涅槃像のある建物(涅槃堂)は、本堂のある場所から道路を挟んだ西に独立してある。 「涅槃堂」の額がある建物に入ると、明るく開放的な空間に像が横たわっており、間近に



涅槃堂

まで近寄れる。

像は、頭を西、顔は南に向いている。天井からは簾状の飾りが下がっており、胸から腰あたりに釜欄の布が掛けられているのが目を引く。枕と頬の間に差し入れた右手は、どこの涅槃像でも同じだが、肩のあたりに空間が大きいためにお疲れになるのではないかと心配になる。左手は真っ直ぐ腰の上に伸ばされ、足はわずかに左足が右足より後ろに下げられている。

足の裏までも近寄って見ることができるので、足裏の文様もはっきりと分かる。



涅槃像

66 ギあり、木造涅槃像では国内最大級と言われている。

基壇は木製で欄干状の飾りが付いている。基壇の手前には案が据えられ、その上に常緑を活けた花瓶と燭台一対に香炉、茶色の筒状の小さな入れ物が置かれている。

室内の片隅には解説書が置かれており、それによれば、 身長は5.6 に、蹠 (足裏) は



蹠(足裏)

5 日泰寺 (特殊な形態で名古屋一)



日泰寺と舎利殿の位置

理公使稲垣満次郎の努力により、日本への遺骨下賜が実現した。

明治33年(1900)、日本の使節団はバンコク王宮でチュラロンコン国王からご真骨を拝受した。ご真骨は、一旦、京都・妙法院に安置され、ご真骨を祀る寺院建立計画を協議した。意見が分かれたが、名古屋官民一致の誘

明治31年(1898)、インドのピプラーワーという所で釈迦の骨が発見され、伝説の釈迦の実在が証明された。インド政府は、舍利器とその他副葬品をカルカッタの博物館に納めたが、遺骨はタイの王室に寄贈した。

当時のタイ国王・チュラロンコン陛下は大いに喜ばれ、仏骨をワット・サケットに安置しお祀りしたが、一部は仏教国のセイロンとビルマに分与した。その折、日本のタイ国弁



日泰寺への参堂



舎利殿 (姫ケ池通交差点脇)

致運動が功を奏し、明治37年(1904)、 覚王山「日泰寺」が誕生した。

この寺院の特徴として、いずれの宗派にも属しておらず、運営は19宗派の管長輪番制の3年交代で住職を務める日本でも唯一の全仏教寺院として特異な存在となっている。

ご真骨は、霊場にあるガンダーラ様式の「奉安塔」に納められている。

そこへは、本堂のある境内から5分程

歩いた県道30号線の姫ケ池通交差点のすぐ脇である。





釈迦仰臥像 (涅槃像)

「奉安塔」は、土塀に囲まれた中にあり、正面にある通天門には柵があって中へ入れないが、その門からすぐのところに釈迦が仰臥した像と、その前で従者と思われる人物がひれ伏している像を拝観できる。一般的な涅槃像とは一風変わっており、同義で呼んでよいのか躊躇される。

なお、舎利殿への参道右には、日本の電力王といわれた福沢桃介の碑があり、また、霊場には松坂屋・伊藤家、豊田一門、滝兵、瀧定など名古屋の名門・名家の墓所がある。

さらには、本堂のある境内地と道一本隔 てた東側には、松坂屋初代社長・伊藤次郎 左衛門裕民によって構築された別邸「揚輝 荘」を観ることができるし、覚王山参道に は、最近、洒落た店が多く見られるのでひ やかしながら歩くのも一興である。



釈迦仰臥像 (涅槃像)・拡大

(3) なごや七福神

種 別 寺院・民間信仰

所在地・南区、中川区、中区、港区、昭和区

交 通・七福神ごとに参照

1 なごや七福神の由来

なごや七福神とは、名古屋市内にある7か寺を七福神の札所として定めた霊場巡りのことをいう。

いずれも真言宗に属する寺院で、開創は昭和62年(1987)である。毎月7日が七福神縁 日となっている。

2 七福神とは

七福神は「恵比寿・大黒天・毘沙門天・弁(辯)才天・福禄寿・寿老人・布袋」をいう。 また、七福神は、神道の神である「恵比寿」、インドのバラモン教の神である「大黒天、 毘沙門天、弁才天」、道教の神である「福禄寿、寿老人」及び中国仏教の僧侶である「布袋」が習合したもので、国際色豊かな神である。

なお、七福神信仰は、室町時代末期にはじまり、江戸時代に定着したという。

- ・「恵比寿」は、伊弉諾尊と伊弉冉尊の子で、日本固有の神道の神である。家内安全、開 運厄除、縁結び、身体健康、出世祈願、心願成就のご利益がある。
- ・「大黒天」は、もともととバラモン教の神が、仏教の守護神となった「天部(天界に住む神々をいう)」である。

もとはシヴァ神の化身マハーカーラ神で、日本神道の神、大国主命と発音が同じことから、大国主命と習合した。五穀豊穣、子孫繁栄、出世開運、商売繁盛、縁結びの神とされている。

・「毘沙門天」も大黒天と同じ「天部」で、四天王(四方を守る護法神)の一神であり「多 聞天」とも同一とされている。

もとはバラモン教のクベーラ神で、武道成就、降魔厄除、家内安全、夫婦和合の神とされている。

- ・「弁才天」は、「弁財天」とも表記し、七福神の中の紅一点である。「天部」に属し、 もとはバラモン教のサラスヴァティー神だった。 商売繁盛、芸事上達、良縁成就の神と されている。
- 「福禄寿」は、道教の神で南極星の化身の南極老人で、福、禄、寿の神とされている。
- ・「寿老人」は、福禄寿と同一とされる道教の神である。
- ・「布袋」は、唐の末期に実在したといわれる仏教の僧で、千客万来、家運隆盛、家庭円 満、商売繁盛の神とされている。

なごや七福神札所一覧

寺院名	尊 名	宗 派	所在地
笠覆寺 (笠寺観音)	恵比須	真言宗智山派	南区笠寺町上新町
宝珠院	大黒天	真言宗智山派	中川区中郷1
福生院	毘沙門天	真言宗智山派	中区錦2
辯天寺(弁天寺)	辯才天	真言宗智山派	港区多加良浦町
萬福院(万福院)	福禄寿	真言宗智山派	中区栄 5
興正寺	寿老人	高野山真言宗別格本山	昭和区八事本町
宝生院 (大須観音)	布 袋	真言宗智山派準別格本山	中区大須2



なごや七福神の札所の位置

なごや七福神の宝印帳

七福神巡りの順序はなく、どこから巡っても御利益は変わらない。 7回巡ると各札所特製の絵馬(市販していない)が 1 枚もらえる。 7 枚の絵馬を全部集めようとおもったら、 7 寺×7回で 1 枚。 7 枚ならその 7 倍で、都合343回巡る必要がある。

宝印帳は1冊1,000円で、どこの寺でも購入できる。御朱印は1回につき100円である。 毎年の正月に、名古屋三越栄店において7か寺がいっせいに集う「出開帳」が行われる。 ここを訪れと、一度に7か寺分の御朱印がいただける。

3 なごや七福神の各寺の概要

(1) 天林山笠覆寺 (通称 笠寺観音)

聖武天皇の天平5年 (733、一説には736年)、禅光が、呼続浜に打ち上げられた霊木を十一面観音像に刻み、その像を祀って天林山小松寺を建立したのがはじまり。



笠覆寺の位置

毎月18日には境内で縁日が開かれる。

その後2世紀以上を経て、寺は荒廃し、観音像は雨露にさらされるままになっていた。ある時、旅の途中で通りかかった藤原兼平(貞観17年・875~承平5年・935、従三位、宮内卿)が、雨の日にこの観音像を笠で覆った一人の娘を見初め、都へ連れて帰り、玉照姫と名づけて妻とした。この縁がもとになって、兼平と姫により現在の場所に観音像を祀る寺が建立され、笠で覆う寺、つまり笠覆寺と名づけられたという。

本尊は十一面観音であり、笠寺の通称や地名などもこの寺院名に由来している。



笠覆寺本堂



玉姫堂

(2) 如意山宝珠院(通称 中郷不動)

聖武天皇の天平元年(729)、加賀白山を開山した泰澄が開創した。本尊は薬師如来である。「心の寺」としてしられる。境内は名古屋市緑地保存地区に指定されている。



宝珠院の位置



宝珠院本堂



仁王門

(3) 如意密山福生院 (通称 袋町お聖天)





福生院の位置

福生院本堂

南北朝時代の元中3年(1386)、順誉が歓喜天(別名聖天、バラモン教由来の天部)を 祀るために愛知郡中村の地(現中村区)に開山したのがはじまりである。のちに、清洲越 しにともない、元和3年(1617)に現在地に移転した。袋町筋にあることから袋町お聖天 と呼ばれている。本尊は薬師如来である。





福生院山門

毘沙門堂

(4) 宝生山弁天寺 (通称 多加良浦弁天) 滋賀県竹生島の名古屋別院として大正 14年 (1925) 建立された。本尊は弁財天で ある。

弁才天は水に縁のある土地に鎮座する ことから、弁天寺のまわりには池がつくら れている。



弁天寺の位置



弁天寺本堂



独 鈷

(5) 成田山萬福院(通称 成田山栄分院) 当初、慶長年間(16世紀末~17世紀初頭)に 重秀により清洲に建立された。その後、清洲越 しにより南鍛冶屋町(現中区栄)に移転した。 昭和13年(1938)、成田山新勝寺から不動



萬福院本堂



萬福院の位置

明王を勧請し、山号を潮音山から成田山に 改称した。平成13年(2001)に現在地に移 転した。本尊は不動明王である。

(6) 八事山興亡寺

貞享3年(1686)、天瑞圓照により建立さ れた。寺号の正式名称は、八事山遍照院興正 律寺である。

尾張藩二代目藩主徳川光友の帰依を受け、 尾張徳川家の祈願寺として栄えた。一万点を 超す古文書は八事文庫として有名である。

東海地区に現存する唯一の五重塔(国指定



興正寺本堂五重塔

重要文化財)は、 文化5年(1808) に建立された。

総本尊の大日如



興正寺の位置

来は、光友が母の供養のためにつくらせたという、高さ3.6~2、 重さ25の銅製大日如来座像である。

平成20年(2008)、本堂北側に岐阜市重要建築物であった旧 日下部邸を移築した普門園がオープン。茶席の会場として利用 できる。

大随求明王は、通称「ぽっくりさん」として親しまれ、興正 寺は別名ぽっくり寺ともいわれる。

興正寺最大の行事は10月第3土曜日におこなわれる千燈供 養会。また、毎月5日と13日に縁日が開かれる。

(7) 北野山宝生院 (通称 大須観音)

寺号の正式名称は、北野山真福寺宝生院。通称大須観音。正中元年(1324)、後醍醐天 皇が尾張国長岡庄大須郷(現岐阜県羽島市大須)に北野天満宮を創建。元弘3年(1333) に同社の別当寺として僧能信が創建した北野山真福寺宝生院が大須観音のはじまり。本尊



宝生院の位置

は木像聖観世音菩薩立像。その後、清洲越しに ともなって、現在地に移転。



宝生院本堂

一万五千点をこえる大須文庫は有名で、真福寺本または大須本という。その中の国宝の 『古事記』は「真福寺本古事記」としてしられ、同書の現存する最古の写本である。

境内には、芭蕉の句碑や大正琴発祥の地を記念する大正琴碑があるほか、人形供養塔、 扇塚、歯々塚という供養碑がある。

毎月18日と28日に開かれる大須骨董市は有名である。



布 袋

大正琴発祥の地祈念碑

4 まとめ

七福神巡りは全国的に見られ、愛知県内では、なごや七福神のほか、東海愛知七福神、 三河七福神、南知多七福神、大府七福神、尾張七福神、高蔵福徳神、吉田七福神がある。

日本人なら誰でもしっている七福神霊場巡りが、市内にあることは意外としられていない。公共交通機関を使っても一日で7か寺が回れる。天気のよい日などには格好のお出かけスポット。七福神の御利益とともに、足腰の健康というおまけがついてくる。

〈コラム〉市・坊・里・町・巷・街。さて、これをどう読みますか?

わたしたちが普段、何気なく使っている「まち」あるいは「まちづくり」という言葉…。 実はいろいろな意味がある。

白川静の『字通』(平凡社)は、漢字の語源を読み解く名著である。この『字通』を調べると、「まち」の意味が実に多岐にわたっていることがわかる。

漢字のルーツは、古代中国の甲骨文字で、周のひとつ前の時代、商(日本では殷という)の時代、亀の甲羅や牛や鹿の骨に刻まれ、占いに使われた。商の時代は、祭政一致の時代で、まつりごとで何か意思決定する場合、占いがよくおこなわれた。

まず、「まち」と読む漢字に「市」がある。市とは、市をたてる場所を示す標識のことである。中国の古代では、まちは城壁に囲まれているのが普通で、城外の近郊の広場などを利用して、農業以外の目的で利用されていた。後に、人々が集まるところを市と呼び、住居地をさすようになった。今でも「市井」という言葉がある。市井はまち中という意味であるが、その昔、井戸があった場所に人々が集まったことから、まちという意味になった。

まちには「市」以外にも、おもしろい漢字がある。

たとえば、「坊」もまちと読む。坊は条里によって方形に区画された土地で、坊には門があった。実は、この形、後世にできた寺院の境内とよく似ていたことから、その主が坊主と呼ばれるようになったという。

「里」もまた、まちと読む。里は田と土が組み合わさった会意文字で、 $\stackrel{\cdot}{\text{H}}$ 社を祀る場所を意味した。そこは里人たちが、五穀豊穣を祈念して祭祀をおこなった聖なる土地であるという。後世、里は長さの単位となり、中国では一里は $500\,\%$ 、日本では約 $4\,\%$ の長さとなった。

「町」は、まちのなかで一番よく使われる漢字である。もともとの意味は、田と田の間の壁道をさした。後世、町は長さの単位となり、一町は 60 間、約 110 に。発音が同じことから、「丁」とも書く。また、町は面積の単位にもなり、一町は 10 段(反とも書く)、3000 をいい、約 100 2 。

「巷」もまちと読む。もともとは里中の道のことをいった。

「街」もまちと読む。街は道が四方に通じ、一定の区画のある街区をさした。

かつて、まちづくりといえば、「町づくり」と書いたり、「街づくり」と書いたりした。 しかし、この表記だと、どちらも道づくりになってしまい、人々が集まる、という意味が 失われてしまう。現在は、「まちづくり」とひらがなで表記するのがふつうとなり、町づく りや街づくりは使わない時代になった。

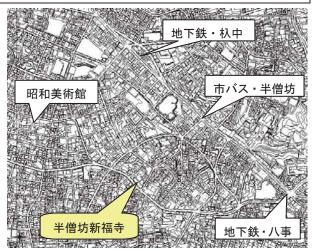
かつては、まちづくりといえば、道路や施設整備などのハードなまちづくりが中心だった。しかし、今日では、文化、歴史、伝統、景観、にぎわいなど、ソフトなまちづくりに 比重が移ってきた。わたしたちが取り組んだ、知られざる、忘れられた、秘めたる、隠れたる魅力発見も、そういった意味では、まちづくりの領域に入る。

(4) 新免政名って誰? 一八事に残る武蔵の碑

種 別	文化遺産(石碑)
所在地	·昭和区広路町松風園68 半僧坊新福寺
交 通	・地下鉄「杁中」または「八事」から約900元、徒歩14分、市バス「雲雀ヶ丘」
	または「南山」から300~200年、徒歩5~3分

八事と私中の間に半僧坊という地名が あるのをご存じだろうか。この地が、

「新免費名之碑」がある臨済宗方広寺派の半僧坊新福寺への参道入り口にあたることからこの地名が付けられた。この寺は明治18年(1885)に浜松市の大本山方広寺の別院として南大津町に創建され、明治43年(1910)に現在の地に移転した。この時、廃絶していた静岡県新福寺からもたらされた本尊阿弥陀如来の頭中には、



半僧坊新福寺の位置

1100年余り前に修法の護摩の灰から造られた観音菩薩像が納められていると伝えられている。

半僧坊の名の由来については、方広寺開山の無文元選聖鑑国師(後醍醐天皇皇子)が明からの帰途、嵐に会ってあわや遭難するかという時に現れ、助けた人物を半俗半僧の人として半僧坊と呼んだことに因ると伝えられている。このほか、その人物が常人の半分ほどの背丈だったことから、半僧坊と呼ばれたとの説もある。また、この人物は観音菩薩が姿を変えて現れた(権現)ものとも言われてもいる。

さて、新免政名こと宮本武蔵(天正12年・1584?~正保3年・1645)の碑は、以前は半



新福寺本堂



三世玄透和尚,四世燈外和尚碑

僧坊近くにあった曹洞宗の鳳凰山新豊寺に設置されていた。新福寺の阪上住職の話によると、この寺が廃寺となりそのまま放置されていたのを、先代住職が60年ほど前に新豊寺三世玄透和尚、四世燈外和尚の碑とともに引き取られたとのこと。

宮本武蔵は、寛永の頃(1624~1643)名古屋を訪れ、尾張藩士寺尾直政の依頼を受けて 弟子の竹村与右衛門をこの地にとどめたと伝えられている。そのため円明流は尾張藩とそ の支藩高須藩で盛んとなった。この石碑は、宮本武蔵こと新免政名の149年忌にあたる寛政 5年(1793)5月19日に円明流の市川六郎右衛門長之が門弟とともに供養のため建てたも のである。側面に燈外和尚による新免政名の履歴とともに円明の術についての三言二十句 が刻まれているが、この文言は難解なことで知られている。以下に記すので解読に挑戦し てみてはいかが。

円明術 妙無匹 照得失 鑑虚実 心機蜜 手眼佶 聞人栗 見者怵 勢未流 流彌溢 隔聲崋 冥骨秘 金烏疾 玉兎堲 百五豑 亗虧一 祭忌日 等命昵 <u>夔難悉</u> 錯戁<u>吉</u> (円明の術、妙匹無し、得失を照し虚実を知る。心機密にして手眼盛んなり。聞く人おののき、見る者怖る。勢未だ流れざるに流れ、いよいよ溢る。隔聲たかく、冥骨かぐわし、金烏疾く、玉兎いたり百五十年一を欠く。忌日に祭ること命昵に等し、つくし難きに於いて錯然としつつしむ)。※下線を引いた3文字は同意の字を使用

なお、新免政名は60余度の戦いで一度として敗れたことがないことから、ゲンを担い



新免政名之碑

でお守りにしようと墓石の一部を打ち欠こうとする不届きものが現れるとか。

半僧坊から南へと往年の参道を辿ると、隼 人池のそばの宝珠院では、名古屋市指定天然 記念物のイヌナシの木を見ることができる。

杁中から南山教会や南山学園の古風な落ち着いた建物を見ながら歩き、昭和美術館に立ち寄って茶道具を鑑賞し、ゆったりとお庭を眺めてからお寺を訪ねるのも一興であろう。お寺の近くの雲雀ヶ丘や南山にはおしゃれな飲食店も散在する。また、八事の街は興正寺にお参りをする善男善女や付近の大学の学生が行き交い賑わいを見せている。

(5) 名古屋廿一大師

種別	寺院
所在地	・中区、東区、北区、中川区、港区、熱田区、南区、瑞穂区、昭和区
交 通	・札所ごとに別図参照

1 名古屋廿一大師の概要

大師とは、中国と日本において、高徳な僧に対して、朝廷から贈られる尊称の一つで、多くは死後贈られる諡号である。日本の宗祖たちのほとんどは大師号を贈られており、真言宗開祖の弘法大師、空海(宝亀5年・774~承和2年・835)は延喜21年(921)に、日本天台宗開祖の傳教大師、最澄(神護2年・766~弘仁13年・822)は貞観8年(866)に、融通念仏宗の開祖の聖応大師、良忍(延久4年・1072~長承1年・1132)は安永2年(1773)に、浄土宗開祖の法然房源空(長承2年・1133~建暦2年・1212)は、500年遠忌が行われた宝永8年(1711)に送られている。以降、50年ごとに円光大師、東漸大師、慧成大師、弘覚大師、慈教大師、明照大師、和順大師、法爾大師という大師号を贈られた。浄土真宗開祖の見真大師親鸞(承安3年・1173~弘長2年・1262)は明治9年(1876)に、時宗開祖の証誠大師、一遍(延応1年・1239~正応2年・1262)は明治9年(1876)に、日本曹洞宗開祖の承陽大師、道元(正治2年・1200~建長5年・1253)は明治12年(1879)に、日本黄檗宗開祖、中国僧の真空大師、隠元(文禄1年・1592~延宝1年・1673)は大正6年(1917)に、日蓮宗開祖の立正大師、日蓮(貞応1年・1222~弘安5年・1282)は、大正11年(1922)に、それぞれ大師号が贈られている。

大師号を贈られた高僧はほかにもいるが、大師といえば弘法大師が真っ先に出てくるほど、日本人に親しまれている。四国八十八カ所をはじめ、弘法霊場は全国各地にある。

名古屋廿一大師霊場は、弘法大師の命日に当たる3月21日の「21」にちなんで、江戸時代に、名古屋城を中心とした真言寺院廿一カ寺を札所として定めたもの。第二次大戦による戦災を受けて途絶したが、昭和44年(1969)に復活。全行程は約64.7 * n。3回(計63回)巡ると水晶製の特別な念珠がいただける。宝印帳は1冊500円。御朱印は1回につき100円。なごや七福神の札所と重複している。





名古屋廿一大師奉納帳

名古屋廿一大師の札所一覧

番号	名 称	宗 派	所在地	備考
1	宝生院 (大須観音)	真言宗智山派	中区大須2	なごや七福神
2	七寺	真言宗智山派	中区大須2	
3	萬福院	真言宗智山派	中区栄 5	なごや七福神
4	延命院	真言宗豊山派	中区錦2	
5	福生院	真言宗智山派	中区錦2	なごや七福神
6	長久寺	真言宗智山派	東区白壁3	
7	東界寺	真言宗豊山派	東区出来町3	
8	常光院	真言宗智山派	北区山田町3	
9	護国院	真言宗智山派	北区楠町味碗2	
10	宝蔵院	真言宗智山派	中川区伏屋 2	
11	宝珠院	真言宗智山派	中川区中郷1	なごや七福神
12	弁天寺	真言宗智山派	港区多加良浦町	なごや七福神
13	弥勒院	真言宗豊山派	熱田区旗屋2	
14	喜見寺	真言宗智山派	熱田区神宮2	
15	地蔵院	真言宗醍醐派	南区呼続3	
16	笠覆寺 (笠寺観音)	真言宗智山派	南区笠寺町	なごや七福神
17	大喜寺	真言宗豊山派	瑞穂区大喜町	
18	海上寺	真言宗豊山派	瑞穂区直来町	
19	金龍寺	高野山真言宗	瑞穂区亀城町	
20	龍福寺	高野山真言宗	昭和区滝子町	なごや七福神
21	興正寺	高野山真言宗	昭和区八事本町	



名古屋廿一大師の札所の位置

2 名古屋廿一大師各札所の概要

- (1) 北野山宝生院 (大須観音) →なごや七福神の項参照
- (2) 稲園山七寺

創建は奈良時代の天平7年 (735)。本尊は阿弥陀如来坐像。





- (3) 成田山薫福院 →なごや七福神の項参照
- (4) 摩尼山延命院

本尊は薬師如来立像。清洲越しで名古屋に移転した寺。





- (5) 如意密山福生院 →なごや七福神の項参照
- (6) 東岳山 長久寺

創建は安土桃山時代の慶長5年(1600)。本尊は大聖不動明王立像。清洲越しで名古屋に 移転した寺。





(7) 長尾山東界寺





創建は江戸時代の享保11年(1726)。本尊は薬師如来立像

(8) 降華山常光院

創建は江戸時代初期の元和年間 (1615~1624)。本尊は阿弥陀如来。





(9) 味鏡山護国院

創建は奈良時代の天平17七年(745)。本尊/薬師如来。開基は行基。もとは法相宗。





(10) 雲龍山宝蔵院

室町時代の16世紀初頭の永正年間(1504~1521)に再興。本尊は木像地蔵大菩薩立像。通称伏屋地蔵。





- (11) 如意山宝珠院 →なごや七福神の項参照
- (12) 宝生山弁天寺 →なごや七福神の項参照
- (13) 花林山弥勒院

室町時代の天文7年(1538)再建。本尊は弥勒大菩薩。





(14) 雲龍山喜見寺

創建は室町時代の永正 15年 (1519)。本尊は十一面観世音菩薩。





(15) 海底山地蔵院

創建は鎌倉時代の弘長2年(1262)。本尊は銅像湯浴地蔵大菩薩





(16) 天林山笠覆寺 →なごや七福神の項参照

(17) 増益山大喜寺

創建は江戸時代の正法元年(1644)。本尊は大日如来坐像。





(18) 龍王山海上寺

江戸時代の寛永 16 年 (1639) 中興。本尊は薬師如来。通称 ちばな薬師。ちばな保育園併設。

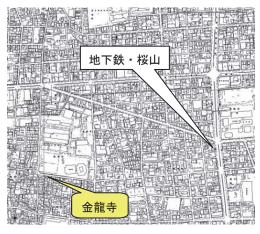




(19) 瑞穂山金龍寺

創建は昭和15年(1940)。本尊は長谷寺の本尊、木造十一面観世音菩薩の分身。高さ7 には名古屋一の大きさ。

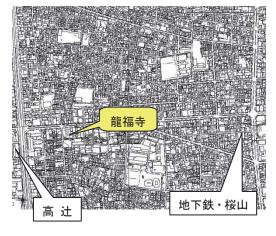




(20) 普照庵龍福寺

創建は室町時代の天文年間(16世紀・1532~1555)。本尊は地蔵菩薩。





(21) 八事山興正等 →なごや七福神の項参照

3 まとめ

弘法霊場は、七福神霊場、観音霊場と並んで全国的に見られ、愛知県では知多四国八十 八カ所霊場が有名である。

日本人なら誰でもしっている弘法霊場巡りが、市内にあることは意外としられていない。 一日乗車券を買えば、かなりの寺を巡ることができる。七福神霊場と重なっているので、 御利益は倍増。

〈コラム〉大名のルーツ 名古屋

愛知県は信長、秀吉、家康という三英傑を生んだ地としてしられている。信長は、那古野城 (現在の名古屋城の地にあった城、のちに家康がその上に名古屋城を築いた) で生まれたという有力な説がある。秀吉は、みなさんご存知の尾張国愛知郡中村 (現在の中村区) で生まれている。家康が生まれたのは岡崎である。愛知県には三英傑の家来がたくさんいて、三英傑が天下を取ると、家来たちのなかからたくさんの大名が生まれ、全国に散った。

名古屋市西区児玉町からは、信長の小姓となり、近江佐和山5万石、若狭一国の大名となり、安土築城の総奉行となった丹羽長秀が出ている。のち、長秀は秀吉と提携し、近江、加賀の一部をあわせた123万石の大名となった。しかし、長秀の死後、丹羽氏はふるわず、陸奥二本松10万石の大名となって、明治まで続いた。

だから、愛知は大名のルーツと呼ばれる。そのなかに、名古屋生まれの大名が何人かいる。

同じ西区の山田町比良からは、佐々成政が出ている。成政は信長の小姓あがりで、信長の親衛隊、黒母衣衆の筆頭に抜擢され、越前府中3万3千石、越中富山の大名となった。 秀吉と確執があったが、許されて肥後50万石の大名となった。のち、成政は一揆の責めを負って切腹している。

信長の筆頭家老、柴田勝家は、名東区猪高町の出身である。勝家は、信長の父の信秀、信長の弟の信行に仕え、いっときは信長と対立したが、のちに信長に信任され、越前北ノ庄(現在の福井市)75万石の大名となった。しかし、秀吉と対立して滅んだ。

加賀百万石の藩祖となった前田利家の先祖は、越前府中3万3千石、能登一国23万石、そして加賀、能登、越中にまたがる76万石の大名となり、豊臣政権の五大老の一人となった。利家の死後におきた関ヶ原の戦いでは、利家の嫡男利長は徳川方に組みし、加賀、能登、越中三国120万国の大大名となった。「加賀百万石」というのは通称で、正確には、加賀金沢102万5千石、越中富山10万石、加賀大聖寺10万石というのが実際で、全部たすと百万石よりも多かった。

秀吉と同郷(中村区)の出身が加藤清正である。清正は、母が秀吉の母、大政所の親戚筋にあたったことから、秀吉子飼いの武将となり、肥後半国25万石、関ヶ原の戦いののちは肥後熊本52万石の大名となった。しかし、二代目の忠広の時代に、お家騒動がもとで改易されている。熊本城を築城したのはこの加藤清正である。

秀吉の弟、秀長は秀吉の異父弟である。早くから兄といっしょに各地を転戦し、但馬一国 13万5千石、紀伊および和泉 64万石、大和郡山 116万石の大名になり、大和大納言と呼ばれたが、秀吉よりも早死にし、子孫がないためにお家は断絶している。和歌山城を築いたのは、この秀長である。

(6) 東区文化のみち 神話編

種 別 神社・木造建造物・街あるき

所在地 · 東区芳野 2-4-28 片山神社

交 通 ・名鉄瀬戸線「尼ケ坂」から徒歩2~15分圏内

那古野の街は、慶長15年(1610)に徳川家康より下された命により、名古屋城の築城に伴って人工的に造られた。いわゆる慶長17年(1612)から元和2年(1616)の「清洲越し」である。

もともとは熱田台地(名古屋台地)の縁へ50年以上前に今川氏親が城を築いており、今の二の丸あたりで織田信長が生誕している。その地に新たな城を建て直し、城を北端として碁盤割に区画し、城下町を清洲から移転したのである。

現代では陽当りの関係で南面を意識して建物は建てられるが、名古屋城は真南からやや東のほうへ若干振れている。碁盤割も同様で、その城下街の筋も名古屋城に沿って真南ではなく、やや東に振れて走っている。これは名古屋の暑い夏を乗り切る施策と考えられる。すなわち、この地は夏になると東南の風が吹くことから、城下の各屋敷に風を通せるようにと配慮したのではないかと推測される。

「撞木町から主税町界隈は当時の筋のままに今も配されており、主税町長屋門は江戸時代の当時のままの姿で、今もやや東に振れた筋に沿って建てられている。冬になると、北西の伊吹おろしが吹き荒れる。この長屋門の北には、片山神社があり、創祀が天武2年(684)または和銅2年(709)と言われている大きな杜がある。



主税町長屋門(江戸期)

江戸時代の晩秋から真冬にかけては伊吹おろしの風にのり、この杜の天狗が叩く太鼓の音が一晩中鳴り響いてきたという。



主税町長屋門上空から北、片山神社と市工芸の高木



片山神社の杜

この天狗伝説は江戸でもたいそうな評判となり、その調べが江戸に伝わって神田明神のお囃子となったと口伝されている(出典「東区の昔話と伝説」1973年。名古屋市東総合庁舎建設後援会(東区役所総務課内)発行)。



天狗の腰掛けたご神木址



片山神社(尼ケ坂)

片山神社は江戸時代には片山天神社(従三位)と呼ばれていた。祭神は蔵王権現、釈迦如



社殿にある双龍の彫刻

愛知県第一師範学校(旧愛知養成学校。現在の愛知教育大学の前身にあたる)のレンガ塀が今も残されている。これは明治4年(1871)に文部省が設立されて翌年に「学制」が流布され、翌1873年に築かれたものである。市工芸の北面には高木が今も残っており、天狗が棲んだ片山神社の杜を削って学校が建設されたと思われる。

来と千手観世音菩薩と弥勒菩薩の三位一体の変化神で現在・過去・未来を象徴する神であり、参拝すると、蔵王権現のお使いである龍神の見事な木彫りの下、過去と現在とを省み未来を祈る自分の姿がガラス窓に映るのと対峙することができる。

片山神社のすぐ東には名古屋市立工芸 高校(市工芸)がある。高校の西南角には、



市工芸の南西角のレンガ塀







たる貞享元年(1684)に新屋敷(別邸)をこの地に構えた折に、鬼門除けとして、三種の神

 東端の市義稲荷神社
 2年・1682)の翌々年に当

器の一つである八咫鏡を鋳造した伊斯許理度売命(石疑姥神)を祀ったのが始まりである。伊斯許理度売命は天孫降臨の際の付き添い神として地上に降りた神であり、天照大神の甥、つま

付き添い神として地上に降りた神であり、天照大神の甥、つまり弟の子どもに当たる神で治工・鋳造の神として知られてい

この神を祀る小さな社の近く に、現在では市立工芸高校が建

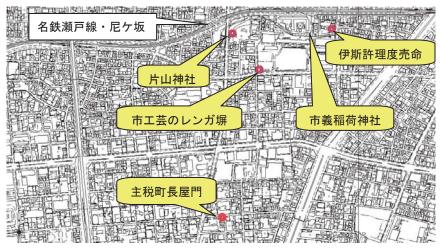
る。



市工芸の北面の杜の東端には、個人が建てた市義稲荷神社があり、その横の民家との狭間には伊斯許理度売命を祀る社がひっそりと佇んでいる。これは名古屋城の普請を監督した竹腰正信公(三万石)が、江戸大火(天和

伊斯許理度売命を祀る社と石碑

てられたのも、なにかの縁があってのことと思われる。すなわち、工芸の神の社のおひざ 元に、工芸の学び舎が築かれた形となっている。往時の建造物だけではなく、神話の時代



尼ケ坂~白壁(地図中央交差点)~主税町周辺

にもしばし思いを寄せながら、季節の風を感じつつ、現代の東区界隈のまち歩きをぜひ楽しんでいただきたいと願う。

〈コラム〉えっ! カゴメとメナードって、本社は名古屋?

ご存じない方も多いかもしれないが、れっきとした名古屋の会社。2つの会社は、500 行も離れていない。

1 カゴメ

カゴメの本社は2つあり、名古屋市中区錦三丁目14番15号と東京都中央区日本橋浜町 三丁目21番1号日本橋浜町Fタワーにある。

創業者の蟹江一太郎は、陸軍を退役する時に、上官から「農業をやるなら、洋野菜をやりなさい」といわれて、明治32年(1899)にトマトづくりに着手する。陸軍の象徴である星形を商標として使おうと考えたが、認められなかったので、三角形を二つ組み合わせ、大芒星にすることで、籠を編んだ時の目(籠目)を商標とした。これが現在のカゴメのルーツ。

明治 36 年 (1903) にトマトソースの製造に着手。のちに東海市に工場を建設。明治 41 年 (1908) にトマトケチャップとウスターソースの製造開始。大正 3 年 (1914) に愛知トマトソース製造を設立した。昭和に入ると、トマトジュースも発売。昭和 24 年 (1949 年)、現在のカゴメの前身にあたる愛知トマト株式会社設立。トマト食品のトップメーカー、ファン株主でもしられる。

2 メナード

日本メナード化粧品の本社は、名古屋市中区丸の内 3-18-15 (メナードビル) にある。「メナード」という社名は、ギリシャ神話に登場する美の女神「メイナド」から命名された。

創業者の野々川大介が、昭和 16 年 (1941) にダリヤ商事を発足させ、一般化粧品の製造販売を開始。昭和 34 年 (1959) に、ダリヤ工業 (現:ダリヤ) から訪問販売化粧品部門を分離。現在の本社は昭和 46 年 (1971) 新設。

昭和51年(1976)に三重県名賀郡青山町(現:伊賀市)にメナード青山リゾートを開設。 昭和62年(1987)に小牧市にメナード美術館を開設。小牧市にできたのは、創業者夫妻の 出身がともに小牧市であったため。

メナードといえば、CMに出てくる女優の岩下志麻が有名だが、契約以来、すでに 40 年もたっており、ギネス物といわれている。また、毎年おこなわれる「名古屋ウィメンズマラソン」のゴールドスポンサーになっていることでもしられる。

(7)鳴海宿十一ケ寺

種 別寺院、民間信仰所在地・緑区各所交 通・各寺参照

1 鳴海宿十一ケ寺

鳴海の歴史は、とにかく古い。鳴海は名古屋市という行政区に属しているため、名古屋の歴史は築城(慶長15年・1610)以後と単純に考えるのが一般的だが、この発想、そろそろやめにしてはどうか。築城以前の名古屋の歴史、たとえば熱田神宮の歴史はそれよりもはるかに古い。名古屋には400年の歴史がある、というよりも、1900年の歴史がある、といったほうがよいとおもうが、皆さんはどうおもわれるか?

鳴海には、飛鳥時代の朱鳥元年 (686)、草薙剣が熱田神宮に還座された時に、日本武尊の縁で鎮座されたといわれる成海神社がある。下って、律令時代には、五畿七道の一つ、東海道が整備され、鎌倉時代には、律令時代の東海道を再整備した鎌倉街道がつくられため、中世以前から人々の往来があった、と理解すべきであろう。

さらに下って戦国時代になると、鳴海の地は、織田氏と今川氏の勢力がぶつかり合う場所となり、双方が入り乱れて最前線の城や砦を築いている。永禄3年(1560)に桶狭間の戦いがあり、その前哨戦(丸根砦、鷲津砦の攻防戦)は鳴海付近でおこなわれている。

江戸時代のはじめにできた東海道は、鎌倉街道を再整備したものであり、鳴海には東海道五十三次の40番目の宿が置かれた。鳴海宿は、池鯉鮒(現在の知立)と宮の間に置かれた正規の宿場町であり、『図説東海道歴史散歩』(別冊歴史読本、新人物往来社)によると、人口3,643人、家屋847軒、本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠68軒という数字が残っている。なお、絞りで有名な有松は、正規の宿場町ではなく、間宿(宿場町と宿場町の間にあった休憩所)という位置づけである。

今回紹介する鳴海宿十一ケ寺は、名古屋城築城よりも古いものが圧倒的に多く、鳴海の古さを物語っている。鳴海には、十一ケ寺以外にも寺が多くあり、わらべ歌として「鳴海寺詣り歌」がある。その歌詞は次のとおり。

西より始まる寺参り 東海道の鳴海宿 寺銭用意しなされや 風呂敷かぶりの光明寺 花井小道の長翁寺 ちょっと入った東福院 お腹に仏の如意寺 出たり入ったり誓願寺 三猿かまえの圓道寺 縁の高い圓龍寺 まんまん曲がって万福寺 木林山を真二ツ 右にかまえる浄泉寺 ずーといけば瑞泉寺 中島橋の三つ又を 左に行けば浄蓮寺 右にとれば善明寺 平部はずれの金剛寺 松原越えの四本木の 左に頂く神明社 右に行けば諏訪神社の 中におさまる二位殿様 越えて絞りの有松の 左に高い天満社 右にとれば桶狭間 信長公の奇襲戦 義元公の首塚に 其の霊まつる長福寺

鳴海宿十一ケ寺は、通常の霊場巡りではなく、鳴海宿に集中している由緒ある寺をめぐってもらい、鳴海の歴史を深めてもらいたいという趣旨で、鳴海商工会が企画したものである。したがって、寺の宗派はばらばらである。

中华一	ケ寺の札所一	臣仁
	左去(1) 和 即一	=
5m/H1H1	ノマロングルルン	₩.

番号	名 称	宗 派	住 所	備考
1	桂林寺	曹洞宗	緑区鳴海町古鳴海	平清盛ゆかりの寺
2	光明寺	曹洞宗	緑区鳴海町丹下	丹下砦跡
3	長翁寺	曹洞宗	緑区鳴海町花井	織田有楽斎ゆかりの寺
4	東福院	真言宗智山派	緑区鳴海町花井	
5	如意寺	曹洞宗	緑区鳴海町作町	
6	誓願寺	西山浄土宗	緑区鳴海町根古屋	芭蕉ゆかりの寺
7	圓道寺	曹洞宗	緑区鳴海町根古屋	三猿の寺
8	圓龍寺	浄土真宗	緑区鳴海町本町	桶狭間の戦いで焼失
9	瑞泉寺	曹洞宗	緑区鳴海町相原町	
10	金剛寺	曹洞宗	緑区鳴海町平部	
11	浄蓮寺	浄土真宗大谷派	緑区相原郷	今川義元ゆかりの寺

2 鳴海宿十一ケ寺の巡り方

地下鉄桜通線野並で降りて、北からめぐるのがおすすめ。総延長およそ 7 * a、所要時間は 6 時間という。これなら、一日で回れる。あわせて、旧東海道の町並みや、戦国時代の
砦跡なども巡れば、鳴海の古さを肌で感じるかも。

3 鳴海宿十一ケ寺の概要

(1) 桂林寺

地下鉄・野並駅の南、古鳴海交 差点から斜め南東の道を上がった 右にある。

創立は平安時代末期の治承年間 (12世紀)である。平清盛が福原 に遷都した折、遷都の工事に加わ った者が仏像を持ち帰り、薬師堂 を建立したのがはじまりと伝えら れている。



本尊は東方薬師瑠璃光如来である。脇仏の阿弥陀如来は、平清盛から下賜されたという。

(2) 光明寺



(3) 長翁寺

名鉄・鳴海駅から北にある旧東海道の本町 交差点を西へ、作町の信号を右折れし、さら に三皿交差点を右折れした左側にある。鳴海 駅から約6000元。

室町時代の天正10年(1582)開山した。本 尊は釈迦牟尼仏である。薬師堂内にある織田 薬師如来は、信長の持仏だったものを、弟の 有楽斎が当寺に祀ったもの。

(4) 東福院



(5) 如意寺

東福院のすぐ南(約150年)にある。東福院の南西の道を南へとり、右回りで道なりに回りこむ。

平安時代の天喜4年(1056)に、もとは 真言宗寺院として開山した。室町時代の応 永5年(1398)に現在地に移転された。本 尊は如意輪観音である。 地下鉄・野並駅から南約1.3*。の三王町 交差点から斜め南東の道を約500%、常夜 灯を左へ回り込むように入る。

室町時代の弘治2年(1556) 開山した。 当初、鎌倉海道筋にあったのが移転している。本尊は子安地蔵大菩薩である。織田氏の丹下砦跡で、境内の銀杏は樹齢400年、墓地のまわりには清水寺貝塚がある。



長翁寺の前の道を南へ入ればすぐのところ(約150km)にある。

古くは鎌倉街道沿いにあったが、江戸時 代の寛永年間(17世紀)に現在地に移転し た。本尊は大日如来である。



(6) 誓願寺



(7) 圓道寺

誓願寺の北隣、坂道を北へ上がった所にある。

400年ほど前に瑞泉寺の住持が開山した。当初は猿堂寺と呼ばれ、本堂の屋根に、「見ざる・言わざる・聞かざる」の格好をした三猿がすえられている。

本尊は青面金剛明王である。

名鉄・鳴海駅から北にある旧東海道 の本町交差点を越した左側にある。鳴 海駅から約250%。

室町時代の天正7年(1579)に開山した。本尊は阿弥陀如来である。境内に芭蕉の供養塔、芭蕉堂がある。芭蕉の供養塔は、元禄10年(1697)10月に芭蕉が亡くなった翌月の命日に建立。芭蕉の供養塔としては日本最古のもので、名古屋市指定文化財となっている。



(8) 圓龍寺



圓道寺の前の道を東に約80~元行った 右側にある。

鎌倉時代の嘉禎年間(13世紀)に、 平重盛の末孫が天台宗善正寺として開 山された。親鸞の来訪を機に、浄土真 宗に改宗した。

本尊は阿弥陀如来である。永禄3年 (1560)の桶狭間の戦いの時に伽藍が 消失したが、寛永10年(1633)に現在 地で再興された。

(9) 瑞泉寺

名鉄・鳴海駅の北にある旧東海道の本町交差点を東に約4005元行き、扇川に架かる中島橋の手前左後ろにある。

室町時代の応永3年(1396)に開山した。本尊は釈迦牟尼仏である。山門は宝暦6年(1756)に宇治の万福寺(黄檗宗本山)総門を模して建てられた明朝様式で、愛知県指定文化財になっている。





(10) 金剛寺

瑞泉寺をさらに東へ旧東海道を約400~元行った左側にある。

江戸時代の宝暦10年(1760)に行者堂として創建された。本尊は行者菩薩で、明治時代に焼かれた鳴海焼の十六羅漢が寺宝として残っている。



(11) 浄蓮寺



前項の金剛寺をさらに東へ進み平部北信号を北へ左折、扇川を渡ったら東へ右折れし、扇川緑道を若田橋まで行き、北へ左折れし直進し、相原郷の信号を西へ左折れ、約150~元行った右側にある。

室町時代の天正3年(1575)に創建 した。桶狭間の戦い(永禄3年・1560) で討死した今川義元の菩提を弔うた

め、出家した家来が開山したもの。本尊は阿弥陀如来である。

〈コラム〉「松坂屋は松阪出身?」の間違い!

「松坂屋のルーツは松阪商人か?」といわれることが多い。しかし、松坂屋の「坂」と松阪の「阪」は、発音が同じでも字そのものが違うし、その歴史からいってもまったく違う。

松阪商人は、より広く、伊勢商人と呼ばれてきた。伊勢商人は、大阪商人、近江商人と 並ぶ日本三大商人の1つである。江戸時代の三都(江戸、大阪、京)に出店し、手広く商 売をおこなった商人のことをいう。

伊勢商人で一番有名なのは、江戸に呉服店「越後屋」を出店し後の三井財閥の基礎をつくった三井氏である。三井氏はもと武士で、南近江を支配していた六角氏に仕えていた。しかし、六角氏は織田信長との戦いに敗れ伊勢の松阪にのがれた。この時の当主を三井越後守高安という。その子の高俊が武士を廃業し、父の受領名 (室町時代から戦国時代にかけて大名が有力な家臣に対して授けた非公式な官名)をとって「越後屋」を屋号とした。

松阪市には、三井グループの家祖、高利が産湯をつかったと伝えられている井戸が残っており、その生家跡地は「三井家発祥地」(非公開)として、現在に受け継がれている。

松坂屋の創業者、伊藤氏の始祖も美濃出身の武士である。信長に仕え、伊藤蘭丸祐広と名乗った。しかし、三好氏との戦で討死。その子の蘭丸祐道(森蘭丸とは別人)は、信長の小姓の一人となった。しかし、天正10年(1582)、本能寺で信長が討たれると、祐道は浪人となり、名も源左衛門と改称し、清洲で商人になった。その後、名古屋城の築城にともなう清洲越しで、慶長16年(1611)、名古屋の本町で 呉服小間物商「伊藤屋」を創業した。ところが、この祐道は、元和元年(1615)におきた大坂夏の陣で豊臣方に組みし、そこで討死してしまった。その結果、店は閉店。

祐道の次男、祐基は、万治2年(1659)、茶屋町(現愛知県産業貿易館付近)に呉服小間物屋「伊藤屋」を復活させた。祐基は、次男であったため、それ以降、伊藤次郎左衞門を襲名することとなった。「伊藤屋」はそのご発展し、尾張藩の御用商人となった。延亨2年(1745)に京都に進出。また、明和5年(1768)に江戸上野にあった「松坂屋」を買収し、同店を「いとう松坂屋」と改称した。この時、「松坂屋」という屋号は、江戸市中に知れ渡っていたため、「伊藤屋」と「松坂屋」をたして二で割った「いとう松坂屋」と名乗った。この江戸にあった「松坂屋」というのは、伊勢の白子出身の伊勢商人、太田利兵衛が宝永年間(1704~1711)に創業したもので、それを買収したことが「松坂屋」は伊勢商人、松阪商人がつくった、という誤解を生んだ理由の一つになっている。

明治になると「松坂屋」はますます発展し、明治8年(1875)、大阪にあった「ゑびす屋 呉服店」を買収し、同店を「ゑびす屋いとう呉服店」と改称している。さらに、明治14年(1881)、茶屋町に伊藤銀行(そのご東海銀行、現三菱東京UFJ銀行)を開業している。明治43年(1910)、「松坂屋」が法人化され「株式会社いとう呉服店」が設立した。この時、栄交差点の角地に、名古屋初の百貨店を開業した。大正14年(1925)、栄交差点の角地にあった本店は、現在地に移転した。この年、全店の名称を「松坂屋」に統一した。

参考 『松坂屋百年史』

(8) 名古屋一の観音像

種別	寺院
所在地	・瑞穂区亀城町5の31 金龍寺
交 通	・市バス「滝子」から南へ350 気、徒歩7分
	・地下鉄「桜山」⑤番出口を出て、南の信号からまっすぐ西へ約 700 🛴 🤇
	徒歩 11 分

1 名古屋大観音

高野山真言宗瑞穂山金龍寺という厳めしい名前から、大きなお寺と思い込んで行くと、うっかり通りすぎてしまいそうになる。この寺院は、名古屋市立大学の経済学部と教養部のある敷地の南西角にあるのだが、遠くから屋根が見えるわけでもなく、郡道の意外と多い交通に気を配りながら歩いてゆくと、見過ごしてしまいそうになる佇まいだからである。



金龍寺の北側入口

お参り下さい」という張り紙があるので、カラカラと扉を開けて中へ入る。まさに民家の 玄関を入る感じである。

中へ一歩足を踏み入れると自動的に室内 照明が灯る。最近のお寺はハイテクなのだ。 最初、大広間が目に入る。しばらくして、 やや薄暗い中に右を見て「あっ」と驚く。 黒々とした大きな像が頭の上から覆いかぶ さるような間近に立っておられるのに驚か される。目が慣れてくると、 雪洞の明りの 中に色々なものが浮かび上がって見えてく る。



金龍寺位置図

正面入口は、お寺の東側にある細道にあるが、北側の「大観音」と書かれた大きな提灯の下げられた門の方が眼に入るだろうからそちらから入ることにする。門を入ると数体の地蔵が両側に並んでいる。右 奥に納骨堂があり、左側には小坊主の看板が立って道案内をしてくれる。小坊主の先には民家の玄関のような入口がある。「どうぞ



民家の玄関のような入口



名古屋大観音像

ご本尊の両脇には五色不動明王が立っているのが分かる。ご本尊の前には 小さな金色の多宝塔があり、さらにそ の前には供物が置かれている。

何はともあれご本尊の大きさには圧倒される。高さが7.6 に、光背が9 にあるといい、まさに名古屋一の大観音と言われるのがうなずかれる。

この十一面観世音菩薩は、大和長谷 寺の分身ということである。これには ある話がある。

金龍寺が開基したときの初代和尚・ 近藤堯常は、60歳のとき昭和28年 (1953)、大和の長谷寺で21日間の寒 修行をし、その結願の日に不思議にも 長谷寺の事務長・松浪玄明大僧正と同 じ夢を見た。それはご本尊十一面観世 音菩薩から「長谷寺にある千古のクス

ノキで我が分身を造立せよ」というものだった。この奇譚に従い霊木のクスノキが金龍寺に運ばれ、境内で彫刻され昭和31年(1956)10月に完成したというのである。

多くの寺院ではご本尊は遠くにあるものだが、ここでは間近に仰ぎみることができ、さらに悩みのある人は、観音様の大きな足をさすることだってできる。

案内書によれば「心の充実をはかりたい人は、大観音の息のかかる足元で座り続けてください。気迫が満ちてくるはずです」とあるが、まさにありなんと思える。また「願いのある人は、大悲十一面尊のご真言「オン マカ キャロニキャ ソワカ」を唱えつつ周囲をめぐってください。あなたの花がひらいてくるはずです」とあり、お百度が踏めるように大

観音の数珠と同じ繰り珠が欄干に設置してある。

大観音の前を進み庭に出ると堯常大和 尚と書かれた台座に立つ像がある。左へ 進むと「金龍密寺」の扁額の掲げられた 本堂の正面に出る。

なお、案内書によれば、内陣くぐり・ 瞑想・お百度を行うのは、毎月第一日曜 日、18日、21日、28日と決められてお り、その他の日は予約が必要とのこと。



本 堂

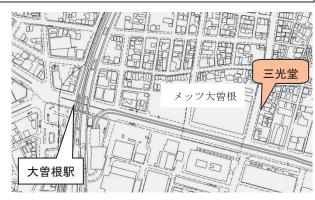
(9) 万年筆インクの「名古屋シリーズ」

種別	産業
所在地	・東区矢田 5-1-17 ㈱三光堂
交 通	・JR・地下鉄・名鉄の各「大曽根駅」から東へ約 300 仁、最初の信号を
	北へすぐ、徒歩5~6分

「名古屋シリーズ」

「多くの電車や車が行き交う『交通の要 所』大曽根は、昔から名古屋の北の玄関 とも言われ、名古屋ドームを中心に発展 中の町ですし

この文章は、万年筆用インクの「名古 屋シリーズ」のひとつにある「大曽根ブ ルー」というインクの説明書に記されて いる文章から引用したもの。



三光堂の位置図

「名古屋シリーズ」とは、名古屋の主だった名所 13 箇所にちなんだ色を持ったオリジナ



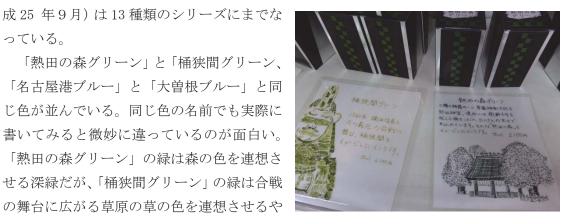
ル万年筆用インクのこと。名所 13 箇所の場所とイン クの色は、熱田の森グリーン・名古屋港ブルー・徳 川園牡丹・名古屋城セピア・四間道ブラック・鶴舞 ブルー・桶狭間グリーン・白壁グレー・東山グリー ン・大曽根ブルー・大須レッド・錦三ブラックパー プル・中川運河ブラウンである。

これを発案したのは、大曽根から程近い文房具 店・三光堂で、それぞれに添えられた説明文と絵は 店主の娘さんの筆だという。

万年筆インク「名古屋シリーズ」 名古屋の名所として最初に思いついたのが「熱田の 森グリーン」だったという。次いで「名古屋 港ブルー」…と新作を加えてゆき、現在(平

っている。

「熱田の森グリーン」と「桶狭間グリーン、 「名古屋港ブルー」と「大曽根ブルー」と同 じ色が並んでいる。同じ色の名前でも実際に 書いてみると微妙に違っているのが面白い。 「熱田の森グリーン」の緑は森の色を連想さ せる深緑だが、「桶狭間グリーン」の緑は合戦 の舞台に広がる草原の草の色を連想させるや や明るい緑である、といった具合だ。



「桶狭間グリーン」と「熱田の森グリーン」

2 三光堂

三光堂を訪ねるのにあたって、ある人に「万年筆を扱っているお店を知っている?」と聞くと「ずいぶん昔からの店」という答えだった。店舗で永井誠さん(代表取締役)にお聞きすると、なるほど老舗だということが納得できた。

三光堂の始まりは、もともとあった三光堂本店から昭和3年(1928)に暖簾分けしても

らい、分店として鶴舞公園前に店を始めたという。ところが戦災を受けたために、昭和20年(1945)に、現在の地である大曽根に移ってきたのだという。店内には、昭和5年(1930)当時の店舗を写した白黒写真が飾ってあった。巨大な万年筆が煙突のように立つ奇抜で、今見ても斬新な看板だ。

店内には、内外の万年筆が所狭しと並んでいる。一時期忘れ去られたような万年筆だが、最近また息を吹き返し、ちょっとしたブームになっているという。

それらを見せていただいて気がついたことがある。 万年筆のペン先のデザインである。かつて万年筆の先端はペン先丸見えが定番だった。ところが1960年代アメリカのパーカーがまるでロケットをイメージさせるようなペン先の見えない万年筆を発表して以来、ほとんどのメーカーが同様のデザインを採用し、それが当たり前になってしまった。ところが三光堂で見せてもらった万年筆は、1本を除いてすべてが昔のように金色のペン先が露出するデザインに戻っていた。



店内の様子

さらに奥の半分ほどには一般的な文具も並んでいた。永井さん親子の人当たりのよい応対とあいまって敷居は高くないと感じた。



鶴舞公園前にあった三光堂分店



現在の三光堂

だけでなく万年筆愛好者なら欲しくなるような 関連グッズも並んでいる。



店内最高額の万年筆

店内をぐ るりと見渡 すと、ペン

(10) トイレにもなるマンホール

種別	産業
所在地	・名古屋市内全域 (帰宅困難者用施設周辺、市立小学校周辺など)
交 通	・市内各所

1 トイレにもなるマンホール (* 印の付いた写真は、「名古屋市上下水道局」の提供)

マンホールがトイレになるからといって、ご自分の家の前のマンホールを使わないでいただきたい。ある設備の施された一部のマンホールに限られるからである。

アメンボ (名古屋市上下水道局のイメージマーク) がデザインされたお馴染みのマンホールなのだが、蓋の一部に黄色い文字で「震災用」と書かれているのがそれである。名称





震災用マンホール蓋

蓋を開けた震災用マンホール*

は「震災用マンホール」 というのだが、蓋を開 ければ落下防止用の格 子があり、そこに簡易 トイレを据え付ければ 緊急時のトイレに早変 わりする。避難所およ び帰宅困難者用施設

(ささしまライブ、ノ

リタケの森、金山駅など) の周辺道路に 設置されている。

またこれとは別だが、市立小学校の周 辺道路または敷地内に設置されている 「地下式給水栓」は、災害時に応急給水 を受けることのできるものである。蛇口 は小学校に預けられている。非常時に備 え、一度確認しておくことをお勧めする。



地下式給水栓*

2 四角くてもマンホール?

ところで、マンホールは「人孔」ともいう。「マン man (人)」の「ホール hole (孔)」というから、人が入れる大きさの穴(孔)があるなら丸くなくてもよいと思うが、はたして消火栓のような四角でもマンホール蓋と呼んでよいのだろうか。名古屋市上下水道局に訊ねてみた。消火栓なら消防局じゃないかとお思いになるだろうが、下水道局なのである。すると、正式には「(消火栓)鉄ふた」ということで、「(下水道用)マンホールふた」とは区別されて呼ばれていることが分かった。

名称は区別されても、いずれにも表面には様々なデザインが施されているのは同じである。デザインは、見た目を楽しませるだけでなく、機能面にも配慮されている。平成4年 (1992)に、下水道供用開始80周年を記念して公募により決定したアメンボのデザインは、

自動車のスリップに対する効果が飛躍的に改善されたという。普段気にもしていない蓋も 時代とともに進化しているのである。







下水道用マンホールふたの変遷







消火栓鉄ふたの変遷

また、様々な節目には記念の蓋がデザインされている。 平成元年 (1989) 開催の「世界デザイン博」を記念した マンホール蓋には、市内各所の名所がデザインされた。

平成24年(2012)度には、下水道供用開始100周年を 記念し、100周年のシンボルマークと納屋橋を名古屋市



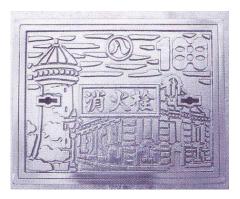
上下水構想の「みずの架 け橋」としてイメージし たデザインマンホール 蓋を作製し、順次設置し ている。

さらに、平成 26 年 (2014) に水道給水 開始 100 周年を迎え

下水道供用開始100周年記念 るにあたって記念の 消火栓ふたが デザインされた。これには100周年の シンボルマークと水道のシンボルである東山給水塔 および鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所があしらわれ ており、平成25年(2013)、市内各所の歩道上100 か所に設置された。



世界デザイン博記念の蓋



水道給水開始 100 周年記念の蓋*

(11) 小さなブックカフェ

種 別	産業
所在地	・昭和区伊勝町2-88 仙松院前
交 通	・地下鉄「名古屋大学」①番出口から約 900 な、徒歩 14 分
	・市バス「前山町」下車、北東へ約 150 気、徒歩 2 ~ 3 分

1 はじめに

最近、すべてが世俗的になってしまったとお嘆きのあなた。もっとアカデミックなものがあっても良いのではとお考えのあなた。そんなあなたにお知らせしたい場所がある。

コーヒーなどを飲みながらゆっくりと本が読めるブックカフェは、東京や大阪では当たり前である。それが名古屋にもあったのである。それも名古屋大学のすぐ近くに…。



ブックカフェ「リチル」の位置

ただ、店に行くにはチョット迷うかもしれない。周辺が住宅地で喫茶店などあるように 思えないからだ。地下鉄・名古屋大学駅から歩く人は、長い大学沿いの道を歩いた後に住 宅地に入り戸惑う。しかし、仙松院という寺の前と覚えておけば間違いがない。

2 古書書房 リチル

普通の喫茶店のつもりで店内に一歩足を 踏み入れると、ちょっと雰囲気が違うこと に気付く。さほど広くない室内にテーブル が5つあるだけである。

カフェだから当然コーヒーが飲める。それが本格的なのである。手造りのメニューにはコーヒーなどの丁寧な説明もある。

定食やデザートだってあるし、ビールも 飲める。後で知ったが、定食や菓子類は料 理好きな奥さんが作っているとのことだっ



リチルの店内

た。そういえば本格的コーヒーに添えられてきたクッキーはとても美味しいものだった。



ブックカフェだから、もちろん本が置いてある。椅子に座ってコーヒーを飲みながら、改めて周りを見渡すと店の三分の一ほどの面積が本棚である。古書を扱っているということで本が雑多に並んでいる。最初に目に飛び込んできたのは、『ハリーポッター』とか『ドリトル先生』といった子供向けの本である。しかし、気をつけてみれば分類がさ

れている。その分類がユニークなのである。分類表が小さな黄色い紙に書いて棚に置いて あるのだが「山と森」、「海と水」、「空・宙」かといえば「吸血鬼・怪物・魔女」、「夢と迷

宮」…などとあり、どんな本が置いてあるのかと気になる。大学近くにあるだけに「大人のための哲学」、「世紀末」、あるいは「都市」、「路地」などの分類もあって、アカデミックとは言いすぎになるかもしれないが、それぞれにそれなりの本があるのはさすがである。

本はテーブルに持って行って自由に読むことができる。足を伸ばして本に目を通そうとしてテーブルの下が足踏みミシンの台だとい



本 棚

うことに気がつく。ミシン本体はカウンターの上に乗っており、さらにその横のガラスケースにはカメラや食器、その他ガラクタが並んでミニ骨董屋の佇まいもあることに気がつく。棚の上とか、天井から下げられたものもあって、それが店内の独特の雰囲気を醸し出

している。



階段もにある本棚

本を交換しに本棚へ戻ると、2階へ上がる階段にも本棚が並んでいることに気が付いた。2階はご夫婦の居室で立入禁止なのだが、階段部分の本は自由に閲覧できるようになっている。広くない店内だが、想像以上に本が多いのに驚く。

「本を売りたいのだが…」という客の声が聞こえ、 店のご主人が気軽に受け入れている。昔、本に関 係した仕事をしていたということなので、それな

りに目利きなのだろう。「他の古本屋さんでは滅多に出ない初版本や珍本などが入るのがこの店の特徴です。でもタイミング次第ですがね…」という。色々とお聞きしている間も、静かに本を読んでいる客がいた。我々みたいに落ち着きのない客は店の邪魔者になったに違いない。静かに退散することにして、見つけた本を買い求めた。店で飲食した人には1冊10円の割引があるといい、栞も挟んでくれた。小さなサービスがなぜか嬉しい。

店を後にして、また行ってみたいという気持ちになったのは、可愛い奥さんと優しそうなご主人との息の合った応対だったろうか。

(12) 建中寺にある「蒙古襲来絵詞」

種	別	文化遺産
所	在地	・東区筒井1-708-1 宗教法人徳興山建中寺
交	通	・市バス「東区役所」下車すぐ

建中寺には尾張徳川家から請来した数々の宝物がある。その一つに「蒙古襲来終罰」がある。日本史の教科書ではおなじみの絵巻であるが、原本は鎌倉時代の肥後の国御家人であった竹崎季長が作成したもので、文永、弘安の役の様子が描かれている。これは元寇の戦に参加した御家人が自身の戦功を報告するために作られたものである。

文永の役は文永 11 年 (1274) 秋、元軍は 軍船 900 隻に 28,000 人の兵士を乗せ博多湾 に上陸した。鎌倉幕府軍と激しい戦をした がその日のうちに船に引き揚げた。その夜 から台風による嵐のため元軍は全滅した。



建中寺の位置

また、弘安の役は弘安4年(1281)、元・高麗軍と元・南宋軍は合わせて4,500隻、14,000人の軍勢により再び博多湾に侵入したがここでも台風により全滅した。

江戸時代、新井白石が著した「本朝軍器考」に紹介され、識者の間で閲覧したいとの声が高まり、細川家の家臣、大矢野家の所蔵であることが分かった。寛政5年(1464)春、藩主細川斉滋の参勤交代の折に江戸に持参され、尾張藩主の嫡男徳川治行と白河藩主松平定信のもとで摸本が作られた。この建中寺本は寛政7年(1466)10月に神谷元秋の筆によって完成するが、この間に治行が逝去したため菩提寺の建中寺に奉納された。原本は細川藩により第一次修復される以前は、ばらばらになっていたらしくこの摸本も成巻以前のものを原本としているため欠落も多く配列も異なっている。また、絵二巻と詞書一巻は別々に成巻されているので、原本発見当時の状態を考える上で重要である。

その後、原本から全部で40種ほどの摸本が作られたようであるが、原本は宮内庁、尚蔵





同時期に開催された建中寺宝物の様子

館にある。今回、建中寺宝物展(会場は同寺徳興殿1、2階)に合わせてこの絵巻が公開されたが、平生は徳川美術館(名古屋市東区徳川町 1017、 Tel:052-935-5262、建中寺から北へ徒歩約10分)に寄託されている。





竹崎季長の館における一場面



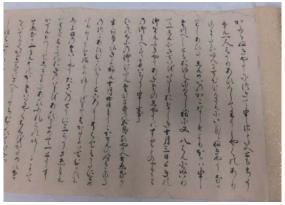
博多海岸に上陸し勢揃いした蒙古軍



蒙古軍の用いた新兵器で鎌倉武士は大いに苦戦した



竹崎季長奮戦の図



(13) 河童伝説が伝わる塩竈神社と笈瀬本通商店街

種類	列	神社、建築物
所在地	地	・中川区西日置 西日置商店街
		・中村区椿町・太閤3あたり 笈瀬本通商店街
交 ì	通	・名鉄本線「山王」から北東へ約600 元、徒歩9分
		・地下鉄・JR「名古屋」太閤通口から南西へ約300 仁、徒歩5分

1 塩竃神社と西日置商店街

名古屋市中川区西日置、西日置商店街の一角にある塩竈神社は「安産」のご利益があると言われている。

この神社の由来は、慶長 15 年 (1610) に徳 川家康から諸大名に名古屋城築城が命ぜられ た際、奥州国の武将岩田籐忠公が名古屋城築 城工事安全・無病息祈念し、奥州一之宮塩竈 神社の御分霊を尾張国に迎えられたことによ る。当初は名古屋城内に祭られていたが、お 城の完成に伴い、天保 6 年 (1835) に西日置 に遷座され、現在に至っている。



西日置商店街の位置

かつては近くに入江があり、堀川や運河での航行安全を願う御利益がある海の神様でも ある。堀川の開削工事を進めた福島正則は手水石を奉納したが、正則は元豊臣家の家臣で あったので手水石は瓢箪型に掘られている。



塩竈神社入口



塩竈神社

また、この辺りには河童 (カッパ) にまつわる伝説があり、塩竈神社には河童の神様として「無三殿社」の像がある。この神様は妖怪としてではなく、痔を治す神様として鎮座していて、頭にひしゃくで水を掛けて治癒の願いを込めている。

河童は日本全国でそれぞれの地方で独特の呼び名があって、名古屋地方では以前は無三 殿さんと呼ばれていたが、しだいに河童という呼び方に変わってしまった。

延宝年間(1673~1681)に尾張藩の武将松平康久入道無三が社殿を改修したが、この入道無三の屋敷が、江川・笈瀬川合流地点(山王橋の西北角)にあり、無三殿と呼ばれていて、その周辺の湿地地帯の水門近くに河童が住んでいた。この河童は川神さまとして崇められ、

「無三殿大神」として祀られるようになったという言い伝えがあるが、多くの庶民は「むさんどさん」と親しみを込めて呼んでいた。



むさんどさん



塩竈神社のある西日置商店街

2 笈瀬本通商店街

河童にまつわる伝説は、中村区にもあり、「笈瀬本通商店街」では河童がシンボルになっている。昔、笈瀬川に子供好きのカッパが住んでおり、この河童が力持ちの男の子に変身する特技があり、ある日、川でおぼれた子供を助け、「人助けの河童」と呼ばれたという伝説がある。北から南へと流れる笈瀬川と江川(現在の市道江川線)・堀川は露橋あたりで結ばれていて、笈瀬川にも河童伝説ができたと思われる。笈瀬川が笈瀬通に姿を変えたと



笈瀬本通商店街の位置

ころにある笈瀬商店街は、人助けする河童伝説を生かし、家計を助ける商店街を目指して 「河童商店街」として商店街活性化を進めている。

笈瀬本通商店街振興組合によって「河童像」が商店街に設置されているが、その他、地元の公職者に寄贈された「河童像」も商店街の通りにある須佐之男神社前に設置されている。



須佐之男神社前の「かっぱ像」



笈瀬通交差点の「かっぱ像」



(14) 意外な出会い 一 鉈薬師 円空の世界

種 別 民間信仰	
所在地	・名古屋市千種区田代町観音道西 13-1
交 通	・地下鉄「覚王山」下車①番出口から北へ約700 た、徒歩11分

タイから贈られた仏舎利を安置するため 創建された超宗派の覚王山日泰寺は、毎月 21日の縁日の賑わいでも知られている。こ の日には、覚王山通から続く参道や境内に 食べ物、衣料、植木などを商うさまざまな 屋台が立ち並び、行き交う人々の波は壮観 ともいえる。

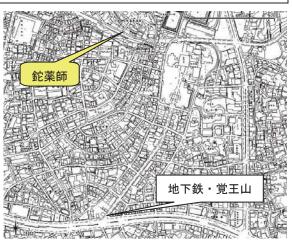
その日泰寺の西北 200 にほどの地に、日 泰寺の縁日のみに開かれ十二神将像など 17 体の円空仏を拝観できる医王堂、通称鉈 薬師がひっそりと佇んでいる。敷地への入



日泰寺の縁日の風景

のという。内藤東甫はその著書『張州雑志』の 中で、張氏は堂内には位牌を安置し、付近に墓 を営んでいたと記している。

張振甫は、明朝の滅亡後日本に亡命した帰化 人で、明の王族という説もあるが、出自を語っ ていないので定かではない。長崎で医術を修め て京都で開業し、尾張藩初代藩主徳川義直の知 遇を得て侍医となるよう求められた。しかし、



鉈薬師の位置

り口には立派な門が構えられており、その両 脇に中国の文官風の石人が佇立している。門 を入り少し行くと、右手に「医王堂」の扁額 がかけられたお堂が目に入る。

樋口好古の「那古野府城志」に拠ると、このお堂は、張振甫が尾張藩2代藩主徳川光友の援助を得て、上野村の荒廃した陽徳院に安置されていた薬師如来像を寛文9年(1669)に領地である振甫山に移した際に建てたも



医王堂(鉈薬師)の門と石人

多くの人の治療ができなくなるからと固辞し、城下の堀詰町(現西区)に屋敷地を賜り必要な折に出仕することとなった。後に徳川光友から上野村に領地を給せられ居住したため、その地が後に振甫町と命名されることとなった。医王堂の名は、張振甫が名医として評判が高かったことに由来する。



門扉の三葉葵の紋

明治維新を経て、このお堂は張氏の手を離れ、明治 42 年 (1909) に現在地に移築された。その折に尾張徳川家の 菩提寺建中寺の塔頭の門を譲り受けて敷地の入口としたと 伝えられており、このことを証するかのように門の扉には 木彫の三葉葵の紋が取り付けられている。

堂内は黄檗式敷瓦平土間となっており、正面の壇上中央 に薬師如来坐像、向かってその右に日光菩薩立像と阿弥陀

如来坐像、左に月光菩薩立像と観音菩薩坐像が安置されている。本尊は、陽光院に伝来した平安時代末から鎌倉時代の作といわれる寄木造りの半丈六(高240 キン)の薬師如来坐像である。堂内両側に設けられた壇上には、右側の奥から、子・丑・寅・卯・辰・巳像の6体が、左側の手前から善財童午・未・申・酉・戌・亥の各像が配されている。十二神将は、薬師如来とその信者を守護する天部の神で、薬師如来



医王堂 (鉈薬師)

の 12 の大願に応じて 12 の方角を守る。そのため十二支を割り当てられている。自分の干支の神将に祈りを捧げている方が多いようである。

本尊を除くこれら 17 体の像は、円空が鉈で彫ったと伝えられる作である。円空は江戸時代前期の僧で、美濃(現岐阜県)に生まれ、西は大和(現奈良県)から北は蝦夷(北海道)まで行脚し、独創的な像を各地で制作した。現在 5,000 体以上の作が確認されているが、特に愛知県と岐阜県に多く、名古屋では荒子観音や龍泉寺に多くの作品が残されている。簡素な表現ながら表情豊かな円空仏のファンは多く、海外でも評価されている。版画家の棟方志功がこのお堂を訪ねた折、十二神将の辰の像を見て感激のあまり抱きついて涙を流したという。なお、円空仏の写真撮影は禁止されていることから、ここでは紹介できないので、ぜひ実物をご覧になり、その素晴らしさを実感していただきたい。

『那古野府城志』に「(徳川光友から) 再建料御材木を賜り、寛文九酉年ここに移し、小宇を造り日光月光二菩薩十二神の像を新彫して安置せり。この仏像は新木のままにて鉈作りと云う」との記述があることから、円空がお堂再建用の材木の残材を用いて制作したとの説がある。昭和53年(1978)の調査で、十二神将の午の像の頭部に尾張藩の川並奉行が北方村(現一宮市)で押した改印があることが判明した。名古屋城築城の残材を用いたとの説もあるが、根拠が明らかではない。

この地は西に眺望が開け、名古屋の街のみならず、晴れた日には遠く養老や鈴鹿の山並 みが見渡せる景勝地である。そのため、詩歌、生花、絵画などの愛好者が集うサロンでも あった。敷地内に、尾張の生んだ南画家山本梅逸と文人画家中林竹洞の碑や竹迺舎の歌塚 などが散在する。

(15) 永禄3年創業の「鍋屋」

種 別	産業
所在地	・東区鍋屋町(現、泉 2-12-19) 鍋屋
交 通	・地下鉄桜通線「高岳」下車、①番出口を右に、国道 41 号の都市高速道路に沿
	って約 200 🛴、徒歩 3 分、鍋屋町通り角(角には名古屋市教育委員会の「鋳
	物師頭水野太郎左衛門宅跡」の案内板がある)

さて、永禄3年(1560)はどんな年であったかご存知でしょうか? ご存じの駿河の覇 者、今川義元が尾張を領土に取り込むべく攻め上がってきた年で、名古屋市の南部、桶狭 間の地で織田信長に打ち取られ上洛の夢は消え去った。鍋屋の先祖、水野太郎左衛門は信 長配下の侍であったが桶狭間の戦で負傷したため、信長は太郎左衛門に対し鋳物業で身を 立てるように勧め、朱印状を与えた。当初太郎左衛門は名古屋台地の東、鍋屋上野の地(千 種区史によれば永弘院の西)で鋳物業をはじめ、その後清洲に移った。信長が岐阜、安土と 移り、また関ヶ原後、徳川家康が豊臣方に備えるべく清洲から名古屋に城を作った際、清 洲の町はあげて名古屋へと移転(清洲越しという)し太郎左衛門も清洲から現東区鍋屋町に 土地を与えられ一族郎党を率いて移った。

織田信長の朱印状や尾張藩代々藩主の黒印状を含む2千点にも及ぶ水野太郎左衛門家文 書は現在名古屋市博物館に寄託保管されている。また、同様に博物館には性高院梵鐘や熱 田時鐘などがある。

現存する「鍋屋」は、太郎左衛門二代 目から分家し、初代は水野平右衛門家勝 を名乗り、三代以降は水野平蔵を名乗っ てきた。また平蔵家は御鋳物師頭、御金 仏師、御鉄砲鋳物師を名乗り、代々鋳物 業として来た。その作品は梵鐘(ただし、 尾張国中は太郎左衛門家だけが鋳造する ことが出来、平蔵家は岐阜、三重など藩 外で鋳造が可能であった様で、伊勢や美 濃地方に平蔵作の梵鐘が現存する)、



江戸時代に造った鉄瓶



「鍋屋」の位置

鰐戸、雲版、仏像などの仏具、大砲や砲弾や、鍋、釜、 五徳などの民生品を製作してきた。中でも八事山興正 寺総本尊の青銅仏、大日如来座像(像高 3.6 5元)は尾張 徳川家二代藩主徳川光友が生母歓喜院供養のため元禄 9年(1696)に鋳造させたもので、尾張三大仏の一つ。 なお、古文書によればこの青銅像は一朝事あれば武器 弾薬に改鋳できるように配合されたと記されている。



現在の鍋屋

「鍋屋」は十五代目を迎え、所在地の町名も変更以前は鍋屋町一丁目であったが、現在は泉二丁目となった。



て、また家

取扱商品 は左の写真 にあるよう

鍋屋の前に立てられている案内板

庭用台所用品の専門店として営業している。

業務用厨房用品としては、レストラン、和食専門店、麺類食堂、中国料理店など外食産業向けで寸胴鍋(アルミニウムやステンレス製で口径と深さが同じ寸法の鍋で、スープをとる、あるいはカレーを作るなどに使うもので、口径は $18\stackrel{5}{5}\sim60\stackrel{5}{5}$ まで $3\stackrel{5}{5}$ 刻み、容量は $160\stackrel{1}{5}$ 2)、外輪鍋、シチューパン。鉄製では中華鍋、フライパン、寸法は $18\stackrel{5}{5}\sim60\stackrel{5}{5}$ まで、他に特別に注文生産の材料、寸法、厚み、形状のものも作っている。最近では少なくなっているが鉄鋳物製、あるいはアルミニュウム鋳物製の平鍋、羽そり鍋、大釜、風呂釜なども取り扱っている。

取扱商品は、そのほかに業務用(レストラン、中国料理、日本料理などの厨房用)寸胴鍋、 半寸胴鍋、外輪鍋、シチュウパン、羽釜、包丁、フライパン、関東鍋、北京鍋、おでん鍋、 ほうろう鍋、洋食器、木製鍋蓋、プラスチックまな板、銅板打ちだし加工製品、など多岐 にわたっている。



アルミ鋳物平釜(旧2尺5寸)75 撃



アルミニュウム製寸胴鍋、シチュウパンなど

3-3 忘れられた

(1) 名古屋三大仏

種別	寺院・民間信仰
所在地	・中区橋1の21 栄国寺
	・昭和区八事本町 興正寺
	・熱田区尾頭町 3-19 雲心寺
交 通	・栄国寺:地下鉄「東別院」④番出口から北西へ約500 な、徒約8分
	・興正寺:地下鉄「八事」①番出口から北西へ約 200 気、徒歩 3 分
	・雲心寺:地下鉄「西高蔵」②番出口から北西へ約100 気、徒歩2分

1 栄国寺

「栄国寺」のある一画は、かつて尾張藩の刑場で千本松原と呼ばれていた(栄国寺の東にある楠公園の角にはこの説明板がある)。刑死者の中には犯罪者だけでなくキリシタンも多く含まれていた。刑死者の菩提を弔うために建立されたのが、清涼庵であり、現在の栄国寺である。

栄国寺の場所は、少々分かりにくいが、 大まかに言えば東別院の裏の道を少し北 西へ行くと思えばいい。 南側の門から入



栄国寺の位置

るとすぐに幼稚園となるが、左への道を取る直ぐ右手が大仏の安置されている建物である。 建物の正面右側には「本尊阿弥陀如来縁起」と表題のある説明板が掲げてあるのですぐに 分かる。

その説明によれば「寛文5年の創建にして、丹羽郡塔の地村薬師寺の本尊を藩主光友が



大仏が安置されている建物

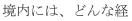
千人塚別名切支丹塚の菩提のため移したもの。大仏は、鎌倉時代仏工春日の作と伝う。寛文以前より火伏不思議の阿弥陀と称せられ、火防に又諸願成就、象生済度霊験あらたかな仏として古書にも記載されて居ります」とある。

寛文5年とは1665年であり、キリスト教禁令が出された翌年である。禁止令によって大名は宗門改めの役人を置き、旗本は五人組を利用し、代官は手代中に専任者を置くことを命じられた

のである。そんな時になぜ、わざわざ切支丹塚を移して、創建したのかと不思議である。

寺の存在が見つから ないようにと紋所を削 った大屋根の鬼瓦が庭 に展示されているのを 見て、さもありなんと 思えた。

また、境内には、切 支丹灯篭や碑石などが あり、切支丹遺跡博物 館もある(月曜休み、 有料)。博物館内では、 マリア観音や踏絵の実 物を見ることができる。





英国寺の大仏

緯でここにあるのか不思議だが、紀州南部で千4百年前の噴火によって噴出した溶岩が「古 亀甲岩思惟」と名付けられて置かれている。



切支丹関係の碑



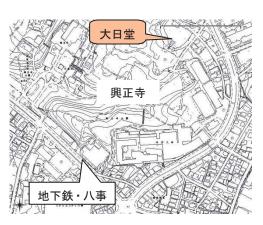
古亀甲岩思惟

2 興正寺

八事山「興正寺」は、東西2山に別れており、 東の山を遍照院、西の山を普門院といい、本寺の 構造はすべて高野山に模したもので尾張高野山と も言われる。

興正寺といえば、多くの人に知られているが、 そこに名古屋三大仏の一つがあるというと、多く の人が「へー」と言って驚き「どこにあるの?」 と聞いてくる。

それもそのはず、興正寺の境内に入って最も遠



興正寺の位置



大仏の安置されている建物

「入口」・「出口」の標示がある。「入口」から外へ一歩足を踏み出すと、お堂の外壁に幾つかの梵字が掲げられ、その下に小さな像が置され、鐘や花などが置かれている。賽銭の小銭も見られる。どういう謂れがあるのか分らないが、大仏の周りを一周しながらお参りできるようになっている。

この大仏が小ぶりに見えると言ったが、平成26年

い場所にあるからである。興正寺の東北の小高い丘にある「総本尊大日尊」の立札が掛かるお堂(大日堂)の中にある。扉に開けられた僅かな隙間からしか観ることは出来ないが、立派な大仏がお座りになっている。青銅製で、台座の上に座っているので分かりにくいが、像そのものの高さは4 にほどだろうか。

名古屋三大仏の中では小ぶりに見え る。お堂の周囲を右回りで巡るように



興正寺の大仏

下成大化 一型 一型 一型 一型 一型

「平成大仏」の予告看板

(2014) 9月には、高さが 6.1 にの新しい大仏を完成させる予定がある。現在(平成 25 年 6 月)、粘土原型が完成しており、その後、型に銅を流し込んで重量 5 たの大仏が完成するという。もっか、この「平成大改修プロジェクト通心」として浄財の確保が行われている。なお、この平成大仏は、興正寺奥之院に伝わる掛け軸の絵が基になっている。

3 雲心寺



雲心寺の位置

形は「心」の文字を表していて、ここで放生会 が行われる。

大仏にお目にかかりたいと思っても、安置さ れている本堂の前には出られない。本堂の前が



浄土宗鎮西派で山号は、遺迎山、別名に、遺 迎山称讃浄土院雲心寺と慈悲山普門寺遣迎山雲

国道 19 号線から参道を進むと竜宮城の門を 思わせる形の鐘楼門を潜る。池越しに本堂と思

心寺がある。創建は、元文4年(1739)。

鐘楼門

放生池

動場となっていて近づけないからである。拝観を禁じ ているわけではないので、お寺か幼稚園の方にお願い すれば案内してくれる。案内をしていただいたお坊さ んから頂いた「浄土宗新聞」からの一文を参考に記述 しておく。

〈本尊は、建中寺の大基上人の発願で京都の仏師の山 本茂祐が制作し、文久3年(1863)の完成。この仏像

は本山の京都知恩院の阿弥陀堂本尊を模したものと言われ、寄木造りの像に金箔をほどこ

われる

池の

幼稚園の運

されており、現在もその光 は失われていない。

また、本尊は、木造阿弥 陀如来坐像で丈六阿弥陀如 来坐像ともいわれており、 名古屋市文化財に指定(昭 和 32 年・1957) されている。 丈六とは、一丈六尺という ことで身の丈が約4.8 気位 ある阿弥陀様ということに なる。しかし、実際には、 座像なので高さは半分の約 2.4 気位である〉。

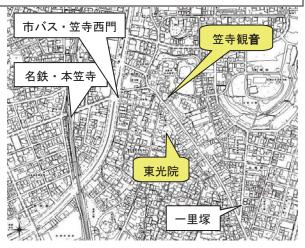


雲心寺の大仏(本尊の木造阿弥陀如来坐像)

(2) 宮本武蔵の足跡を訪ねて - 笠寺観音界隈

種 別	文化遺産(寺院・史跡)
所在地	・南区上新町83番地 笠寺観音
	・南区上新町47番地 東光院
交 通	・名鉄電車名古屋本線「本笠寺」から250元、徒歩4分
	・市バス「笠寺西門」から300年、徒歩5分

剣豪宮本武蔵(天正10年・1584?~正保2年・1645)が、名古屋を訪れたことをご存知であろうか。有名ではあるものの同時代の資料が少ないため謎が多く、実像が定かでない武蔵だが、寛永年間に尾張徳川家に仕官するため名古屋を訪れ、逗留していたと伝えられている。しかし、当時尾張藩には兵法指南役として柳生兵庫助利巖がおり、その目的は果たせなかった。彼の尾張藩への仕官をめぐっては、尾張藩士上田秀益が編纂した「武業雑話」や同藩の兵



笠寺観音と東光院の位置

学者近松茂矩 (1697~1778) の「昔 噺」がさまざまな逸話を伝えているが、時代が下ってからの記述で確実なこととは言えないようだ。しかし、彼が来名したことを示す碑や遺品が笠寺



笠寺観音

の地に残されている。

仕官は叶わなかったものの武蔵の武名を慕う人が多く、 道場を開いて教えていたとの話が伝わっている。名古屋 を去るにあたって尾張藩士寺尾直政の要請を受けて弟子 の竹村与右衛門を残し、そのため円明流が尾張藩のみな らず支藩の高須藩でも盛んとなった。その流派を継承し 中興の達人と称された孫弟子左右田邦俊の弟邦正たち門 弟が武蔵の100年忌にあたる延享元年(1744)に「新免武 蔵玄信碑」を笠寺観音境内に建てた。この碑の側面には、



新免武蔵玄信碑

左右田邦正が撰した武蔵の履歴と左右田邦俊の業績を記した文と四言八句の銘が刻まれており、この文章を記した文書が東光院に伝えられている。左右田邦俊は、千人の門弟を抱え、円明流が尾張藩の主要な剣術流派となったとも言われている。笠寺観音の副住職のお話では、円明流を学ぶ人が今でもこの碑に参るために来られるとのこと。



この碑の隣には、芭蕉の36回忌にあたる享保14年(1729)に名 古屋の医師で美濃派の俳人丹羽以之(?~宝暦9年・1759)によって建てられた「千鳥塚」が並び立っている。境内には「春雨塚」





千鳥塚

春雨塚

暁台塚

と呼ばれる芭蕉の句碑もあり、この句碑には、鳴海在住の門人下里千足(寛永17年・1640~宝永1年・1704)の依頼を受け、江戸から送った笠寺観音の縁起にちなんだ発句「笠寺やもらぬ岩屋も春の雨」が刻まれている。下里千足は酒造業などを営んだ富豪で、芭蕉は「笈の小文」の旅の途中に下里家に立ち寄った。また、尾張藩士で俳人として知られる久村・暁台(享保15年・1732~寛政4年・1792)の「さむ空やただ暁の峰の松」の句碑も境内にある。暁台は、与謝蕪村とも交わり、蕉風復興に尽力した。これらの句碑を眺めると、改めて芭蕉と名古屋との関わりの深さに気づかされるとともに尾張の俳諧の隆盛が偲ばれる。

笠寺観音の境内には優美な姿の江戸初期建立の多宝塔はじめ仁王門・西門・本堂・鐘楼など建築物にも見るべきものが多くある。節分の賑わいで知られるが、六の日に催される「六の市」には多くの露店が並び多くの人が集まる。

観音さんの仁王門を出て南に100%ほど行くと、左手に笠寺観音の宿坊東光院の石段が



笠寺観音多宝塔



東光院山門







武蔵の画像

目に入る。武蔵はこの寺に逗留したといわれ、武蔵直筆の書、製作の木刀と武蔵の画像が伝えられている。書は右手で「南無」、左手で鏡文字「天満大自在」そして右手で「天神」と書かれ、天神の文字の部分には菅原道真ゆかりの梅の枝が描かれている。両手を自在に操ったことをうかがわせる見事な書である。木刀は、武蔵が左手で用いるために樫の木を削って作ったもの。



木 刀

画像は、武蔵の弟子が画家に描かせたもので、熊本の島田美術館所蔵の画と似ており、「運は天に在り、勝は人に在り」と書かれている。いずれも通常は非公開だが、年に一度ほどは公開する機会があり、この折であれば拝見できるとのことである。

また、東光院には百年忌の碑を寄進した成瀬大和守正利・水野内蔵助康村・成瀬半大夫など尾張藩の重臣を始めとする奉納連名帳のほか、武蔵の碑の香料を寄進する尾張藩士の名を記載した慶応元年(1866)の姓名簿が2冊残されていて、武蔵が長きにわたって慕われていたことが分かる。興味深いのはこの姓名録に、尾張藩士で不二見焼を始めた村瀬美香(1829~1896)の名が見えることである。美香は白鳥材木奉行などを勤めた尾張藩士で、陶芸家としてばかりでなく詩歌・絵画・茶道・篆刻にも通じた人物としても知られていた。

文武両道に通じていたのであろう。

東光院には、円明流中興の人といわれる左右 田邦俊の画像も残されている。

笠寺観音の仁王門を左手に出て東海道を東へ600年ほど進むと左手に市内唯一の一里塚を見ることができる。江戸から88里の地点に設けられた一里塚で、直径10年、高さ2~3年の小山で頂上に榎の老木が立っている。武蔵や芭蕉が往来したであろう旧東海道を歩き、江戸時代に思いを馳せてみてはいかがであろう。



市内唯一の一里塚

〈コラム〉名古屋のナンバースクール(旧制中学)

愛知一中は、現在の旭丘であったということは、かなりの人が知っている。それでは、 愛知二中はどこか?……。おそらく、知っている人はすくないだろう。こんな声をしばし ばきくので、あらためて調べてみた。

旧制中学とは、学校教育法(昭和22年)が施行される以前、男子のための中等教育をおこなう学校のことである。昔は、男女別学だったので、女子の場合、旧制中学に相当したのは高等女学校である。

旧制中学の入学資格は、尋常小学校(のちに国民学校初等科に移行)を卒業していること。修学期間は5年間であったが、昭和18年(1943)には4年間に短縮され、戦後ふたたび5年間にもどされた。

旧制中学校を卒業すると、旧制高等学校、大学予科、大学専門部、高等師範学校、旧制専門学校、陸軍士官学校、海軍兵学校に進学することが可能であった。ちなみに、旧制高等学校にもナンバースクールがあって、一高は東京(現「東京大学」)、二高は仙台(現「東北大学」)、三高は京都(現「京都大学」)、四高は金沢(現「金沢大学」)、五高は熊本(現「熊本大学」)、六高は岡山(現「岡山大学」)、七高は鹿児島(現「鹿児島大学」)、八高は名古屋(現「名古屋大学」)である。

ナンバースクールとは、官立学校のなかでも伝統がある学校を、とくに意識して名づけたもの。旧制高等学校は全国に8校しかなかったわけではなく、ほかにもあった。そちらのほうは、ナンバースクールとはいわず、地名を冠したネームスクールという。

愛知一中(正式には「愛知県立第一中学校」、以下同じ)は「県立旭丘高校」、二中は「県立岡崎高校」、三中は「県立津島高校」、四中は「県立時習館高校」、五中は「県立瑞陵高校」、六中は「県立一宮高校」、七中は「県立半田高校」、八中は「県立刈谷高校」である。

一方、女子の高等女学校もナンバースクールになっていて、県一(正式には「愛知県立 第一高等女学校」、以下同じ)は「県立明和高校」、県二は「県立名古屋西高校」、市一(正 式には「名古屋市立第一高等女学校」、以下同じ)は「市立菊里高校」、市二は「市立向陽 高校」、市三は「県立旭丘高校」、市四は「市立桜台高校」となっている。

ただし、旧制中学や旧制高等女学校もこれだけではなく、ネームスクールはいくつもあった。

戦後、学校教育法が制定されると、学校教育は「六・三・三・四」制となり、男女別学から男女共学に大きく方向転換した。このため、一中と市三が統合して「県立旭丘高校」ができたように、旧制中学と高等女学校が統合して、新しい高校ができている。

(3) 激動の戦中戦後を生き延びた格納庫

種別	戦争遺産
所在地	・中川区細米町 2-78
交 通	・あおなみ線「南荒子」から約 600 tm、徒歩 9 分

あおなみ線の南荒子を東に入ったところに少し変わった建物がある。中川 鉄工協同組合の組合会館だが、この建 物、数奇な変遷をたどった貴重な戦争 遺産である。

その前身は、各務原にあった陸軍の 格納庫。戦後、駐留軍に接収されて駐 留軍家族のための室内体育館、そして、 組合会館として使われている。近くを 通っても気づかない人が多いかもしれ ないが、これが格納庫、と聞かされれ ば、なるほどと納得の建物である。



元格納庫の位置

1 組合会館の前身は陸軍各務原飛行場の格納庫?

大正3年(1914)、第一次世界大戦が勃発し、飛行機の軍事利用が注目された。その状況 に刺激された陸軍中央部は、いち早く将来の航空兵力の強化を考え、航空部隊を新設した。 最初にできたのは所沢。大正6年(1917)に陸軍各務原飛行場が完成している。

当時、神戸にあった川崎造船所は、大正7年(1918)に航空機の生産を開始し、大正12年(1923)、川崎造船飛行機部各務原分工場(現川崎重工業岐阜工場)が完成している。ちなみに、大正9年(1920)には、三菱内燃機製造名古屋工場(現三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所大江工場)が完成している。これはあまりしられていないことだが、三



旧アメリカ村

菱が海軍用につくった零戦の初飛行の 地は、陸軍各務原飛行場だった。

2 格納庫の第二の人生、アメリカ村 の体育館

アメリカ村というのは通称で、戦後 まもなく、連合軍により接収された駐 留軍の宿舎のこと。写真に写っている 体育館は、空襲を免れた陸軍各務原飛 行場の格納庫と伝えられ、アメリカ村 に移設されたという。このあたりの事 情ははっきりしていない。(出展 中川 鉄工協同組合発行の『創立 50 周年記念

誌』)

昭和33年(1958)に米軍から返還されて、体育館は組合会館として第三の人生を歩んだ。 一方、アメリカ村があった敷地は都市公園として整備され、昭和37年(1962)に市立名古 屋科学館天文館が開館している。

なお、アメリカ村がつくられた白川公園は、紀元二千六百年(昭和15年・1940)記念事業として計画された公園。

3 名古屋中川鉄工協同組合会館の概要

組合が発足したのは昭和 32 年 (1957)。昭和 34 年に国有財産審議会で体育館の払い下げが決定され、その後、移設工事を経て、昭和 36 (1961) 年に竣工。

敷地面積 2,772.12 平方に、鉄筋 3 階建て、延べ床面積 1,036.0 平方に事務所、作業場、厚生施設、共同宿舎として使用されたが、現在は、組合事務所のほか貸事務所、貸倉庫として利用されている。











組合会館の外部、内部

(4) 杉原千畝と名古屋の小学校と中学校

種別	建築物、モニュメント
所在地	· 中区平和町 平和小学校
	・瑞穂区北原町 瑞陵高等学校
交 通	・地下鉄・名城線「東別院」②番出口から南へ約 100 な、徒歩 2 分
	・地下鉄・桜通線「瑞穂区役所」④番出口から西へ約 450 気、徒歩 7 分

1 杉浦千畝のこと

杉原子蔵は、世界中のユダヤ人から日本のシンドラーと呼ばれ、全世界の人たちから尊敬の念を向けられている岐阜県八百津町出身の外交官である。

ユダヤ人のビザ発給により約6千人もの尊い命をナチス・ドイツの迫害から救った外交官であるが、ごく一般の環境と家庭の中で育った普通の人でもあった。第二次世界大戦中、日本とドイツが同盟関係のなか、日本の外務省の方針に反して、人道的な立場から、懸命にビザを書き続け、約6千人という多くの尊い命を救ったのである。その功績に対し、昭和44年(1969)にはイスラエル宗教大臣から勲章を受け、昭和60年(1985)にイスラエル政府から「諸国民の中の正義の恩人」として表彰された。

千畝は、明治33年(1900)に岐阜県加茂郡に生まれ、父親の仕事の関係で岐阜、三重、 愛知と転校を繰り返した。中区平和町にある名古屋市立平和小学校(旧名古屋市立古渡尋

常小学校)を「全甲(全てトップ)」の成績で 卒業した後、愛知県立第五中学校(現愛知県 立瑞陵高校)に進学した。

その後、かねてから語学に興味があった彼は、医者になることをすすめる父親の反対を押し切って、早稲田大学高等師範部英語科予科に入学した。

2 名古屋市立平和小学校

名古屋で過ごした小学校の関連で、千畝の



平和小学校にある千畝の記念碑「ちうねチャイム」



平和小学校の位置

母校、平和小学校に千畝の記念碑「ちうね チャイム」がある。この「ちうねチャイム」 は千畝の生誕 100 年を記念して、平成 12 年(2000)11月に設置されたもので、曲線の 柱ふたつをリングが繋いだ格好になってい て、柱はそれぞれ「命の尊さ」、「思いやり の心」を、リングは「平和」、「愛」を表現 している。毎日午前8時半と午後4時、平 和の音が響いている。

3 愛知県立瑞陵高等学校

また、千畝の過ごした愛知県立瑞陵高校は、明治40年(1907)に開校した愛知県立第五中学校が前身で、千畝の他、江戸川乱歩、都留重人(経済学者)など多くの著名人を輩出している。

平成24年(2012)10月17日に杉原千畝を記念した植樹祭があり、ペレグ・イスラエル公使がオリーブの植樹を行った。植樹場所は、正門から通路を進んだやや左側にある。



瑞陵高等学校(旧第五中学校)の位置

なお、千畝の活躍の原点は五中時代に習得した語学力だったと言われている。



瑞陵高校正門





記念植樹されたオリーブの樹

説明板には、〈日本とイスラエルの60年間に渡る友情を記念し、また「諸国民の中の正義の人」である杉浦千畝氏を偲んで〉とある。

余談だか、オリーブの樹から西へ少し行くと「感喜堂」がある。これは大正13年(1924) に講堂として建てられたもので(現在は定時制の食堂)、保存すべきかどうかの視察に平成25年(2013)6月、愛知県知事と名古屋市長が視察に訪れている。

さらに、その手前左には、大正10年 (1921) に建てられ、その後増改築された建物には「瑞陵高校の怪談…?」と言われている「開かずの間」がある。 (出典 瑞陵新聞歩みたり)

(5) 徳川園北の赤い屋根

種 別

教会・パワースポット

所在地

・東区徳川町2303 日本福音ルーテル復活教会

交 通

・JR「大曽根」から南西へ約650元、徒歩10分、市バス「徳川園新出来」から約600元、徒歩9分

右の写真にある洒落た洋館は、戦前に建てられた日本福音ルーテル復活教会の前身にあたる大曽根講義所の写真である。大曽根界隈は大きな軍需施設があったために、空襲も激しく、この建物も焼け落ちてしまった。戦後、徳川園北面の公園付近にあった牧師館で、日曜礼拝や子供向けの日曜学校が復活したが、信徒の数も増えて手狭になったために、徳川園の西隣にある中京法律専門学校の教室を間借りして礼拝を続け、



現教会の前身・大曽根講義所

現在の「ルーテル復活教会」が昭和28年(1953)に竣工した。かってラジオ番組「ルーテルアワー」の本部があった。

交換牧師として6年間をアメリカの南部で過ごし、昭和56年(1981)の帰国でこのルー



ヴォーリズ建築事務所名のある設計書

テル復活教会に着任した戸田牧師は、ビールケースの中に無造作に放り込まれていた図面等を発見し、「これは何か重要な書類ではないか」と丁寧にファイリングされたが、書類はそのまま28年間、書棚にひっそりと放置された。戸田牧師の着任当時は尖塔の下には粗末な水道の蛇口がひとつしかなく、牧師夫人は涙を流した。それを知ったフロリダの教会が寄付を募り、今では教会員全員が食事を囲むことができるほどの立派な台所が増築された。この台所では教会員が集い、戸田夫人が指導したアメリカ仕込みのパウンドケーキが今も焼かれている。プレーン、キャロットやバナナのパウンドケーキ作りは今でも教会員を結ぶ、大切な教会の行事となっている。

ある時、県の建築関連部署に勤める女性が「この建物にまつわるものは何かありませんか?」と訪ねて来た。「戸田牧師からの書類を確認し、本当に手が震えました」とは彼女の言葉である。

この教会を建てたのは日本で190以上の教会を建てて活躍したメンソレータムで有名な



「登録有形文化財」の盾

近江兄弟社の創業者、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(一柳米来留)の建築事務所だったのだ。こうして平成24年(2012)の10月に、ようやく国の有形登録文化財として登録された。これと前後して、戸田牧師もルーテル復活教会の牧師を引退された。

これは定かではないが、冒頭の大曽根講義所も恐らく、ヴォーリズの作品と思われる。というのは、ヴォーリズが晩年に建てたルーテル博 多教会の正面の姿に、よく似ているからだ(写

真は一枚しか残存せず、焼失して何の証拠もないために、これはあくまでも私見であるが、 フォルムからは十分、そう想像できる)。

徳川園の西側にある正門を北に下ると、交差点の向こう側に可愛らしい赤い屋根が見えてくる。これが日本福音ルーテル復活教会だ。

この「ルーテル」とは、世界史の授業で習う「宗教改革」で有名なマルティン・ルターのドイツ語読みで、すなわち、プロテスタント系ルター派の教会である。

玄関を構え尖塔のある牧師 室と三角屋根を載せた礼拝堂。 この礼拝堂は、ノアの方舟を かたどった木造のシザーズ・ト



日本福音ルーテル復活教会の位置

ラス構造となっており、礼拝堂に入ると立派なトラス構造を目にすることになる。



赤い屋根の「日本福音ルーテル復活教会」

そしてこの教会には、普通の教会とは 全く異なる不思議な構造がある。ヴォー リズの設計意図はわからないが、礼拝堂 の聖壇は古今問わず、通常は太陽が上る 東向きに聖壇が設けられるのだが、何故 だか、この教会だけは西向きに聖壇が設 けられている。「キリスト教の最も大事 な教義である『復活』を冠した『復活教 会』と名付けたのが先なのか、それとも 西側に聖壇を設けたのが先なのか、そこ に奥深いものを感じる」と、戸田牧師の 後任となられた伊藤牧師は語られた。日米の教 会を行き来した伊藤牧師の知るところでは、こ のルーテル復活教会以外で西向きの聖壇を構 えているのは、伊藤牧師が携わり、平成12年 (2000)に建て替えられたルーテル蒲田教会だ けだという。「それ以外、まずないと思う。私 は知らない」。

そして、この西向きの構造が特別な体験を提 供してくれることになる。

日本ではまだまだキリスト教徒の数は少な く、なかなか教会には入り難いと思っている方 も多いと思われるが、そんな方でも特別な体験 ができるチャンスがある。クリスチャンでもな いご近所の熱心な音楽家がこの古い木造の教 会の音響効果にほれ込み、教会に足しげく通っ て頼み込んで、春と秋にクラシックギターの音 楽会「午後のひとときコンサート」を、音楽家 仲間と共に催しているのだ。

60名ほどが入れるこじんまりとした木造の 礼拝堂だが、この距離感と木の質感が音響に



構造材に特徴がある礼拝堂

はたいへん良いようで、床や天井からの柔らかな反響音にくるまれつつ、時に雲にさえぎ られる自然のうつろいを感じながら黄金色の陽光に包まれる空間は、まさに至極の幸福感 を味わうことができる。コンサートの後は、心身ともにリフレッシュされたような、清々 しさを感じながら家路に向かう幸福感を味わうことができるのだ。

戸田牧師曰く「まさにパワースポットですね。といっても、日本語のパワースポットと



音楽会「午後のひとときコンサート」

英語のパワースポット (聖地) では若 干、意味が違いますが…」とのことで、 本研究ではパワースポットとして紹 介させていただいた。

ちなみに、カトリック系では神父と 祭壇、プロテスタント系では牧師と聖 壇と呼び、よく間違うのでご注意を。 徳川園にお越しの際は、ほんの少しだ け遠回りをして北の赤い屋根を目印 に、ぜひ可愛らしい教会へお越しくだ さい。

〈コラム〉名古屋の五摂家(?!)

五摂家

藤原鎌足にはじまる藤原氏は、鎌足の子の不比等の亡きあと、武智麻呂の「南家」、鶯前の「北家」、学浴の「式家」、麻呂の「京家」の四家にわかれた。

「南家」は兄弟の中で一番南に邸宅を構えたから、「北家」は南家の北に邸宅があったから、「式家」は宇合が式部卿の職にあったから、「京家」は麻呂が左右京大夫の職にあったから、それぞれの名前がつけられたという。

藤原氏は他の貴族と権力争いを演じ、最終的には貴族の中の中心勢力を占めるにいたった。その過程で、四家の主導権争いがはげしくなり、清和天皇の天安2年(858)に、皇族の身分でない良房がはじめて摂政となった以降は、摂政と関白は「北家」が独占するようになった。あの栄華をきわめた道長も「北家」の出身である。

道長以降、同じ「北家」でも、道長の子孫のみが「御堂流」と呼ばれるようになり、御堂流が摂政と関白を独占した。平安時代の末期、源平の争乱を迎えると、御堂流にも大きな変化がおとずれた。そのはじめは、「近衛家」と「九条家」の誕生である。そして、鎌倉時代の中期になると、近衛家から「鷹司家」が、九条家から「二条家」と「一条家」が分家した。

この「近衛」、「鷹司」、「九条」、「二条」、「一条」の五家のことを五摂家という。以後、明治時代になるまで、摂政と関白は五摂家が交代で就任するような形となる。しかし、世は武家の時代。摂政、関白の権威も衰えていった。

なお、明治天皇の美子皇后(昭憲皇太后)は「一条家」の出身。また、大正天皇の節子皇后(貞明皇后)は「九条家」の出身。そのほか、戦前の首相を務めた近衛文麿は、当然のことだが「近衛家」の出身。

名古屋の五摂家

名古屋にも、かつて五摂家と呼ばれた家柄、いえ企業があった。それは東海銀行(昭和16年・1941、愛知銀行、名古屋銀行、伊藤銀行が合併して設立)、松坂屋(慶長16年・1611、創業)、名鉄(明治27年・1894に創業した愛知馬車鉄道がルーツ)、中部電力(明治22年に創業した名古屋電灯がルーツ)、東邦ガス(明治39年に創業した名古屋瓦斯がルーツ)の5社である。

これらの五摂家企業は、かつては、中部財界をけん引した名門企業であった。明治 14 年 (1881)、名古屋商法会議所(のち、商工会議所に名称変更)が設立した時、初代会頭にいとう呉服店(のちの松坂屋)の第 14 代伊藤祐昌が就任している。

しかし、平成14年(2002)に東海銀行が三和銀行と合併しUFJ銀行(現三菱東京UFJ銀行)となり、この時点で五摂家という言葉は死語になった。さらに、平成22年(2010)に松坂屋が大丸と合併し、大丸松坂屋百貨店となり、いずれも本社が名古屋市から撤退した。

五摂家という言葉は、現在では死語になっている。代わって登場したのが、「御三家」という言葉で、中部電力、トヨタ自動車、JR東海の三社のことをいう。

(6) 愛知医学校発祥の地と後藤新平

種 別	建築物
所在地	・中区栄一丁目 20 堀川左岸 (天王崎橋〜新洲崎橋)
	・中区丸の内3 愛知県産業貿易館本館及び西館
	· 中区門前町 西本願寺名古屋別院
交 通	・地下鉄「伏見」から約900 🛴 、徒歩14分
	・地下鉄「市役所」から約600 仁、徒歩約9分
	・地下鉄「大須観音」から約400 仁、徒歩約6分

1 愛知病院新築移転後 130 年記念碑

名古屋大学が名古屋帝国大学として創立されたのは昭和 14 年(1939)で、そのルーツは明治 4 年(1871)の名古屋県仮医学校・仮病院で、西本願寺掛所(名古屋別院)をへて、明治 10年(1877)に中区天王崎町(現在の栄一丁目)に新築移転した。

愛知医学校・愛知病院の堀川東岸への新築移転後 130 年を記念して、平成 19 年(2007) に 堀川東岸に特定非営利活動法人名古屋外科支援機構から記念碑が寄贈された。名古屋に西 洋医学が移入された明治初頭を彷彿させる場面を描いた絵のある記念碑である。最近、運 行が増加した堀川クルーズの船から記念碑が間近に見え、道路側からも見ることができる。



愛知病院新築移転後 130 年記念碑の位置



愛知医学校のあった場所 (記念碑が建っている)



堀川の西側から見た記念碑(拡大)



道路側から見た記念碑

2 仮医学校

「仮医学校」は、名古屋城南外堀のほぼ中央にかかる本町橋の南東にあった旧名古屋藩の 評定所跡地(現在の愛知県産業貿易館本館)に設けられた。「仮病院」もその西側、本町通り を挟んで向かい側にあった旧名古屋藩の名古屋町奉行所跡地(現在の愛知県産業貿易館西



仮医学校・仮病院跡の位置

館)に開設された。

「仮医学校」、「仮病院」はその後廃止され、仮 医学校の職員等の有志により「義病院」の名称 で同じ場所で再開されたが、財政難から明治6 年(1873 年)には閉院となった。

2 愛知医学校

「義病院」の閉院後に、愛知県は名古屋市中区 門前町の西本願寺掛所(別院)に「愛知県病院」 を復興した。当時、ドイツ系アメリカ人医師ヨ ングハンスが雇われ、西洋医学の普及に尽力し、 日本初といわれる皮膚移植手術を行っている。



西本願寺掛所(別院)の位置



産業貿易館西館に立つ仮医学校跡の説明板



産業貿易館本館に立つ仮病院跡の説明板

病院内に「医学講習場」も設けられ、ヨング ハンスが英語による医学教育を行っており、 当時の医師の多くが漢方医であった時代に西 洋医学受容の先端的拠点といわれていた。

明治14年(1881)に愛知医学校となり、明治34年(1901)に愛知県立医学校、明治36年に愛知県立医学専門学校となり、大正3年(1914)に中区(現昭和区)鶴舞町に校舎を新築・移転した。

大正9年(1920)に大学令により愛知医科

大学となり、昭和6年(1931)に官立移管され名古屋医科大学に改称、昭和14年(1939) に名古屋医科大学を基に名古屋帝国大学医学部となる。昭和22年(1947)に名古屋大学に 改称した。

関東大震災の震災復興計画を立案し、現在の東京の都市の骨格を作った後藤新平は、内務大臣兼帝都復興院総裁として、19世紀中葉のフランスでナポレオン三世治下のセーヌ県知事オスマンが行ったパリ改造を参考に世界最大規模の帝都復興計画を行った。その後藤新平は愛知県医学校で医者になり、ここでめざましく昇進し、24歳で学校長兼病院長となり、病院に関わる事務にあたっている。



西本願寺別院と医学講習場跡の説明

また、この間、岐阜 で遊説中に暴漢に刺 され負傷した板垣退 助を診察している。こ れには面白い逸話が ある。

明治14年(1881)8 月26日の夕刻、岐阜 市で暴漢に襲われた 板垣退助の診察の依 頼が入った。しかし、 愛知県は管外往診を

認めていなかったので、新平も一旦は断った。ところが、再三の催促に「これは命の問題

だ」として、彼は人力車を飛ばして岐阜へ向かう決心をした。これにより助かった板垣退助から新平の度量の広さが認められ、医学界から政界への方向転換となった。

そして、その後、台湾総督府民政長官、満 鉄初代総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、 東京市第7代市長などを務めたということに なる。

なお、後藤新平が住んでいた住宅は、学校から南へわずか500に程だった。「新洲崎橋」を少し東へ行った謫居跡には石碑と立看板が立っている。



医学講習場跡の説明

〈コラム〉名古屋の老舗企業は!!

平成 20 年 (2008)、名古屋開府 400 年記念事業が華々しく開催された。慶長 15 年 (1610) 徳川家康により名古屋城築城にあたって当時の尾張藩の中心地、清洲から城、寺院、橋、 石垣、家屋など、あるいは町の名前や橋の名前に至る諸々のもの、農民を除く尾張藩の武 士ならびに町人たちがこぞって名古屋城下に移り住んだ。

清洲から移住した町人を「清洲越し」と言うが、名古屋市史「寛延旧家集」では 115 家 があり、そのうち97家が清洲越し、9家が駿河越しである。

一昨年(平成24年・2012)の日本経済新聞紙や帝国データーベースの調査では、以下のよ うな企業がある。

一番古い企業は、東区泉二丁目にある「鍋屋」である。この企業は信長の朱印状を得て、 永禄3年(1559)鍋屋上野で鋳物業を開き、清洲に在住していた信長に呼ばれて同じ清洲 にうつり、さらに名古屋城築城に伴って清洲から東区の鍋屋町(当時の碁盤割の一番東の はずれ)、現在の東区泉二丁目に移った。鍋屋は鋳物業で火を使うため、火の用心のため東 のはずれに土地をもらったという伝承がある。

二番目以下、タキモ商店(慶長1年・1596、中区、食料品卸)、ヒロセ合金(慶長8年・ 1603、熱田区、銅合金鋳物製造)、丸栄(元和1年・1615、中区、呉服-百貨店)、かとう 石店(寛永1年・1624、昭和区、墓石販売)、両口屋是清(寛永 11 年・1634、中区、和菓 子製造)、餅文総本店(万治2年・1659、中区、和菓子製造)。

松坂屋の伊藤次郎左衛門家は、慶長 16 年(1611) 初代が本町において呉服小間物商を開 業している。

現在、愛知県内に本社を構える創業 100 年以上の企業は 1,196 社ある。もっとも古い企 業は一宮にある「中村社寺」で元禄1年(970)に創業している。都道府県別では東京の2,021 社に続いて2位、大阪府は3位の1,073社である。

ここに面白い資料がある。資料名は「名古屋持丸鑑」。明治 13 年(1880)に作られた名 古屋の資産家を調べたもので木版すり 1 枚の資料、現在は徳川林政史研究所に所蔵されて いる。当時は会社など法人組織がまだないのでこれが企業の台帳ともいえる。

勧進元は、第十一銀行、第百三十四銀行、行司は三井銀行など。

東方 西方 大関 大関 伊藤次郎左衛門 (茶屋町)

岡谷惣助 (鉄砲町)

関脇 関戸守彦(堀詰町) 関脇 伊藤忠左衛門

小結 中村與右衛門 小結 武山勘七(東万町) 岡田徳右衛門(伊勢町) 滝兵右衛門(本町) 前頭 前頭

富田重助(鉄砲町) 同 同 加藤彦三郎

など、現在に続く企業が300社以上も記載されており非常に興味深いものである。

(7) 尾張徳川家の御霊屋はどこに?

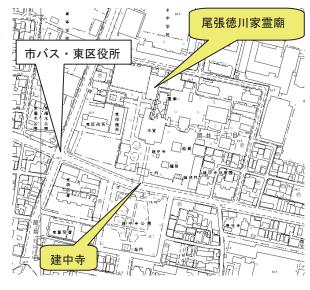
種別	寺院
所在地	・東区筒井1-7-57 建中寺
	・東区泉三丁目 11-16 貞祖院
	・中区丸の内 2-3-37 東照宮
	・南区星崎 2-47 蒼龍寺
交 通	・市バス「東区役所」からすぐ
	・市バス「平田町」から約300 気、徒歩約5分
	・地下鉄「丸の内」①番出口から約 400 仁、徒歩約 6 分
	・名鉄本線「本星崎」から南へ約 400 仁、徒歩約 6 分

徳川幕府御三家の筆頭、尾張徳川家の御霊屋はどこにあるかご存知だろうか?

初代徳川義直は、自身の霊廟について瀬戸市にある定光寺に造るよう言い残しており、 現在も定光寺山中に広大な霊廟が残されている。寺域に東接する尾張徳川家初代徳川義直 廟所がそれである。正面に竜の門があり、その左右に築地塀が伸び、塀で囲まれた内側に 焼香殿と宝蔵、その先に唐門があって、さらにその奥に義直の墓標が立つ。義直の墓は慶 安4年(1651)に、焼香殿などの周囲の建物は翌承応元年(1652)に建立されたもので、 参道途中にある獅子の門は元禄12年(1699)の建立であり、焼香殿、宝蔵などは禅宗様を 基調とし、中国風の装飾を施している。建物6棟と墓1基が重要文化財に指定されている。

二代光友の墓は、菩提寺である名古屋市 東区の徳興山建中寺にある。それ以降の墓 も建中寺にあったが、戦後の区画整理の際 に千種区の平和公園に移された。

それでは二代目以後の霊廟はどこにあるのだろうか?そもそも霊廟とはお墓なのだろうか?いや、霊廟はお墓ではない。「御霊屋」ともいい、祖先の霊などを祀ってある建物のことである。一般市民の感覚としては仏壇や位牌の置いてある部屋、あるいは仏壇が「おたまや、みたまや」であるが、そんな特別の建物はないから「廟」というのはいささか大げさである。



建中寺、尾張徳川家霊廟の位置

しかし、尾張徳川家ともなれば話は別である。建中寺にある江戸末期の建中寺惣図によれば6つの霊廟があり、そのひとつが本堂の北側に残されている。ここは現在(平成25年・2013)愛知県指定文化財として修復工事中で、代々の位牌は本堂内に一時移転されている。平成25年(2013)11月に修復部分の一部が公開されたが、本格的な修復はこれからの様である。ほかの3か所は以下の様である。

その1 貞祖院本堂

この寺は慶長13年(1608)、清洲城主であった松平忠吉の養母押加茂こと於美津の方が、忠吉の牌所として清洲に建立、慶長16年(1611)この地に移された。その後天明2年(1782)の大火で本堂など焼失し、以後長らく仮本堂のままであった。それが明治5年(1872)徳川家霊廟の一つ(四代藩主、徳川吉通の嫡子五



貞祖院本堂

本堂は、木造入母屋造り 32 坪(約 10 平方行)、普通寺院建築では平入本堂だが、ここでは入母屋造り妻入りの形式で、当初から本堂として建てられたものではないことが分かる。総漆塗り、柱は円柱漆塗り金箔仕上げで、外陣は格天井、内陣は折上げ格天井とし漆塗りや極彩色を残している。内陣の格天井は 80 枡あり菊の紋が入れてあるが、うち 15 枡には葵の紋が入れてある。これは維新の折に菊の紋をはばかり上に葵の



貞祖院の位置

郎太の霊廟で、正徳4年・1714 建築であった ものが、大火ののち二代藩主光友の正室千代 姫の霊廟として模様替えが行われ、以後千代 姫のものとして伝わってきたもの)を建中寺 から移したものである。内部は総うるし塗り の極彩色で、よく保存され、尾張徳川家霊廟 建築として貴重なものである。

松平忠吉は徳川家康四男で、本来ならば尾 張徳川家初代となる予定であったが、早世し たため義直が初代となった。



紋を張ったもの。外陣の欄間などは彩色されているが、模様は東照宮や蒼龍寺などと酷似





梁の上の模様は東照宮や蒼龍寺の模様と酷似

している。

その2 東照宮

徳川家康を祀る東照宮といえばきらびやかな細工が施された朱塗りの建物というイメージがあるが、社殿は尾張藩初代藩主徳川義直(家康の九男)の正室・春姫こと高原院の霊廟を移築したものである。名古屋の官庁街の南はずれにある大津橋の交差点から外堀通を西に向かって歩いていくと左手に東照宮がある。元々、名古屋東照宮は家康没後3年の元和5年(1619)に現在地より北、名古屋城内の三の丸に義直が建立した。



だが明治9年(1876)、藩校・明倫堂の跡地であった現在地、那古野神社の西どなりに移転した。

本殿は現在も各地で見られる東照宮 同様、極彩色の権現造りだったが、太平 洋戦争の空襲で焼失した。そこで戦後の 昭和 28 年 (1953) に東区・徳興山建中 寺にあった春姫の霊廟を移築し、本殿と したものである。



その3 蒼龍寺

宗旨は浄土宗、ご本尊 は阿弥陀如来 この寺 の本堂は、明治5年 (1872)に建中寺の御霊 屋の一部を廃棄した際 譲り受けたもので、御霊 屋中の拝殿と合いの間 に該当する。ここでは、 拝殿を外陣に、合いの間 を内陣に使用している。



全て面取り角柱で、前面に向拝(寺社の玄関などにある庇やその下の空間-出典 橋場信雄『建築用語図解辞』理工学社)がつき、頭抜き、台輪をめぐらし、桝組は出組み、中備え

は整般で、軒は二軒繁垂木である。妻は紅梁大瓶束。正面中央間に双折桟唐戸、そのほかは格子戸および腰高障子を立てる。天井は格天井、格間に彩画文様入りとし、内陣は化粧屋根裏であり、柱上部から上は極彩色、下方は漆塗りで御霊屋の時のままを本堂としている。







(8) 混擬土代替の人造石

種 別	産業遺産
所在地	・港区港町
交 通	・地下鉄「名古屋港」①番出口から南へ信号を渡った左すぐ

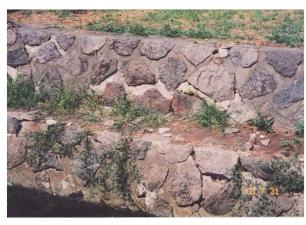
1 混擬土

標題の「混擬土」という文字を見てすぐに「コンクリート」と読める人はある程度の年齢の人か、その道の専門の人に違いない。海外からの新技術の名称を日本語化したものだが、そう思ってよくみればコンクリートと読めなくもない。昔の人は、新しいものに名前を付けるときには、よくよく考え抜いて決めたものだと感心する。コンクリートは、明治時代の日本にはすでに外国から導入され使用されていたから、昭和の中頃までの書籍に、といっても多くは土木関係の書籍だろうが、この文字が使われていた。

しかし、新しいものは大抵の場合、高額なものと相場が決まっている。だから、大量に コンクリートを使いたくとも費用面から躊躇される場合が多かったことは想像に難くない。

2 人造石(服部人造石)

人造石とは、もともと三河の新川町にいた服部長光という左官が考案したものだった。 その技術は、割り石積みの石垣の空隙に蔵き土を詰め込んだものと思えばいい。割り石 同士は接触せず、敲き土で離されており、その点、一般の石積みに施す首地とは異なって いる。ただ、耐久性を増すために最終的にモルタルで目地のように仕上げられているので、 外観から判断するときには注意を要する。



人造石で造られた護岸

敲き土の材料は、種土、石灰、水、固結薬である。種土は花崗岩が風化して分解したものが主なもの。石灰は美濃国赤坂産の消石灰がよいとされている。水は海水がよいとされているが、これは海水中にある吸湿性を保つ成分があるからだという。固結薬は明らかではないが、いわゆる「三和土 (叩き、敲き)」で使用する「苦汁」のようなものではないかと推定される。

工法には謎が多いが、長七は、自分自身の技術に絶対の自信を持っていたに違いなく、 人造石のことを自ら「服部人造石」と呼んでいた。

3 名古屋港発展の礎となった服部人造石

名古屋港が近代港湾として大きく躍進を始めたのは明治時代である。名古屋圏は昔から ものづくりが盛んだった。ところが名古屋には熱田港という港がありながら水深が浅いた めに大きな船が入ってこられず、多くの物資が四日市港経由で海外へ輸出されていた。

四日市港の繁栄を見るまでもなく、名古屋財界では、地域の生産物を名古屋から直接世

界へ向けて送り出すための港が必要だという強い認識に立っていた。そして多くの費用が 港造りに投じられたが、その費用が生易しい額でないことは素人にでも理解できる。

実際、建設に携わる者にとって、事業費の軽減は至上命令だ。もっとも事業費のかさむのは大きな船が入港できる水深を確保するための浚渫事業だった。次は、船を接岸する物揚場や護岸、堤防などの建設だった。どの施設にも大量のコンクリートを必要とする。しかし、当時、日本製のコンクリートは品質が十分でなく量も少なかった。かといって輸入品を使用すればほんの一部の施設しか手当てできないのが現状だった。そこで考えられたのが服部人造石の使用だった。

当時、築港と呼んでいた名古屋港の開発に携わっていたのは愛知県の港務所だった。港務所は、人造石使用に実績のある宇品港(現在の広島港)へ人を派遣して実態を調査し、コンクリートに匹敵する強度を持っていることを確認したため、工事の標準化などを行って名古屋港の建設に使用した。

名古屋港の港湾施設のほとんどが服部人造石で造られていたこと、全国でも最も多くの服部人造石が使われたのが名古屋港であり、名古屋港発展の礎になったこと、などは一部の人にしか知られていない。それは港湾施設という特殊性もそうだが、伊勢湾台風でほと



人造石の位置

んどの服部人造石は破壊されたことにも よる。伊勢湾台風後は、服部人造石を知る 人も、それらがどこに残っているのかも曖 昧となり、一部の郷土史家によって研究が 続けられているに過ぎなかった。

ところが、つい最近、人造石の護岸の一部を切り取り、モニュメントとして置かれた。脇には説明版まで取り付けてある。

これで「服部人造石」は永久に忘れさられることはなくなった。

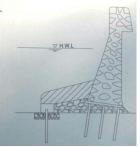


人造石護岸

明治31年(1898)熱田港(名古屋港)築港工事では、 左官技術の一つである「たたき」の技術を応用した人 適石護岸を採用した。 人適石は、石灰と種土(花崗岩が風化したもの)に水 を加えて練り叩き固めたもので、愛知県碧海郡北尾村 (現・碧南市新川)の服部長七が考案したことにより

(現・碧南市新川)の服部長七が考案したことにより 別名「長七たたき」とも言われている。その技術の先 進性は近年注目をあつめ、アンコールワットの遺跡復 旧工事でも採用された。

この石は、庁舎建設にともない工事現場より出土した 人造石額岸選構の一部で、旧2号地(現ガーデンふ頃) 南側護岸として、明治36年(1903)に建設されたもの



人造石のモニュメントと説明板

(9) ここに、お参りしたことありますか?

種 別	神社・民間信仰・伝承
所在地	· 熱田区神宮二丁目 松姤社
	· 熱田区伝馬町一丁目 南楠社
交 通	・地下鉄「伝馬町」①番出口から西へ約 200 仁、徒歩約 3 分
	・地下鉄「伝馬町」④番出口から南へ約 150 気行き、西へ約 70 気

1 神社の摂社、末社とは

一般的に神社の境内には、本宮とか本社とか呼ぶ中心になる社会以外に大小の社や詞が幾つかある。その大小の社などが摂社と末社である。本宮と縁故の深い祭神をお祭りしているのが摂社であり、縁故あるなしに関わらず祀られたり、近隣から移されたりしたのが末社である。これら摂社と末社を合わせて摂末社という。

2 熱田神宮の摂末社

名古屋市内最大の神社である熱田神宮には、本宮と別宮以外に摂末社が合計 43 社ある。 境内には摂社が8社、末社が19社あり、境外には摂社が4社、末社が12社ある。

熱田神宮の境内にある摂末社は、本宮をお参りする際に立ち寄ってお参りすることができるので多くの方がご存じである。しかし、境外の摂末社は、その場所すら分からないなどの理由から、熱田神宮のすべての摂末社をお参りした人は少ない。それら摂末社は、北設楽郡東栄町に鎮座する末社・琴瀬山神社を除けば、すべて名古屋市内にある。

境外に祀られている摂末社 16 社すべてを説明するには紙数に限りがあるので、逸話の面白い摂社・松姤社と末社・南楠社を紹介する。

3 摂社・松姤社

この社に伝わる逸話はひとっだけでないのが興味深い。
**音なが夢が東方征伐に出掛ける途中に、かつて、この辺ら襲ける。
な流れていた清流で布を襲していた乙女に、日本武尊が通りかり氷上への道を問われたが、乙女は、聞こえない振りをして答えなかった。この故事から、お参りをすると耳がよく聞こえるようになるという信仰につながっている。
乙女こそ、管管媛命であった。



松姤社と南楠社の位置



松姤社への参道

また、一説に、宮簀媛命が夫の日本武尊を 亡くした後、家に篭ったままなのを心配した 者が、いくら外から板戸を叩いても返事をし なかったという故事がある。

さらに一説に、宮簀媛命が、日本武尊の当 方征伐からの無事の帰還を天神地祇(すべて の神々)に祈るため門戸を閉じ親族の声にも 耳を貸さなかったという伝承がある。

加えて一説に、流れにしゃがむ乙女に道 を尋ねた馬上の日本武尊の眼に、返事をし

ない乙女の白い内股がチラリと見えてしまい、その夜の契りを結ぶきっかけになったという言い伝えや、釘と底の抜けた柄杓(どちらも通りがよい)を奉納して祈ると耳が聞こえるようになるとも言われている。

後に、この地を布曝炎(宮簀媛命のこと)と呼ぶようになり、その後も町名は布晒炎町、 市場町と変わり、現在は神宮となっている。

4 末社・南楠社

ここは、末社とはいえ熱田神宮の創祀に関わる重要な社といっていい。すなわち、宮簀媛命が草薙神剣を奉安のため大高の地から剣を捧持し、熱田の地を直前にして身づくろいを正すために大きな楠(現在はない)の下でお休みになった場所で、聖地として崇められ社が建てられているのである。

『記紀』によれば、東方征伐から帰った日本武尊と宮簀媛命は、大高の地に居を構え幸せにお暮らしになっていた。しかし、都へ向かう日本武尊が三重県の能褒野でお亡くなりになったことから、宮簀媛命は夫の尊から授けられた剣を守り続けることとなった。

その後、媛も高齢となり、先々の剣を守る方法を憂えた。宮簀媛命は尾張 氏の長・学止與命の娘であった関係か



南楠社

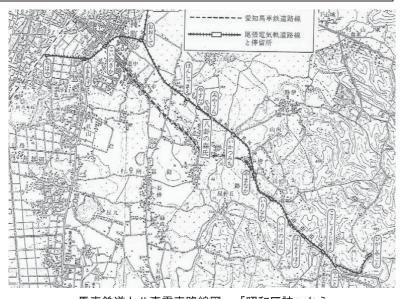
ら、尾張氏の面々に諮った。すると尾張氏の斎場にもなっている蓬莱島・すなわち熱田の 地に祀るのがよいという結論になり、それに従ったのだった。

熱田神宮は、平成25年(2013)に創祀千九百年を迎えたが、宮簀媛命この南楠社で身づくろいを正してから草薙神剣を熱田の地に奉安し、神社を創建した時から数えたものである。時に景行天皇の御代113年のことである。

(10) 火葬場への電車?! - 八事電車と畜魂碑

種 別	民間信仰
所在地	・天白区天白町大字八事字裏山
交 通	・市バス「山手通五丁目」から東へ徒歩約5分
	または、地下鉄「八事」から山手通りを北へ徒歩約12分

八事の交差点から北へ坂 道を10分あまり登ると右 手に広がる八事霊園は、大 正3年(1914)から供用が 開始され、昭和30年代初め まで拡張・整備されてきた。 大正4年には葬祭場が開業 し、この地で火葬と葬儀が 行われるようになった。現 在、約27万2千平行の墓域 におよそ5万基の墓標が立 ち、お彼岸やお盆には多く の参拝者が訪れている。

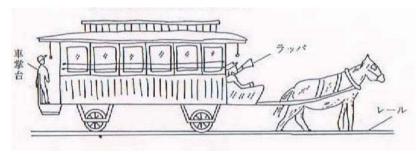


馬車鉄道と八事電車路線図 「昭和区誌」から

斎場は、昭和45年(1970)に人口の増加に対応するため改築され、さらに周辺環境との調和を図るため、昭和59年(1984)から排煙の無煙・無臭化、火葬設備の自動化を企図し、燃料の重油から天然ガスへの転換行う大規模な改修工事を開始し、昭和62年(1987)に完成して今日に至っている。

さて、八事の地には名古屋城下や近郷の人々の信仰を集めた興正寺や江戸時代から行楽地として有名な音聞山がある。その人出を見込んで明治40年(1907)8月に千種中道(現吹上ホール付近)から八事興正寺前までの約3.5 * を結ぶ単線の愛知馬車鉄道が開通した。

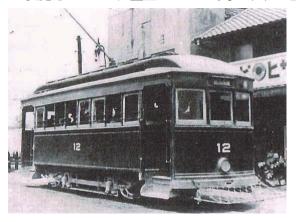
この鉄道の様子を伝えるこんな歌があったという。「片道乗るのが7銭で、往復乗ると15銭、ところどころで地駄起こす、乗ったお客のいいしょには、出したお金は皆返せ」。地駄とは、馬が動かなくなったり暴れたりすることで、怒ったお客が返金を迫ったとことであ



馬車鉄道のスケッチ (早川高徳氏による)

る。こんなことがあり車両も10人くらいしか乗れない小さなものだったせいか、間もなく愛知馬車鉄道の後身である尾張電気鉄道株式会社が、千早と興正寺前を繋ぐ路線の建設を開始したため

馬車鉄道は姿を消した。この敷設工事の排土をもらって村人が協力して現在の広路小学校の校庭を15~30 🕏 盛土したという。当時の地域と小学校の関係を伝える逸話である。



八事電車 12 号車 名古屋市交通局提供

この鉄道は、明治 45 年 (1912) 8月に開業し、通称「八事電車」と呼ばれ親しまれた。開業間もない同年 5月には大久手から今池への分岐線が開設され、大正元年 (1912) 9月には八事へと延長された。当時、「八事へ電車がゆくわいな 1区1銭2区2銭往復切符は13銭…」という今でいうコマーシャルソングを作って宣伝に努めたという。春や秋の行楽シーズンには多くの行楽客を乗せて走り、行楽帰りの客が窓からかざす八事の

蝶々や山ツツジがきれいだったという。時には風で飛ばされた八事の蝶々が本当の蝶のように舞うこともあったとか。

八事霊園の葬祭場が開業した大正4年 (1915)には霊園入口まで延伸された。 これをきっかけとして人身事故を頻発し ていた9号車を「霊柩電車」に改造して、 大正10年(1937)頃から昭和10年(1935) 頃まで走らせていた。この電車の写真が 残っていないため、後日この電車を運転 していた人に話を聞いて復元図が作成されている。柩を出し入れするため車体の 中央両側に開き扉が設けられているが、

引き戸であったという説もある。この鉄道は、昭和3年(1928)に新三河鉄道に経営権が



霊柩電車復元図 一柳葬具総本店提供

昭和3年(1928) に新三河鉄道に経営権が 譲渡され、さらに昭和12年(1937)3月名 古屋市に買収され市営となった。

山手通りを東に折れて斎場管理事務所に 向う道沿いの右手に、「動物慰霊碑(畜魂 碑)」と「万霊供養塔」の標示が立てられて いる。

八事霊園の火葬場では開業当時から動物の火葬が行われていた。当時は、斃死した常用の家畜「斃獣」を火葬することを主な目的としており、その火葬費は、「牛、馬又ハ之ト同等大ノモノ1頭12円、羊、豚又



動物慰霊碑と万霊供養塔の位置



畜魂碑

ハ之ト同等大ノモノ1頭5円、犬又ハ之ト同等大ノモノ1頭1円、猫、幼犬又ハ之ト同等大ノモノ1頭50銭」と定められていた。因みに人は、寝棺と座棺の二種類に大別され、寝棺では12歳以上8円、12歳未満6円、死・流産児2円と定められ、寝棺の方が1~3円安価であった。

この地で火葬に付された家畜類の魂を慰めるために建てられたのが「畜魂碑」であり、火葬骨の一部が納められている。碑の表には「畜魂碑 名古屋市長大岩勇夫謹書」裏面に「昭和五年六月有志寄附建之 長塀甼 水野石材部」と刻まれている。残念ながら、この碑を建てるために寄付した人々についての記録は残っていないが、家畜に関わる業に携わっていた人た

ちと推測される。時が移り、牛や馬などの家畜を飼育し使用する人が減り、火葬動物は犬

や猫などの愛玩動物が主となっていった。このことを 反映して昭和32年(1957)の条例施行細則には、火葬 料として「大型犬又は同等大の斃獣2,800円、中型犬 又は同等大の斃獣1,400円、小型犬又は同等大の斃獣 700円」と定められている。現在、ここで火葬されたペットの慰霊のためお盆やお彼岸には多くの人がこの碑 を訪れ好物を供えている。そんな折には、ちゃっかり それを狙って現れる犬や猫の姿も見られる。



畜魂碑への供物

以前は、ここに猫を捨てる人がいて、その防止を呼び掛ける看板も建てられているが、最



近はそうしたことも減ってきているとのことである。看板に書かれている「動物も人も同じ命です。思いやりと愛情を持って最後まで飼いましょう」という愛護精神が広がってきているのであろう。しかし、平成22年度(2010)に4,600頭近くの犬猫が名古屋市動物愛護センターに収容されているのも事実である。

畜魂碑への供物 各地で「畜魂碑」が建てられているが、その多くは、屠殺場、動物を教育や実験のために利用する大学・高校、あるいは口蹄疫などの伝染病の蔓延を防ぐために処分された地であり、八事霊園のような例は珍しい。

この「畜魂碑」と隣接する水子や遺骨の引き取り手のない人を供養する「万霊供養塔」では年2回供養が行われている。

〈ミニ・データ〉今も残る二宮尊徳像

1 二宮尊徳像

二宮 尊徳像といえば懐かしい響きに聞こえる人も多くいると思う。通称を「二宮金次郎」 という、と表記されることが多いが、実際は「金治郎」が正解だという。調べて見ると「尊 徳」も「たかのり」と読むのが正解だとか。知らなかった。

彼は、実在の人物で、天明7年(1787年)7月23日に相模国足柄上郡栢山村(現在の神奈川県小田原市栢山)に百姓・利右衛門の長男として生まれ、安政3年(1856)10月20日に亡くなっている。

金次郎(通称)の幼少から青年までは、厳しく苦しい生活だった。彼が5歳の時、南関東を襲った暴風で酒匂川の坂口の堤が決壊し、田畑は砂礫と化し、家の田畑も流失した。また、14歳で父が死去、2年後には母・よしも亡くなり、金次郎は伯父・二宮万兵衛の家に預けられた。伯父の家で農業に励むかたわら、荒地を復興させ、また僅かに残った田畑を小作に出すなどして収入の増加を図り、20歳で生家の再興に成功した。

そんな彼が、なぜ、尊徳と呼ばれるほどに有名なのか。それは、江戸時代後期の農政家・ 思想家で「報徳思想」を唱えて「報徳仕法」と呼ばれる農村復興政策を指導しただけでな く、その一方で親しみやすい幾つもの逸話が彼を有名にしたと言われている。

子供の頃にわらじを編んで金を稼ぎ父のために酒を買ったとか、両親の死後、叔父の家にて暮らしていた頃に寝る間も惜しんで読書をしたとか、あるいは、毎日、早起きを奨励した、開墾を奨励した…などなど数多くのことが伝記『報徳記』に記されている。

そんな彼の、薪を背負いながら本を読んで歩く姿の像(「振薪読書図」という)が教育 のために全国の小学校に建てられたことが、最も彼を有名にしたのかもしれない。

2 名古屋市内の尊徳像

名古屋市内にも数多くの二宮尊徳の銅像は残っている。戦後、奉安殿とともにGHQ(連合国軍総司令部)による撤去命令で壊されたはず、という話も聞くが、実際にはなかったようだ。その証拠に、昭和21年(1946)発行の1円札に二宮尊徳が描かれていた。

多分、市内の小学校の片隅にも尊徳像はあるはずである。ただ、最近はみだりに校庭内へ入ることが許されないため実態は掴めないが、垣根の外から見える小学校もある。その一例として、名古屋市立村雲小学校の西門脇に立つ像を紹介しておく。

なお、金次郎が読んでいる本が気になって覗き、 何も書いてないのにがっかりした人は多いだろうが、 実は、儒教の経書として知られる『大学』だと知る 人は少ない。



村雲小の校庭に立つ二宮尊徳像

(11) 市内唯一の跳上橋

種 別	産業遺産
所在地	・港区千鳥二丁目と入船一丁目の間(旧1・2号地間運河)
交 通	・地下鉄「名古屋港」②番出口から約500 な、徒歩8分

1 はじめに

「跳上橋(跳ね上げ橋)」と聞いて、どんな橋を想像されるだろうか。人によって違うかもしれない。戦国時代、敵が城内に攻め入るのを防ぐために堀に渡した橋を引き上げる橋を想像する人がいるかもしれない。あるいはゴッホの絵に描かれた運河に架かる跳ね橋を思い描く人もいるかもしれない。

ここでいう跳上橋は、河川または運河を航行する船舶を通すために動かす橋のことであ

る。英語では、動かすことのできる橋(可動橋)という意味でmovable bridge と言っている。これは船を通すために跳ね上げようが、旋回させようがどちらも動く橋といっておけば済むので便利な言葉である。しかし、ここでは、綱などで巻き上げる(引き上げる)橋という意味から drawbridge と呼ばれる橋である。

かつては洋の東西を問わず数多く見られ たものだが、最近は少なくなった。そのひ とつが名古屋市内にもある。



名古屋港跳上橋の位置

2 名古屋港跳上橋(旧1・2号地間運河可動橋)

少し古い地図を見ると、東海 道線を名古屋駅から2*品ほど南 に行くと、臨港線が分岐して中 川運河の東を通り、名古屋港ま で延びている。中川橋の東に名 古屋港貨物駅とある。線路はさ らに伸び、平仮名の「し」のよ うに堀川の右岸まで延びている。

この橋は「し」の字の途中で 横断する1・2号地間運河に架 けられていて、かつては「1・

2号地間運河可動橋」と呼ばれていた。

名古屋港跳上橋

分かりやすい名前には違いなかったが、平成10年(1998)、文化財登録申請するにあたり 「名古屋港跳上橋」と改められた。 もともとこの橋は、大正時代に名古屋地方が紡績工業で目覚ましい発展をしていた頃、 名古屋港では原料となる綿花や雑貨の輸入量が増大したため、背後輸送のため昭和2年 (1927) に当時の国鉄東臨港線の一部として整備された鉄道橋である。

整備にあたっては、背後企業のひとつだった東陽倉庫(後に三井倉庫と改称)が出した 寄付金10万円をもとにして整備された。橋の北東端にはデリッククレーン(指で作ったチョキのように、垂直の柱と根元から斜めに伸びたたジブがあり、ジブの先端に荷物を吊り、回転できる起重機)が整備され重量物も積み込まれたり、堀川沿いの日塩桟橋からは多くの塩の運搬も行われたりしたが、このクレーンも桟橋も今は撤去されてない。

3 諸 元

幅が約50 にある運河に架かる橋として、全体の長さは63.4 にで、幅は4.7 にある。4 径間あり、可動部分(鋼製跳開可動橋)の1径間の長さは50尺(純径間)で、他の3径間 (固定鋼板桁橋) は40尺である。

可動部は、電動機により開閉時間1回2分で上下させる能力があった。レールは油圧式で結合させる。カウンターウェイトはコンクリート製である。

4 その後

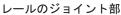
その後は輸送形態がトラックに移り変わって使用頻度が少なくなり、昭和 61 年(1986)、 周辺の臨港線の廃止とともに跳上橋も廃止された。

しかし、名古屋港における景観資源の活用調査の中で希少性・特異性などの観点とともに産業遺産としての歴史的な価値も見直され、平成11年(1999)11月20日、登録有形文化財に指定された。

現在は、機械室の中にあった主な機械も取り外され、可動部は跳ね上げたまま固定されている。動かすためには新たに造る位の改修が必要と思われるが、雄姿を見るだけでもかっての活動ぶりが彷彿とされて興味深い。

もし興味を持って行かれる方があるなら運河の北側から見ることをお勧めする。運が良ければ、途中の稲荷橋と跳上橋との中間にある製粉会社が、真空の力で運河に付けた一般の 船底にある穀物を吸い上げて荷揚げする珍しい光景に出合えるかもしれない。







荒れた機械室内部

<コラム>清洲越し 一町ぐるみの引っ越し一

名古屋の城下町は、およそ 400 年前の清洲からの町ぐるみの引っ越しで出来上がったといえよう。織田信長清洲入城以来関ヶ原の合戦後もしばらくの間、尾張の中心地は清洲であった。しかし、清洲は低湿地に立地するため水害に弱く、天正地震の折には噴砂が発生し大きな被害が発生したことが発掘調査によって確認されている。このため、大坂の豊臣氏攻略を目論んでいた徳川家康は、慶長 13 年 (1608) に新たな城と城下町の候補地の調査を命じた。家康の命を受けた牧信次は、那古野、古渡、小牧城跡を調査し、報告を受けた家康は翌慶長 14 年 (1609) 1 月、那古屋城後の地に城を建設することを決め、11 月に縄張りが開始された。この頃の那古屋は堀詰町・納屋町などの 5 町が存在する美濃路沿いの小さな集落に過ぎなかった。慶長 17 年 (1612) には町割りも行われ、翌 18 年 (1613) に諸士と町人の住居が定められて、清洲からの大規模な移住が行われた。

清洲越しは、武士・商人・職人といった人に留まらず、100 を超える神社・仏閣と橋、 町名までも含む町がまるごと移動するという徹底したものであった。そのため、清洲はす っかり寂れてしまい、「思いがけない名古屋が出来て花の清洲は野となろう」と臼挽き歌で うたわれたという。

尾張藩が城下の有力町人に由緒の書き上げを命じて編纂された『寛延旧家集』記載の 115 家の町人のうち 97 家が清洲から移ってきており、その中には御勝手御用達の筆頭となり後年松坂屋を興した伊藤次郎左衛門家の本家にあたる仁兵衛家や鋳物師頭水野太郎左衛門家などが含まれている。これら清洲越しの町人は名古屋商人の中核を成し、本町通りの東側に多く居住した。

清洲から移転した神社・寺院としては、広小路通に面する朝日神社・中区新栄の白山神社、東区の長久寺や高岳町の地名の由来となった高岳院などがある。朝日神社は清洲の朝日に鎮座していたが、慶長16年(1611)に現在の地に遷座し、広小路神明宮とも呼ばれた。また、架け替えられているが堀川の五条橋は、清洲の五条川の橋を移設したもので、今風



朝日神社(中区錦)

に言えばリユースということになる。その擬宝珠は名古屋城に保管されている。

名古屋の中心部には、錦へと地名変更されたものの長者町・伊勢町・御園町・長島町などという清洲由来の町名が通・筋の名として残っている。

清洲越しのルートについては、陸路と水路が考えられる。陸路は、清洲から枇杷島橋を渡って名古屋に至る道であるが、当時の橋は荷車が通行できなかったため大きな荷物の運搬には難渋したことであろう。水路は五条川から庄内川を経由して海に出て熱田から堀川を遡上するルートである。この方法なら堀川の河口から堀留の高低差が2.4 気なので建築材などの大型の荷物の運搬にも適していたであろう。

<コラム>草薙の剣のルーツ

名古屋の人なら大抵の人が三種の神器のひとつである草薙神剣が熱田神宮に記られていることを知っている。しかし、その誕生物語から、どんな変遷を経て熱田神宮に祀られるようになったかを知る人は限られてくる。

話は、神代の時代にまでさかのぼる。太古、高天原から降りてきた素盞鳴尊が奥出雲(島根県)にある船通山で、村の娘を次々に餌食にしてきた人岐大蛇 (八つの頭と八つの尾を持つ大蛇)を退治したとき、大蛇の尾から見事な大力を得た。それは実に見事な大刀だったので「天叢雲剣」と名付けられて天照大神に献上された。

剣は、その後、天照大神から瓊々 尊 が降臨の際に 天 璽 之 神 宝 のひとつとして授けられ歴代天皇の神璽 (皇位の印)として宮中にとどめられた。その後、剣と鏡は宮中を出て、大和の笠縫邑にとどまった後、伊勢国五十鈴川上流の地 (現在の伊勢神宮) に鎮められた。

時は経て、日本武尊が父親の景行天皇からの命で東方征伐に向かうとき、叔母の養姫 ・ おきから天叢雲剣と火打袋を授けられた。そして、日本武尊が駿河国(現在の静岡県)で賊 から野火を仕掛けられたとき、剣で草を薙ぎ、火打ち石で向え火を点けて危機を免れた。 この故事から剣の名は「草薙の剣」と名を変えられた。

東国を一巡し、無事に東方征伐を終えた日本武尊は、尾張国氷上郷(名古屋市緑区大高)に戻った。そこは征伐に向かう前、尾張国の出身者である建稲種命から勧められ、征討会議と休息に立ち寄った場所だった。そして、そこで出会った建稲種命の妹である宮簀媛香から気投合し、帰国の暁には結婚することを約束していた場所でもあった。

かねての約束通り日本武尊は、宮簀媛命を妃に迎え、二人で風光明美な氷上郷に館を構えて幸せに過ごした。ある日、日本武尊は伊吹山に賊ありと聞き、剣を宮簀媛命に託したまま出かけた。ところが、山中で賊の毒気にあたって重態となり、ふらふらになって山を降り伊勢国の能褒野(三重県亀山市)で力尽き、あっけなくも亡くなられてしまった。

日本武尊の亡き後、一人残された宮簀媛尊は、夫の形見というだけでなく草薙剣の託された深い意味を思い、末永く守り続ける決心をした。しかし、寄る年波に将来へ守り続けてゆくことの難しさを憂え、父の事止與命が長となっている尾張一族に相談をした。占いの結果は、尾張一族の斎場(祭りを行う清浄な場所)としていた熱田の地に社を建て、そこに奉安することが最良となった。

そこで、宮簀媛命は、氷上の里から草薙剣を捧持して熱田の地へ向かった。熱田の地を 目前にして宮簀媛命の一行は、一本の大きなクスノキの木陰で休息し、身繕いを正してか ら熱田へ剣を奉斎した。

こうして剣は、草薙神剣として末永く熱田神宮に祀られ、現在も本殿に安置されている。 館のあった氷上郷には元宮と氷上姉子神社が祀られ、休息地には南楠社が祀られている。 (出典 『古事記』、『日本書紀』、『尾張国熱田大神宮縁起』。 なお、表記は、出典によって異なっているため、熱田神宮が用いている表記に統一した)

3-4 秘めたる

(1) 遺骨で造った観音菩薩像

種別	寺院、建築物
所在地	・中村区名楽町、賑町、寿町等
交 通	・地下鉄桜通線「中村区役所」から徒歩 10 分

かつて名古屋中村遊郭のあった大門地区は、名古屋駅の西(新幹線側)から約1.5 *。 に位置し、新大門商店街振興組合を中心に 街の賑わいづくりを進めている。

地下鉄桜通線の終点「中村区役所駅」から太閤通りに沿って西に500 に行くと、大門通りとの交差点にあるお祭りをイメージしたモニュメントと道路を跨ぐ商店街のアーチがあり、大門の入り口であることが分かる。最初の路地を東に少し行くと中村観音「瑞龍山白王寺」がある。



職鬼頭旦舟師が米野火葬場に放置されていた無縁の遺骨を供養するためと、地域の発展守護を願い、フランス留学から帰った仏師花井深嶺氏を招いて、昭和4年(1929)十一面観音菩薩像の制作に着工した。花井氏は毎朝水ごりを取られ、左手に数珠を、右手にコテを持って精魂を傾け、無縁仏の遺骨を固めて、慈悲深いご尊顔の包容力溢れる観音様が昭和8年(1933)に完成した。



中村観音「瑞龍山白王寺」の位置

普段は扉が閉まっているが、お寺の正面の硝子戸の小さな穴から、高さ8~の本尊十一面観音菩薩像が見え、大きさに驚かされる。何と重さ4千貫(15~)もある。

昔の遊郭では病気や虐待によって 命を落とす娼妓が少なくなく、身売 りされてきた娼妓たちは無縁仏とい うことになる。昭和の始め、初代住



本尊十一面観音菩薩像

この本尊の前に安置してある如意輪観世音菩薩は、尾張徳川家の別荘(熱田神宮前の浜御殿)に祀られていたもので、当初からの本尊である。

また、境内にある芸人塚は「習い事成就」の塚として親しまれ、芸人はもとより学業や

習字・詩吟などの習い事全般の上達を願うため、遠近よりお参りが絶えない。由来として、徳川藩主宗春の頃から芸どころとして栄えた名古屋は、明治以降東西芸人の交流地となって独自の芸風を生み、有名無名の数多くの芸人が活躍した。そうした芸人の行跡を称え、往時の名古屋の芸を現代につなげる意味から、父母のお骨を白王寺に納めている松竹新喜劇の藤山寛美を始め、有志の方々



芸人塚

の発案により昭和50年(1975)に建立された。路傍の石にも似た芸人塚で、原石を三重県 菰野から持ってきたもので、塚に刻まれる「芸」の文字は、御園座元社長の長谷川栄一の 染筆である。

中村遊郭は、大須観音近くにあった旭廓が一斉移転して造られた花街で、大正 12 年 (1923) に一挙に出来上がり、その年の4月1日から営業を開始した。娼家138 軒、娼妓 2,000 人という規模の都市が、極めて計画的に造られた例として、都市計画史的にも重要な意味を持っている。日本の遊郭の理想形態である、ほぼ正方形で街を囲い込んで入口を制限し、中央に1本とそれに直交する数本の道路により長方形の街路に区切る構成になっているが、大門ではこの方式を継承しながらも、四隅に斜めの道路をつくり、パリの放射状道路の影響を受けた形になっている。



長寿庵

当地区には名古屋市都市景観重要建築物に平成5年(1923)に指定されて「長寿庵」、「松岡大正庵(旧松岡旅館)」、「旧料亭稲本」、「料理旅館大観荘」の4軒の建物があったが、「大観荘」は壊され、現在は3軒だけが残っている。

そのひとつである「長寿庵」は、大 門通沿いに面して建っており、かつて の遊郭の中庭から南側を残し、住宅と して改修した建物である。

1階の連子格子や2階の高欄など当

時の郭建築の特徴を残しながら、花斛の座った張り見世や赤色の漆喰などを復元した。張

り見世とは、娼妓が往来に面した店先に居並び、格子の内側から姿を見せて客を待つもので、当時の張り見世の雰囲気を再現するため、建物の南側玄関脇に美人画を飾ってある。

「長寿庵」から北西に「稲本」がある。「稲本」は中村遊郭の中でも四海波と並ぶ大店で、京都島原の角屋を参考にして造られた揚屋風の遊郭であり、建物をそのまま生かして料理屋を営業していたが、現在はデイケア施設として利用されている。入口の門は竜宮城を思わせる中国風で、多くの部屋も数寄屋風、書院風、中国風や蔵造り、農家風の部屋が並んで、廊下を路地に見立てて、それぞれの部屋が独立した建築のように入口の庇を廊下に突き出している。

また、中村遊郭の地下に沸いた温泉は、愛知県が認定した温泉で、泉質はメタケイ酸泉として長く親しまれていたが、現在はなくなった。「稲本」、「四海波」、「松岡旅館」、「大観荘」の4軒が共同で中京温泉として運営していたもので、現在は廃業している。



稲 本



松岡旅館



四隅の斜めの道路



商店街の大門祭を表したモニュメントとアーチ

〈ミニ・データ〉堀川で出会う不思議

種別	産業・史跡
所在地	・中村区名駅3~中区大須1 岩井橋
交 通	・地下鉄「大須観音」 3番出口から南西へ約 700m、徒歩 11 分

1 岩井橋

岩井橋は、名古屋市が大正8年(1919) から開始した五大幹線道路開設の第1号 として建設に着手された大須通に架けら れた。橋側面の飾り板は、第二次世界大 戦前に架けられた橋で、現存する日本で 唯一のものとなっている。

この橋のたもとの四隅には、川面にまで下りて行ける階段がある。だが、実際は土木事務所が設置した柵があるため降りるわけには行かない。しかし、全貌を観ることは容易である。



岩井橋のたもとにある階段と石柱

階段の一番下に不思議な石の柱が建っている。直径が約30 ギ、高さが50 ギもあるだろうか、頭が少し大きくなっているのでこけし人形が立っているようにも見える。



こけし人形 (石柱)

なぜ、岩井橋にだけ階段が付いているのか。そして、あの 石のこけし人形は何のために建てられているのだろうか。

そのヒントが橋の南東部に建つ「土木学会選奨土木遺産」の碑にある。

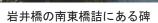
かつて堀川は船運の大動脈だった。織田信長の時代、納屋 橋あたりは塩干物や乾物問屋など多くの商家が並んで船を利 用していた。堀川の両岸に立地していない企業が荷役を行う

には共同河岸を利用した。岩井橋は共同河岸のひとつ だった。こけし人形は船を係留するための係留杭だっ た。

南東角の係留 杭の1本はなく なっていたが、 土木学会から平 成19年(2007) 土木遺産として 認められた。



「土木学会選奨土木遺産」の碑



(2) 名古屋城・石垣の謎

種別	民間信仰・秘話
所在地	・中区本丸1番1号 名古屋城
交 通	・地下鉄「市役所」下車、北へ約 200 仁、徒歩 3 分で東門へ
	・市バス「名古屋城正門前」から正門へすぐ

1 陰陽石とは

「陰陽」という言葉がある。辞書には「1 天地間にあって、互いに相反する性質を持つ 二つのもの。月と日、冬と夏、北と南、水と火、女と男など。おんよう。2 電気、磁気な どのマイナスとプラス、陰極と陽極、陰電気と陽電気。3 生け花で、葉の裏側の日光があ たらないところ(陰)と、日を受ける表側(陽)。陽を上に向くようにいけるのが定則」 (出典 小学館・マルチメディア統合辞典)とある。

また、「陰陽」に別の言葉を付属させた様々な言葉もある。「陰陽崇拝」は、農作物を豊かにみのらせる呪力として男女の生殖器を崇拝することであり、「陰陽説」は、陰陽二気が互いに消長し調和して自然界の秩序が保たれているように、政治、道徳、日常生活などの人間の営みはすべて陰陽の変化に順応することでうまくゆくとする考えである。これは、道徳の根元の天と人の一体を説く中国思想で、長くその形而上的根拠となり、また、五行説とも結びついて流行した。

何か難しくなりそうだが「陰陽」の考えは、ヒンドゥー教で崇拝されるリンガ (男根型の石柱) などに見られるように、洋の東西を問わず数多くある。

2 名古屋城の陰陽石



名古屋城位置図

に消長し調和して自然界の秩序が保たれているように、すべて陰陽の変化に順応することでうまくゆくとする考えで、それぞれの職人たちが自分たちの責任である構築物などについて、無事の完成などを祈念して作業に邁進して

名古屋城の築城に際しては、様々な 職種の職人が、様々な任に当たってい た。名古屋城の陰陽石は「陰陽説」で いわれているような、陰陽二気が互い

いたと想像できる。

一般に「陰陽石」は、男女の陰部に似た形の石で陰石と陽石がある。俗信によって、この二石を並べて祀ったりする、とされているものである。職人たちは、これを自ら手掛ける構築物などの中に巧みに組み込んで、無事の完成や安全を祈念したのである。

「名古屋城の陰陽石」という言葉でインターネットを検索すると、二之丸庭園の北西部に あるとして、写真付きでヒットする。写真では、左右に分かれた石組みに「陽石」と「陰 石」が説明されている。見方によっては、その様にも見えないこともないが、要領を得ないので現地へ行って確認してみた。しかし、見る位置を色々に変えてみても、 写真以上に分かり難い。どうも無理やりにこじつけたのではないかと思える。

ところが誰が見ても「間違いない」と思えるものが、石垣の中に隠されていたのである。漫然と見ていては決して分からないが、注



インターネットの「名古屋城の陰陽石」

意して見れば「えー」と驚き「なるほど」と納得すること請け合いである。それ程巧みに 隠されているのである。



「名古屋城の陰陽石」の内、「陽石」

しかし、不思議なことがある。見つかったのは「陽石」だけで、あちこち探しても「陰石」が見つからないのである。「陽石」を見つけた眼で探すが、何かの意味を持っているのではないかと思われる様々な形の石組みや、これも「陽石」ではないかと思える様な石組みが続々と見つかるのだが「これぞ『陰石』なり」と

いう決定的なものが見つからないのである。まさに謎なのである。





何か意味がありそうな石組みやこれも「陽?」と思われる石組み

さらに不思議な話が続く。名古屋城では偶然に崩れた石垣の裏から石仏などが出土しているということである。これらも「陰陽石」と同じく、職人たちが、自分たちの力量が如何に優れていようとも、とても自然の力には打ち勝てないことを覚り、神仏に祈る思いを込めて石仏などを密かに石垣の背後に埋めたものと考えられないだろうか。

名古屋城総合事務所を訪れ、石垣の裏から出土品を特別に見せてもらえないかとお願い



石垣の裏から出土した品々

にあがった。すると「何も特別でなく、いままでも展示館で見せていましたし、これからも展示しますよ」ということだった。それでも書類を提出し「特別に」全てを一度に見せてもらえることとなった。

石仏や仏頭だけでなく、 宝塔や地蔵など実に様々 なものがあった。

それらの中には部分的

に欠けているものがあったので、不審に思って訊ねると「裏込め材として用いたので、丁 寧な扱いなどしていません。だから割れたり欠けたりしているのでしょう」という学芸員 の説明に唖然となった。ちなみに「裏込め材」とは、土木用語で、擁壁や石垣などで背後

からの土圧を軽減するため割栗石など の石材を壁の裏側(土のある側)に詰 めるもの。

我々が勝手に想像していたことは見 事に打ち砕かれた。というのも、現在 の我々だったら仏様の頭や宝塔を裏込 め材などに使うことなど考えもしない だろうし、仮に使うことになったとし ても、丁寧に扱い、決して欠けるよう な乱暴な扱いはしないだろう。

当時の時代の人たちは案外と割



欠けている宝塔の一部

り切りのいい人たちだったに違いなく、時代とともに世相の違いが随分と変化していることを考えさせられた。

しかし、陰陽石の「陰」が香として見つからないのは依然として謎である。名古屋城へ行く度に、石垣を眺めながら「陰石」を探す楽しみはまだ残されている。

〈ミニ・データ〉掘ったら出てきた奉安殿

種 別	戦争遺産、文化遺産
所在地	・緑区大高町 大高北小学校南
交 通	・JR「大高」下車、西へ約250 た、徒歩4分

1 奉安殿

奉安殿は、戦前、御真影 (天皇・皇后両陛下の写真) と教育勅語を納めるための小さく 頑丈な建物のことで、全国の小中学校に設けられていた。奉安殿が造られたのは、明治末から大正の初め頃 (1910 年代) に御真影の下賜が始まった頃とされている。

学校の重要な式典には、教師・生徒全員で奉安殿から出された御真影に最敬礼し、教育 勅語の奉読が行われた。普段でも奉安殿の前は脱帽し、一礼して通ることが習わしだった。

当初は、校長室や校舎内に奉安所とか奉安庫として設けられていた。しかし、当時の空襲によって御真影が危険に遭う恐れがあるとして、堅固で独立した建物に変わっていった。

校舎から分離された奉安殿は、見た目にも土蔵や金庫を思わせる耐震耐火構造とされ、 レンガ造りの洋風建築、ギリシャ建築風の鉄筋コンクリート造りあるいは神社建築風など と様々な意匠を凝らしていた。

昭和20年(1945)に終戦を迎え、GHQの神道指令により多くの奉安殿は解体されたが、一部に外観を活かして神社に転用されたり、地中に埋設されたりしたものもあった。

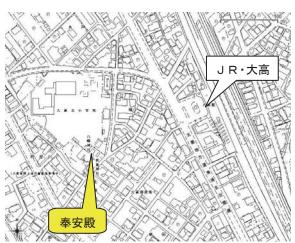
2 緑区の奉安殿

緑区の大高北小学校の南にある奉安殿は、 名古屋市大高北消防団の建物を造る工事の ために同小学校の校庭の片隅を掘っていた 時に見つかったもの。現在は、きれいに手 入れされて消防団と八幡神社の間に安置し、 学区の資料保管庫とされている。



奉安殿正面

後日談として、 正面の菊の御紋 は掘り出された 時には無かった が、その後、消防 団の別の詰所に保 管されているもの が見つかったもの だという。



奉安殿の位置



大高北消防団 (右のフェンスは大高北小学校)

(3) クスノキから出てきた如来像

種別	神社・民間信仰
所在地	・北区山田町3-25 山田天満宮
交 通	・地下鉄「大曽根」⑤番出口から、北へJR中央本線沿いに約 500 仁、徒
	歩8分

1 「瓢箪から駒が出る」

「瓢箪から駒が出る」という「諺がある。これは、瓢箪のような小さなものから、瓢箪より大きい仔馬(駒ともいう)が出てくるはずがないこと。意外な所から意外なものが現れることのたとえ、あるいは理屈上あるはずのないことのたとえを言う。

こんな「瓢箪から駒が出る」の現代版といった話がある。それは、山田天満宮の境内の



山田天満宮位置図

一角に祀られた大きなクスノキの切株にまつわる話である。結論から言えば、このクスノキの大木の根元から如来像が出てきたのである。かれこれ20年近く前、境内に生えていたクスノキが大きくなり過ぎ、脇にあった社務所の壁を壊すまでになった。このため建設業者に伐採を依頼した。クスノキは高さ約20年、直径約1年もある大樹だった。

クスノキの一部を譲り受けた建設業者 は、根元の太い部分を輪切りにしようと したところ、チェーンソーの刃が何かに





如来像の出てきたクスノキの切株

当たった。小さな根や石、土などを取り除いて調べてみると仏像が出てきた。仏像は、蓮台に座った高さ $16 \stackrel{*}{}^{\flat}$ の阿弥陀如来像だった。見つかったのはクスノキの根元から地表面上約 $20 \stackrel{*}{}^{\flat}$ で、かつて枝分かれしていた枝と枝の間に置かれていたようだった。それが樹木の成長とともに如来像を巻き込むようにして成長し、外から見えなくなってしまったものと

推察される。

この話は、平成6年(1994)3月のことで、それ程古い話ではない。この話は「平成名 古屋の"竹取物語"」として新聞で取り上げられ、さらにテレビでも報道された。クスノ キは、大正時代の末期に植えられたというから90年も経ておらず、また、仏像は金属製で 金メッキが施されていたが、台座にはネジ釘で止められていたことから昭和 30 年代頃 (1955~) のものと仏具店の人は想定している。

如来像の行方を知りたくて、山田天満宮の社務所で訊ねてみた。すると、見つけた建設 業者は、その後倒産して連絡が取れなくなったため如来像の行方も不明ということだった。 山田天満宮に隣接する名古屋二十一大師・八番札所の常光院では、本尊が阿弥陀如来像と いうことだが、これとは別物でまったく関係がない。

しかし、如来像が出てきた空洞を持ったクスノキの輪切りは、神聖なものとして現在で も山田天満宮の境内に祀られているのでお参りすることができる。

2 山田天満宮

創建は、寛文 12 年(1672)、尾張二代藩主光友が、藩の学問祈願所と名古屋城鬼門の守 護神として大宰府から分霊し、創建したと伝えられている。初代藩主義直は、早くから儒



山田天満宮

天では、笊に金銭・宝くじ・財宝等を入れ、柄杓で御神水を汲んで恵比寿様・大黒様にそ れぞれ三度かけ、その流れ出た御神水で笊 の中の金銭・宝くじ・財宝等を洗い清めて から財布などに入れて持てば、福徳利益の 御神徳が授かると言われている。

寛文12年(1672)、尾張藩主徳川光友が 名古屋城から見て北東(鬼門)の玄関口と して、一切の厄災を除く八方災難除け祈願 宮としてもお祀りされたことから、「地相・ 家相・方位除け・鬼門封じ」として、極め て御神徳が厚い。

学を奨励していたこともあって、光友もそ の志を継ぎ、広く庶民の間に天満信仰が高 まったといわれる。なお、矢田川の「天神 橋」は本社の名が由来とされている。

昭和58年(1983)には、「大将の宮」と もいわれる金神社を合祀した。同神社は、 ジャンボ宝くじで一等に当選した人が出た ことから宝くじ当選祈願の御利益のあるこ とで一躍有名となった。隣にある銭洗い弁



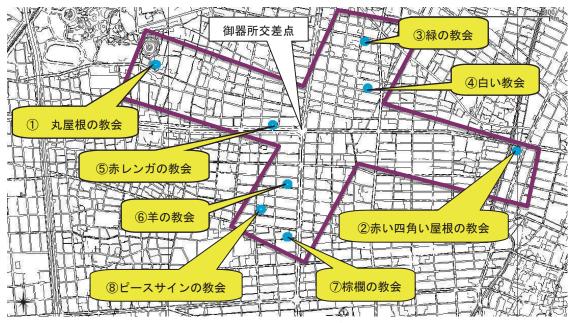
銭洗い弁天での銭洗い

(4) 御器所交差点を中心としたグランド・クロス

種 別	教会・パワースポット・街あるき
所在地	① 昭和区山脇町1-3-3 名古屋ハリストス正教会 神現聖堂
	② 昭和区壇渓通1-25 名古屋聖書パブテスト教会
	③ 昭和区曙町3-18-1 名古屋神召キリスト教会
	④ 昭和区北山町3-41 末日聖徒イエス・キリスト教会御器所ワード
	⑤ 昭和区御器所通2-15 日本基督教団御器所教会
	⑥ 昭和区明月町2-53-1 名古屋聖マタイ教会
	⑦ 昭和区桜山町1-12 日本基督教団桜山教会
	⑧ 昭和区恵方町2-15 カトリック恵方町教会
交 通	・地下鉄「荒畑」、「御器所」、「吹上」、「桜山」、「川名」の各駅から徒歩1~
	15 分

御器所の地名は古く、鎌倉時代の文献にも見られるという。この御器所の由来について『尾張志』には「御器所荘」として「府城東南一里にあり。此地は古 熱田御神領で神事に用いる土器を調進する故に御器所と名つけたるよし」と記されていると聞く。江戸末期から昭和初期にかけては、「ごきそ大根」と呼ばれるタクアンでも有名な地だったようだ。今ではその御器所の交差点を中心として、ギリシャ正教・カトリック・プロテスタント・

イングランド国教会・モルモン教などなど、キリスト教にまつわる多数の教会が何故か、 大きな十字(グランド・クロス)を形成するかのように集まっている。



御器所交差点とその近隣の教会群(グランド・クロス)

中世ロシア風の聖堂や色あざやかな色彩、多国語に対応した礼拝、塔の違い、ステンドグラスなど、それぞれに個性的な洋風建築様式や愛らしいモチーフを探しながら眺めつつ、ぜひ街あるきを楽しんでみてはいかがだろうか?

(1)丸屋根の教会(名古屋ハリストス正教会 神現聖堂)



地下鉄「荒畑」①番出口から西へ約 200 に行き、北へ右折れし約 400 に、名古屋市 内最大の八幡古墳近くにある。

名古屋では、明治7年(1874)から伝道 を開始した正教会は、東方正教会と呼ばれる。



(2)赤い四角い屋根の教会(名古屋聖書パブテスト教会)

地下鉄「川名」④番出口すぐ。

パブテスト派は「 I have a dream.」のマーティン・ルーサー・キング・Jr 牧師やジミー・カーター大統領で有名なプロテスタント教派のひとつ。





(3)緑の教会(名古屋神召キリスト教会)

地下鉄「吹上」から約500 に南東にある。飯田街道を南東に行き、塩付街道との信号交差点から1本手前の道を南へ右折し、バスの通る道の交差点にある。





(4)白い教会(末日聖徒イエス・キリスト教会御器所ワード)

地下鉄「御器所」①番出口から東へ約300~の広路通1の信号交差点を北へ左折し、約200~の塩付通2の信号交差点を西へ左折するとすぐ右にある。モルモン教の教会。





(5)赤レンガの教会(日本基督教団御器所教会)

地下鉄「御器所」⑥番出口から西へ約150行った右側にある。



日本基督教団は、プロテスタント諸教派 が合同して宣教・伝道の任にあたる合同教 会として昭和16年(1941)に発足している。



(6)羊の教会(名古屋聖マタイ教会)



1534年、ヘンリー8世の離婚(正確には、スペイン王室出身のキャサリン・オブ・アラゴンとの「婚

姻の無効」)を機に、カトリックから独立した英国国教会系の流れを汲むプロテスタント派の教会。



地下鉄「桜山」と「御器所」の中間にある柳城大学前にある。



(7)棕櫚の教会(日本基督教団桜山教会)

地下鉄「桜山」®番出口から北へ400 たの桜山町1の信号交差点の1本手前の道を西へ 左折すると右側にある。棕櫚の高木が目印。保育園を併設している。





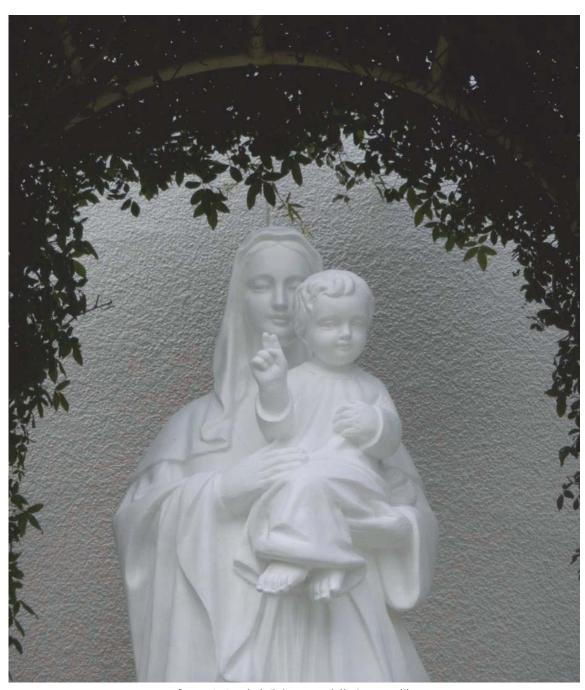
(8)ピースサインの教会(カトリック恵方町教会)

地下鉄「桜山」と「御器所」のほぼ中間にある。恵方町の信号交差点を西へ約 200 気行った左側にある。敷地内に福祉施設(AJU)を併設している。

ピースサインのキリストを抱くマリア様は、教会の入口のすぐ右わきにある緑のアーチの中に立っている。道路から少し入るが、誰でも自由に見ることができる。







ピースサインをするキリストを抱くマリア様

(5) ルルドの奇跡・名古屋にあるルルドの洞窟

種 別	教会
所在地	・東区白壁二丁目 日本カトリック教会主税町教会
交 通	・市バス「清水口」あるいは「東片端」、または地下鉄「高岳」①番出口を左
	に、高速高架橋に沿って北に、信号機4つ目の交差点手前角

1 ルルドの泉とは

フランス西部、スペインとの国境に近いピレネー山脈のふもとにあるルルド村マッサビエルにある洞窟とそこから湧き出でる泉。現在は人口 1500 人の村だが、ここに年間 600 万人の巡礼者が訪れる。1858 年(日本では安政 5 年) 2 月 11 日、この村に住む 14 歳の粉屋の少女ベルナデッタ・スビルーが郊外のマッサビエルの洞窟のかたわらで薪を集めていた折に初めて聖母マリアが現れたと言われている。

少女ベルナデッタが「あれ」がここに聖堂を建てるように望んでいると伝えると、神父はその女性の名前を聞いてくるように命じたところ、自分は「無原罪の御宿り」であるとルルドの方言で告げた。最初、聖母出現の噂は、当然ながら教会関係者はじめ多くの人々からは疑いの目で見られた。

粉屋の少女は当初自分の前に現れた聖母マリアを「あれ」と呼んで聖母とは思っていなかったが、これによって神父ら周囲の人々も聖母の出現を信ずるようになった。

この後、18回にわたり少女の前に聖母が姿を現したと言われ、1864年(元治1年)にその場所に聖母像が建てられ、この話はたちまちョーロッパ中に広がり、最初に造られた小さな聖堂には大勢の巡礼者が訪れる様になり、大聖堂が建てられた。いまでは年間600万人もの巡礼者が訪れる聖地となった。

2 名古屋にあるルルドの泉

日本では、維新期に来日したカトリック司祭により広く紹介され、明治 28 年(1895) 長崎県五島の玉之浦町にルルドの洞窟の模型が作られ、その二番目として、名古屋市東区にある名古屋カトリック主税町教会にドマンジェル神父の尽力とドイツ人技師の手により建設着手、明治 44 年



名古屋カトリック主税町教会の位置

(1911)、陸軍戸山学校音楽隊も出動して盛大な完成式(祝別式)が行われた。名古屋カトリック主税町教会は聖母教会とも呼ばれて近所の人に親しまれており、以前には聖母幼稚園も併設されていたが最近児童の出生数減少により閉園された。

この辺りは維新前までは尾張藩の上~中級武士の屋敷があったが、維新以後は白壁町、

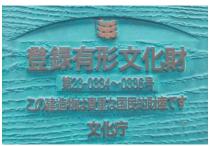


名古屋カトリック主税町教会と鐘楼

が多く存在している。

主税町教会に造られたルルドの洞窟は、下の写真にあるように、教会の裏側東南の角にあり、間口5~6 に、高さは約3 にで溶岩(富士山麓からもたらされたと言われている)や自然石を組み合わせて作られ、洞窟の右にはマリア像が安置されている。

撞木町とともに高級住宅街に変貌 し、近年は高級マンションも建て られる様になった。付近には、旧 豊田佐助邸、岡谷邸、春田邸(春田 集合住宅は昨年・平成25年に取り 壊されたのは残念であった)、川上 貞奴邸、桜井邸、井元邸(撞木館) など明治、大正期および昭和初期 に造られた文化的価値の高い住宅



登録有形文化財に指定された教会



ルルドの洞窟



牧師館



マリア像

3-5 隠れたる

(1)旧名古屋商工会議所(名古屋商法会議所本館)

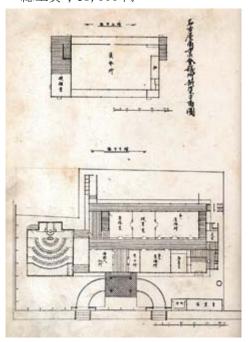
種別	登録有形文化財
所在地	・東区筒井1‐703‐1 宗教法人 徳興山建中寺内
交 通	・市バス「東区役所」または「山口町」で下車、南へ約300 に左折すぐ

建築年次;明治28年(1895)7月着工、明 治29年(1896)1月竣工

建築時の場所;名古屋市栄町七丁目九番 移築年時;昭和9年(1934)

構造および形式など;入母屋造木造二階建、瓦葺、建築面積454平方に(議事堂を除いて135坪)

総工費;18,000円





旧名古屋商工会議所の位置



左側に洋風平屋建議事堂、右が二階建本館

建築当時の部屋の配置図

上は建物の配置図で、1階左側には洋風の議事堂があったが現在はない。また、車寄せ も現在はない。

この建物は、現在の栄 100 気道路あたりに建てられたが、その後中区大池町に移築された。本館の左側に洋風の平屋建て議事堂 (139 坪) が付設されているが、これは大池町移転に際して一宮商工会議所に売却された。

この本館は、大正10年(1921)に大池町に移築、同11年、商工会議所ビルが同地に鉄筋コンクリート3階建てのビルとして建築されることになったため、建中寺に売却、移築された。

建中寺に移築され徳興殿と名付けられた本館は、建中寺敷地の東端ほぼ中央に位置し、

幼稚園の背後にあるため外部からは全体像はつかみにくく残念である。

建物の内部は、銅板葺きの唐破嵐のある玄関や議事堂を除いて、建築当時の配置図のように、移築された当時のまま残されており、重厚な造りであったことがしのばれる。



建物、西南角から見た





正面玄関から二階への階段





二階の廊下及び広間の天井

(2) 名古屋三珍狛犬

種別	神社
所在地	・熱田区金山町1-16 金山神社
	・熱田区新尾頭1-9 住吉神社
交 通	・金山神社:地下鉄「金山」から南へ約300 に、県道29号線を右折、右側
	・住吉神社:地下鉄「金山」から南へ約300 仁、県道29号線を右折、さら
	に約300 た、堀川・住吉橋の手前右側

1 金属製の狛犬(金山神社)



金山神社拝殿

神社には、大抵、狛犬がある。ここにもご多分にもれず拝殿の手前に石の狛犬が鎮座している。狛犬愛好家によると珍しい狛犬だと言う人もいるという。しかし、ここで紹介したいのは拝殿の中にある金属製の狛犬である。

拝殿でのお参りの後、扉越しに中を拝見すると、ご本殿につながる 渡殿の手前、一段低くなった場所に

もう一対の狛犬が鎮座している。

しかも、それらはカラフルな色が付いている。右側は金色、左は銀色なのである。これ が金属でできた狛犬である。

宮司の話によれば、中は空洞でなく素材についても詳細は分からないが、多分、鋳物だろうという。

狛犬が置かれ



拝殿内部 (両側に金属の狛犬)

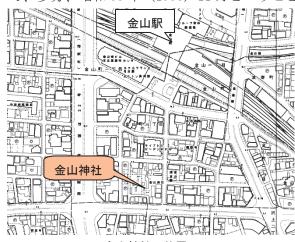




金属製の狛犬 (金色と銀色)

た台を調べても、記録らしい文字は見当たらない。

宮司が何度も代わったため、詳しいことは伝えられておらず、制作年代もはっきりしないという。ただ、ご社殿の改造の折に寄進されたようだということから、記録をたどると意外に新しい。「獅子狛犬一対金銀極彩色」として水野善治・木村弥作の名が見えるが残念ながら寄進の日付がない。しかし、「社務所建設寄付者」の中に木村弥作商店の名があるので、多分、昭和33年(1958)11月ということが推察される。



金山神社の位置

『尾張名所図会』に講が組織されたことや『熱田問答集』に名古屋城築城の時、石工らが勧請したなどということが記されている。

当社は、古くから鍛冶・鉄鋼の神様として 信仰を集め、当地方の金属関係の大小の企業 からの寄進の記録がみられる。

「ふいご祭」が大祭として有名で、毎年11月8日に行われている。かつては境内で鍛冶を行っていたという記録もある。

金山神社は、地名の元になった神社であるだけにその歴史は古く、承和年中(834)に熱田神宮社家であった修理職の鍛冶・尾崎彦四郎の祖が屋敷内に勧請したと伝えられている。



金山神社正面

2 名古屋最古の狛犬・角を持った狛犬(住吉神社)

住吉神社の狛犬は、名古屋で一番古いと言われている。名古屋最古と言われる所以は、 狛犬の台に刻まれた寛政元年(1789)の文字である。名古屋市内の狛犬の年代をすべて調





住吉神社の狛犬

べた人がいるかどうかは分からないが、多くの神社の狛犬の年代は、これより遥かに新しいから、名古屋最古は本当なのだろう。

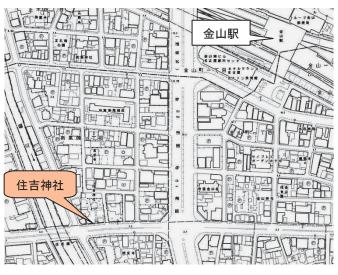


雌の狛犬の頭部

摂津国の住吉神を勧請して新尾頭町の東側に堂宇を構えたが、宝暦12年(1762)に現在の位置に定めたという。大阪廻船名古屋荷主の笹屋惣七、藤倉屋長六ら12名が運漕守護のために奉還したもので、後に、江戸廻船講中・時田金右衛門らも加わり、威霊は遠くの沿岸にまで及んだ。

狛犬であるが、一見変哲もないように見える。しかし、よく見ると頭の上に角を持っている。それも 雌の方がよくわかるのが面白い。

住吉神社は、俗に船の神様、水運の神様と言われているが、創立の歴史は古い。享保19年(1734)に



住吉神社の位置

社地は、堀川東岸に切り立った高台を占め、かつては西南にひらけた眺望はさえぎるものなかったことから名勝の地といわれていた。

また、境内の人丸・天神両社をあわせて和歌三神としての崇敬がおこり、松坂屋の先祖伊藤祐民は、社前に有志をつどえ和歌法楽をもよおして、数多くの詠草を献上したという。

3 名古屋一小さな狛犬(住吉神社)



住吉神社本殿階の狛犬 (丸印)

同じく住吉神社であるが、拝殿でお参り するときに本殿へ上がる^{*}階を注意して見 て欲しい。手摺の親柱に、小さな狛犬が鎮



階の親柱に鎮座する狛犬 (拡大)

座しているのが分かるだろう。高さは20章位あるだろうか、屋外にある石造りの狛犬では 名古屋一小さいと思われる。

4 狛犬のこと

なお「もっと小さな狛犬を知っている」という人もいるかも知れない。狛犬の起源から 言えば「あって当然」ということになる。かつて拝殿の中で使われていた狛犬の中には、 もっと小さいものもある。

もともと狛犬は、高句麗から一対の獅子に似た想像上の獣をかたどったものが伝わって来たと言われている。高句麗のことを「高麗」、「高麗」、「狛」などと表したことが「狛犬」となった由来であり、当初は「高麗犬」と表記されていたこともあった。その当時の使われ方は、宮中や神殿の門扉・九帳・屏風などを留めておく「薫し」や「錘」のように置かれていた。

ところが神殿の入口で、風に吹かれる御簾を抑えている様子が神様を仰ぎ見ているように見えたことから、次第に神様の鎮護するものだということになってきた。さらに、それが次第に大型化し、拝殿の前、神社の入口などに置かれるようになった。元々は木製が多かったが、風雨に耐える石や銅などへと変化していった。

熱田神宮は、狛犬が見当たらないと気がつかれた方々も多くおられるだろうが「享禄の古図」にも御本殿の階に狛犬が描かれていて、熱田神宮もかつて狛犬が使われていたことが明らかである。

中でも鎌倉時代に使われていた狛犬は立派で、折にふれて熱田神宮宝物館で展示されるのでご覧になった方もいるだろう。

(3)日本に3発、戦艦大和の主砲弾

種 別	戦争遺産
所在地	・中区三の丸1-7-3 愛知県護国神社内
交 通	・地下鉄「市役所」から徒歩7分、地下鉄「丸の内」から徒歩10分

1 はじめに一愛知県護国神社の概要

明治2年(1869)、最後の尾張藩主、徳川 慶勝が、戊辰の役で戦死した藩士25柱を、 昭和区川名山町に祀り「旌忠社」と名づけ たのがはじまり。

社名は、旌忠社→招魂社(明治8年・1875) →官祭招魂社(明治34年・1901)→愛知県 護国神社(昭和14年・1939)→愛知神社→ 愛知県護国神社(昭和30年・1955)と変化 した。鎮座地は、昭和区川名山町→北区名 城公園(大正7年・1918)→現在地(昭和10年・1935)と変化した。



愛知県護国神社の位置

祭神は、戊辰の役以降第二次世界大戦で亡くなった、愛知県ゆかりの英霊9万3千余柱。

2 境内にある慰霊碑などの概要



愛知県護国神社入口

古いものとしては、哀些忠勇戦死碑(戊辰の役)、西南之役碑(歩兵第6連隊)、日清戦 役碑、日露戦役碑(第3師団)がある。

第二次世界大戦のものとしては、戦艦大和記念碑、パラオ海軍部隊慰霊碑、海軍予備学生慰霊碑、殉職勇士彰忠碑(輜重兵第3大隊)、やすらぎの碑(独立輜重兵第51大隊)、やまぶきの碑(山砲第38連隊)、満州鞍山独立守備隊第2中隊慰霊碑、陸軍少年飛行兵慰霊碑、満州開拓義勇軍慰霊碑、歩兵第228連隊、

同大隊慰霊碑、満州 303 慰霊碑、独立野砲兵第 11・2 連隊慰霊碑、丹心の碑(独立野砲兵 14 大隊)、心の塔(第 31 師団衛生隊)、献身の碑(傷痍軍人、同妻)、献水像、阿由知の桜 碑(満州 2603 部隊)、輜重兵第 3 連隊碑がある。

そのほか、殉職警察官之碑、殉職消防員之碑、ニッポン号世界一周大飛行碑がある。

3 戦艦大和記念碑の概要

戦後、戦艦大和の生存者で、昭和29年(1954)に「東海地区大和会」が結成された。戦死した戦友や上官たちへのおもいを、生きて帰れた者たちが、遺族や遺児の育英資金など

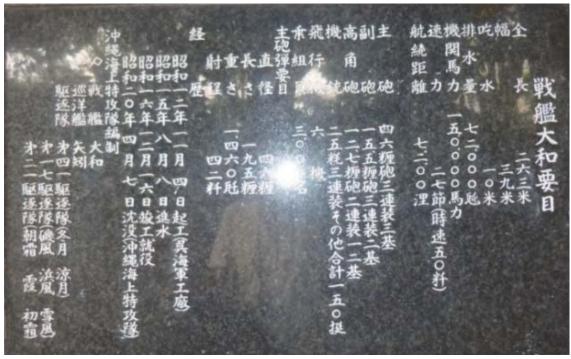
で役に立てたい、という理由からで、そのおもいをこめて、昭和42年(1967)に戦艦大和記念碑が建立された。

世界最大の艦載砲(46 撃砲、三連装、三基)だった戦艦大和の主砲弾で、この記念碑が建てられた時点では、日本に3 発しかなかった貴重な戦争遺産。護国神社以外には、靖国神社付属の遊就館、江田島にある旧海軍兵学校(現海上自衛隊幹部候補生学校および第 1 術科学校)にあった。その後、瀬戸内海から引き揚げられた砲弾が、たとえば呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)などにある。

主砲弾の概要は、直径 $46 \stackrel{5}{\stackrel{5}{\sim}}$ 、長さ $1.95 \stackrel{6}{\sim}$ 、重さ $1.46 \stackrel{6}{\sim}$ 、最大射程距離 $42 \stackrel{*}{\circ}$ であるが、ちなみに、世界最大の大砲は、第二次大戦の時、ドイツ軍がつくった $80 \stackrel{5}{\stackrel{5}{\sim}}$ 列車砲である。







(4) 軍馬・軍用犬・軍用鳩の慰霊碑

種別	戦争遺産
所在地	・中区三の内、外堀内
交 通	・地下鉄「市役所」④番出口を出て、大津橋交差点を右折、外堀町線に沿
	って西に本町筋まで西進、外堀町本町を右折し本町橋を渡った右側。
	または、市バス「外堀町本町」下車、交差点を北に折れた東側

1 慰霊碑について

軍馬・軍用犬・軍用鳩の慰霊碑は、外堀町本町交差点から北に本町橋を渡り、名古屋城外堀の石垣の外側と外堀の間にある細長い空き地の奥にひっそりとある。下に示した写真は、本町橋から東を見たところで、右手には外堀が武平町から堀川まで続いている。

明治維新後の日清、日露戦争においても、 また第二次世界大戦の折、日本軍は無謀な る侵略戦争を行い、とりわけ兵站(軍需品 などの輸送、補給、修理あるいは後方連



軍馬・軍用犬・軍用鳩の慰霊碑の位置





絡などを行う機関)を無視した戦いを続け、そのため多くの軍人、軍属を戦場で失ったが、指揮官の乗馬、あるいは兵器、弾薬、糧秣などの輸送には多数の軍馬が徴用され中国大陸や南方などに派遣された。

日中戦争で大陸に渡った軍馬は 150 万頭ともいわれ、このため国内 の馬の減少が激しく農業生産にも差 し支えたため、優秀な軍馬増産を奨 励された。この慰霊碑は、そのような背景のもとで建立されたものと考えられる。

また、戦場における連絡や警備・哨戒などには軍用犬が、連絡には伝書鳩が使われた。 これらの動物は、戦場で倒れ、さらには悲惨にも糧秣の不足にその肉を利用され、敗戦に際してはそのまま現地にすてさられるなど過酷な運命にさらされた。

ただ、軍の中で馬の世話をさせられた兵隊であった人の話では、「貴様たちは赤紙(兵隊の召集令状をいう)一枚でいくらでも補充がつく」と言われ、人間よりも馬を大切にするような取り扱いを受け、過酷な労働を強いられたとのこと。

この慰霊碑は、前面上部に「軍馬軍犬軍鳩慰霊碑」と刻まれ、中央に大きく軍馬が、その上に三羽の伝書鳩、軍馬の下にシェパードらしき軍犬が浮き彫りにされ、碑の上部には鉄帽らしきものが載せられているが詳細は不明。台座に第三師団と彫られているので、軍が関係団体や個人から拠金を募って造らせたものではないだろうか。

昭和 14 年 (1938) 6月に建立されているが、当時はいまだ日米開戦の前ではあったが、



碑面裏の協賛者名

日中戦争のさなか、大陸での 彼らの過酷な運命を慰霊し、 さらには軍馬の生産増大を 図る必要があったものと考 えられる。

碑の大きさは、約80 $\stackrel{?}{>}$ の 台座の上に、たて約2 $\stackrel{?}{\sim}$ 、横 約3 $\stackrel{?}{\sim}$ 、厚さ約30 $\stackrel{?}{>}$ 、御影 石製の碑が西に面しておか れている。

碑面の裏には協賛者個人 として当時の名古屋財界の 有力者、伊藤次郎左衛門、豊

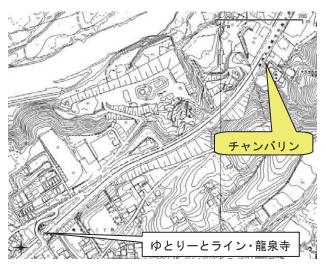
田利三郎、青木鎌太郎、岡谷惣助、高松定一(第14代名古屋商工会議所会頭)、陸田志やう(旧名大医学部分院ビルの寄贈者)、千田千太郎(岡崎商工会議所会頭)などと日本伝書鳩協会、名古屋乗馬連盟、愛知畜産組合連合会、名古屋馬匹畜産連盟、帝国馬匹協会などが刻まれている。なお、左わきにはこの碑の設計製作者は、岡崎市、池上年と刻まれている。

(5) 日本で唯一のチベット密教寺院、チャンバリン(弥勒寺)

種 別	寺院
所在地	・守山区青葉台 101
交 通	・ゆとりーとライン「龍泉寺」下車、約600 た、徒歩9分

守山区の龍泉寺街道沿いにあるキンキラのお寺。何やらあやしげな新興宗教のお寺にみえるチャンバリン(漢字で書くと強巴林。チベット語で弥勒寺という意味)は、れっきとしたチベット密教のお寺で、日本では唯一のチベット密教寺院である。

密教とは、インド仏教の最終段階に 登場した仏教で、インド固有のヒンド ゥー教といちじるしく習合した仏教で ある。インド密教は、その後、チベッ ト、モンゴル(ラマ教とも呼ばれる)、



チャンバリンの位置

中国、そして日本に伝わる。空海が開いた真言密教と、比叡山延暦寺を拠点とする天台密教 (最澄が開いた天台宗は密教ではなく、最澄の死後、密教化した天台宗)は、平安時代の日本仏教界の二大勢力となった。

チベット密教は、基本的には天台密教や真言密教と同質の仏教である。大日如来、曼荼羅、加持祈祷、密教法具、密教経典といったものは共通している。ただし、化身ラマの存在、五体投地の礼拝、後期密教 (タントラ) などはチベット密教独自の特徴。

1 チャンバリンの概要



チャンバリンの外観

志段味地区は、かつて名古屋のチベットといわれた陸の孤島であったが、今ではゆとりーとラインの本数も増え、公共交通は便利になった。この地にチベット密教寺院ができたことは、冗談ではなく、これも何かの縁だろうか?

住職とボミ高僧(チベット密 教最大宗派ゲルク派の寺院、ジョカン寺の最高責任者)の出会 いからチャンバリンは生まれ た。ボミ高僧の弟子となった住 職は、チベットの高地で高山病とたたかいながら修業をつみ、ボミ高僧から受戒(外国人女性では初)をうけ、日本にもチベット密教寺院を建ててほしいとこわれ、平成17年(2005)、愛・地球博の年に、この地に建てられたのがこのチャンバリン。

チャンバリンの建物は、中国 チベット自治区の首府ラサにあ るチベット密教寺院、ジョカン 寺(中国名は大昭寺)を模した



チャンバリンへの入口

もので、本尊の釈迦牟尼仏もジョカン寺の本尊を模したもの。ジョカン寺は、チベットを 統一した吐蕃のソンツェン・ガンポ王に唐から嫁いできた文成公主により、7世紀に建立 された由緒あるお寺。現世界遺産。

チャンバリンには、大宇宙マンダラ、ダンカ(チベット密教独特の仏画)、マニ車などがあり、ラサに行かなくてもここで見られる。大宇宙マンダラの直下はチャンバリンのパワースポット。太いローソクのしずくで心境を占うローソク占い、チベット料理を提供するカフェパルコレなどがあり、若い女性の参拝者も増えているという。ときどきは、中部空港に来た東南アジアのクルーも、本国のお寺に似たキンキラの当寺にお参りに来るという。

2 倶利伽羅不動寺の概要

チャンバリンの隣に倶利伽羅不動寺がある。倶利伽羅とは黒い龍のことで、愛・地球博の前年、平成 16 年 (2004) に宗教法人として成立。略称、守山不動。本山修験宗別格寺。本尊は不動明王。住職は女性で、比叡山、大峰山、大雪山、チベットなどで荒行を積んだ森下永敏さん (チャンバリン住職を兼任)。

修験道は、奈良時代から平安時代にかけて、神仏習合した日本独特の仏教で、天台宗系の本山派修験道(本寺は聖護院、現本山修験宗)と真言宗系の当山派修験道(本寺は醍醐寺三宝院、現真言宗醍醐派)は一般庶民向けに加持祈祷をおこなった。

ここは修験道の寺であって、いわゆる葬式仏教とは無縁の祈祷寺。したがって、檀家はいない。修験道の寺は、大都市にはめずらしく、倶利伽羅不動寺の境内には、神社(鎮守八幡宮)があって、チベット密教の寺があるというのは、一見、これは何だ、と感じる人がいるかもしれない。しかし、近世以前の寺は、ほとんどが神仏習合しており、かつて伊勢神宮や熱田神宮にも神宮寺という寺があったことをしらない現代人には、むしろ神仏習合した昔の寺の有り様を教えてくれる貴重な存在かも。

第4章 提 言

当初は、提言として、各区に新たな「那古野まち歩き新発見」のマップとか冊子などを 作成して紹介できればよいと考えていた。ところが、集められたデータの数と地域性ある いは分類などから考えても無理なことが分かった。

分類に悩んだときに気が付いたのだが、市内全域を調査したにもかかわらず、データを 区毎に整理すると、1項目もない区があった。全区に等しい数のデータが揃うなどとは考 えていなかったが、皆無の区があるとは思いもつかなかった。

その理由は、研究員の努力不足などの他にも様々なものがあるだろう。名東区と天白区のような区は、比較的新しい区で地理的・地域的な関係などから社寺仏閣も少なく、歴史上の事象が少なかったからと思われた。しかし、西区のように古くから街道が通り、寺社も多くあるにもかかわらずデータがないのは不思議だった。伝統工芸などで一般に公開されていないのが主な理由かもしれない。

しかし、今回の調査の結果から得られた数多くのデータは、それなりに興味深く、これだけでもまち歩きの用に供するに堪えるものと考えられる。知らなかったもの、珍しいものが続々と出てくるたびに「名古屋って奥が深いなあ」、「まだ、まだ名古屋も捨てたものではないなあ」と思えるからである。

欲を言えば、今回のデータの中に名古屋の国際的な観光資源にできる項目が乏しかったことがあげられる。しかし、私たちが海外旅行で興味を持つものは、必ずしも風光明媚な観光地だけでなく、路地裏の生活感を感じさせる場所だったりするのだから、日本人的な眼からみた魅力と海外から訪れた人たちからみた魅力の違いを考えれば、すべて否定しなくともよいと考えられる。できれば、海外旅行者を扱う関係者に歩いてもらい、日本人以外の眼から見た魅力を彼らの国のガイドブックに「隠れたるスポット」、「秘めたるスポット」などと紹介してもらえば案外受けるかもしれない。

4-1 提言1

第3章の事例を見れば分かるように、今回の報告書は、大変興味深いものになったと思っている。市民の多くの人が「へえー」とか「初めて聞いた」という項目が多くあるはずである。市民研究員の間でも、すべての項目を知っていた人はいなかったのは当然である。

そこで、このデータを有効に活用することを前提とした提言を羅列する。

- ① 本報告書を市内全図書館に配布して市民に閲覧に供する。できれば、本報告書から事例だけを抜き出しカラー版の別冊として配布ができれば、 一層興味深く見てもらえるものになり、単発的にでも実際に現地へ行ってみようと思われる人がいたとしたら、私たちの調査・研究の目的が果たされる。
- ② 各区役所で転入者に配布する資料の中に事例の中からの抜粋を入れ込む。
- ③ 各区に備わっている「史跡散策路」の経路近くに今回調査した地点がある場合には、 そのルートを少しだけ寄り道したルートを改定の折に付加する。
- ④ 各区にあるハザードマップに史跡やまち歩きのスポットや本報告書の事例からの抜

粋を入れ込む。

その区の住民なら史跡と避難場所などの関係をつかめて史跡巡りがしやすくなる とともに、避難時の経路も認識しやすくなる。

⑤ 区にこだわらない名古屋市全体の「まち歩きマップ」を作成する。

今回の事例や既存の「まち歩きマップ」などを合わせた「全市まち歩きマップ」を 作成する。ただ、1枚にすれば持ち歩きに不便なので、それを何枚かに分割したもの を各区役所に置いておく。分割図は周辺を若干オーバーラップさせれば見やすくなる。

4-2 提言2

昨年(平成25年)、劇的なオリンピック誘致合戦で2020年に東京開催が決定した。この結果は、東京だけに限らず、日本全国はもちろん名古屋にも多くの人たちが海外から訪れることを意味している。

⑥ 「まち歩きガイド国際版」などを各区に整備する。

海外から訪れる人たちを予測して、昭和区と緑区にあったような「まち歩きガイド国際版」あるいは「まち歩きマップ国際版」ともいうべきものを整備すべきである。このマップに本報告書の事例内容を活用すれば興味深いものになる。

4-3 提言3

今回の事例に紹介したもの以外にもまだまだ多くのデータを発掘してきた。今後それらをどのように世に出すか、また今後 10 年後 20 年後ではなく 100 年、200 年後を見据えたときにどんなことをすればよいのか、どんなものを残すかについては、今から考えておく必要がある。

将来の名古屋のために、新しい名所を今から考え、今から作っておく。以前、名古屋は「白い街」とか「偉大なる田舎」とか言われたことがある。「白い街」とは第二次大戦後、都市計画により広い道は出来たものの風情とか情緒といった要素にかけたことを言い、「偉大なる田舎」は、文化的に田舎臭さが強く、都会的なセンスの欠けることを揶揄したものであったようだ。

現在ではさすがにそのようなところは見かけなくなったが、道の広さに比較して緑が少ないように思われる。

そこで、名古屋には桜(サクラ)の名所はあってもそれ以外の花の名所がほとんど無い。 花といっても草花ではなく、やはり花木であろう。サクラはあまりにもあちこちにありす ぎるのでそれ以外の花木がよいのだが(もちろん、カエデ、モミジあるいはイチョウ、ま た、ツツジ、シャクナゲ、アジサイ、カキツバタ、ハスなどもよい)1年や2年で大きく 育つわけではないので、今から準備を進め 20 年 30 年先に名所となれればよいのではなか ろうか。

また、「白い街」から「大きな緑の街」への脱却にはどうしても街のあちこちに巨木の並木やら都市公園や児童公園などに巨木が必要だ。

それには今から苗木から育てることが費用もかからず将来が楽しみとなる。「巨樹、巨木

があると看板や広告が見えにくい」、「落ち葉の掃除が大変」などの短絡的な苦情もあるかもしれないが、百年の計、いや2百年の計を考えれば屁でもない。

4-4 提言4

今回研究を進めて見たところ、本来ならば大事に保存すべき建築物、構造物、文献、民俗資料、記念物など(例えば主税町にあった武田吾一設計の文化集合住宅群や)が、ビル建築のあおりを食って取り壊されたり、あるいは売却されたりゴミとして捨てられたりしてなくなりつつある。

既存の名所・旧跡あるいは施設の中でも残したいもの、残すべきもの、現在は歴史的価値とかが小さくても、将来の名所、名物になるべきものを調査研究して保存するような手段を講じたい。

特に民俗資料や文献、産業遺産類などほっておけば消えていってしまうものは、とりあえず保管、保存、分類して将来に備えるべきではなかろうか。

そのために、大きな倉庫(例えば使われなくなった学校の校舎、新幹線や高速道路下など) に保存、保管してゆきたい。もちろん人手も必要ではあるが、ボランティアが有効に機能 する分野でもあり、これならばそんなに費用もかからずに将来に備えることが出来るので はないか!

第5章 謝 辞

今回の「那古野まち歩き新発見」の調査にあたっては、多くの関係機関や大勢の方のご理解とご協力の下にまとめられた。それら関係機関やお世話になった方々へは、個々に御礼を申し上げなければならない。

特に組織内では多くの方のお世話になりながらも個々のお名前を聞きそびれたこともあり、すべての方にお礼に伺うこともできない。このため、ここに紙面をお借りして御礼を申し上げ、併せて、組織名等を列記して謝意を表することでお許しを願いたい。

お世話になった関係機関等一覧表

(五十音順)

愛知県護国神社様

一柳葬具総本店様

雲心寺様

笈瀬本通商店街振興組合様

笠寺観音(笠覆寺)様

金山神社様

古書書房 リチル様

三光堂様

清龍寺様

チャンバリン (強巴林) 様

貞祖院様

東光院様

建中寺様

中川鉄工協同組合様

名古屋港管理組合様

名古屋市営交通資料センター様

名古屋市・消防学校様

名古屋市·昭和区役所様

名古屋市・上下水道局様

名古屋市・東区役所様

名古屋市・南区役所様

名古屋市・名古屋城総合事務所様

名古屋市立八事霊園·斎場管理事務所様

日本福音ルーテル復活教会様

早川勇夫様

半僧坊新福寺様

山田天満宮様

山田一男様

おわりに

市民研究員の研究報告書を仕上げるためにバタバタと過ぎた2月。どうして2月末に提出しなければならないのかと恨めしくも思った。「もう少し時間があったなら、もっと立派

な報告書にできたのに…」 というのは、所詮、負け惜 しみの言い訳に過ぎない のだが…。

でも、「興味ある報告書になった」と満足顔の研究 員らの最後の定例会の場 をご紹介して締めくくり としておく。



2月(最終)の市民研究員定例会

Ⅲ 資料編

Ⅲ 資料編

<目次>

参考資料

〈資料1〉	まち歩き新発見の分類	1
〈資料2〉	名古屋市内の各区役所で配布されているガイドブックなど	1
〈資料3〉	名古屋を訪れる人のためのガイドマップなど	3

Ⅲ 資料編

参考資料

<資料1> 那古野まち歩き新発見の分類 (市民研究員応募時プレゼンテーション)

	キーワード	例 示 標 題	場所
1	知られざる	名古屋で一番大きな涅槃像	東 区・徳源寺
		名古屋で一番大きな観音像	瑞穂区・金龍寺
2	忘れられた	旧陸軍航空隊の格納庫	中川区・名古屋中川鉄工協同組合
		建築家・ヴォーリズ設計の教会	東 区・日本福音ルーテル復活教会
3	秘めたる	陰陽石	中 区・名古屋城の石垣
		栄の近くで見られる富士山	東 区・栄公園
4	隠れたる	旧名古屋商法会議所	東 区・建中寺徳興殿
		日本の伝統的染織品の一大コレクション	西 区・(財)日本伝承染織振興会

<資料2> 名古屋市内の各区役所で配布されているガイドマップなど

	発 行	標題	形態		
1	千種区	千種区 史跡散策路	冊子		
		歩いて見つける城山・覚王山 み・ちくさマップ 2012	マップ		
		田代タウンマップ 歴史を活かし未来につなげるまち 田代			
		千種区タウンマップ (わがまち千種名物発信マップ作成委員会発行)	マップ		
2	東区	東区 史跡散策路	冊子		
		文化のみち	マップ		
		歩こう! 文化のみち 呼びさまそう まちの宝 (年度版)	マップ		
3	北区	北区 史跡散策路	冊子		
		稲置街道 散策マップ (有料)			
		北区のれきし おもしろマップ (有料)	マップ		
		北区 おもいでウォッチング (有料)	C D		
		北区エコ交通マップ	冊子		
4	西 区	西区 史跡散策路	冊子		
		西区の魅力まちあるき ガイドマップ	マップ		
5	中村区	中村区 史跡散策路	冊子		
		中村区 魅力マップ	マップ		
6	中 区	中区史 跡散策路	冊子		
		歴史の十字路まちしるべ	マップ		
7	昭和区	昭和区 史跡散策路	冊子		

_	•				
		昭和区の埋蔵金探しウォーキング 歩いて発見!昭和区の宝物	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.1 塩付街道 飯田街道	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.2 郡道 (ぐんどう)	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.3 八事興正寺	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.4 鶴舞公園	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.5 滝川・八事丘陵	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.6 伊勝・川原界わい	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.7 御器所台地	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.8 吹上・松栄	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.9 四季とまつり	マップ		
		~歩いてみませんか昭和区~ Vol.10 お勧めスポット	マップ		
		昭和区 グリーンマップ 外国人にやさしいまち・昭和区をめざして	冊子		
		昭和区 グリーンマップ 高齢者にやさしいまち・昭和区をめざして	冊子		
		昭和区 グリーンマップ 「自然と環境」	マップ		
8	瑞穂区	古きを訪ね新しきを知る 瑞穂区 史跡散策路	冊子		
9	熱田区	歴史を訪ねて 熱田区史跡散策路	冊子		
		歴史再発見 あつた 史跡散策路	マップ		
		あつたぐるりんマップ			
		あつた自転車散歩道	マップ		
		あつた 暮らしの便利マップ	マップ		
		あつたウォーキングマップ	マップ		
10	中川区	中川区 史跡散策路	冊子		
		史跡散策路 荒子観音かいわいコース	マップ		
		中川区 みどころマップ	マップ		
		前田利家百万石への道 犬千代ルート	マップ		
		はっけん たんけん 佐屋街道 はっけん・たんけん・中川区	マップ		
		百曲街道と番割観音めぐり	マップ		
11	港区	港区 史跡散策路	冊子		
12	南区	南区 史跡散策路 & 暇回(ひまわり)散歩道	冊子		
13	守山区	史跡散策路	冊子		
		まちめぐりガイドマップ もりやま魅力探訪	マップ		
		まちめぐりガイドマップ 志段味カルタ散策マップ	マップ		
		守山探検隊まちあるきマップ ~緑豊かな大森&喜多山 坂道散策コース~	マップ		
		守山探検隊まちあるきマップ ~志段味古墳群散策コース~	マップ		
		" ~すいどうみち緑道と周辺史跡散策コース~ 庄内川~矢田川まで	マップ		
			•		

		" ~守山市・名古屋市合併記念碑、森山市役所史跡をたずねて~	マップ
		(守山区政 50 周年記念コース)	
		守山 自然ふれあいスクール スタンプラリー	パンフ
		小幡の森通信 -愛知森山自然の会-	機関紙
		尾張のあすかめぐり	マップ
		『志段味古墳群』 歴史の里の整備に向けて	パンフ
14	緑区	緑区 あちこちマップ	マップ
		緑区 散策マップ 神話の道氷上姉子神社コース	マップ
		緑区 散策マップ 有松の絞りと町並みコース	マップ
		緑区 散策マップ 大高鷲津・丸根砦コース	マップ
		緑区 散策マップ 鳴海宿<東>コース	マップ
		緑区 散策マップ 鳴海宿<西>コース	マップ
		緑区 散策マップ 扇川緑道コース	マップ
		緑区 散策マップ 桶狭間古戦場コース	マップ
		緑区 散策マップ 大高城下町コース	マップ
		緑区 散策マップ 緑区東部地域散策コース (3コース)	マップ
		緑区 散策マップ 芭蕉と鳴海の古刹コース	マップ
		緑区 散策マップ Strolling Map of Narumi (裏面は日本語)	マップ
		鳴海エコマップ ("エコのこだわり"宣言店一覧)	マップ
		ほだかの里だより-大高歴史の会会報-第10号 (2013.7.発行・夏号)	機関紙
15	名東区	名東区 史跡散策路	冊子
		名東区 自然散策ガイドマップ	冊子
16	天白区	天白区 史跡散策路 & 楽楽ウォーキングマップ	冊子
		天白区散策マップ 天白巡回バスに乗って (歴遊会会員募集 裏面)	マップ
		天白川 ものしりガイド 天白・川辺の楽校	マップ
		相生山緑地 オアシスの森	マップ
		天白区 自然観察ガイドブック 相生山緑地編	冊子
		平針 夢 街道イラストマップ 保存版 平針駅前商店街	マップ
		地産地消 Map (平成 25 年 7 月~9 月 30 日)	マップ
		相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター47号 (2013.5.25.)	機関紙

<資料3> 名古屋を訪れる人のためのガイドマップなど(観光案内所などで配布)

	発行	標題	形態
1	市・経済局・観光部・観光推進室	サイクリング in 名古屋	冊子
		なごや旅 12 話	冊子

2	市·健康福祉局 城北推進室	志賀公園 MAP	マップ
3	(公財) 名古屋観光コンベンション	名古屋ものづくり探訪	マップ
	ビューロー	キラっ都ナゴヤ	冊子
		ライブマップ 名古屋 2013-2014	マップ
		金山だより ~金山からの小さな旅あるき~	チラシ
4	「ものづくり文化の道」推進協議会	ものづくり文化の道	マップ
5	名古屋商工会議所	「なごや街なか」こだわりナビ	マップ
		名古屋周辺の産業博物館	マップ
6	名古屋伝統産業協会	技と心 匠を訪ねる	パンフ
7	名古屋観光ブランド協会	なごや おみやげガイド	冊子
8	㈱ダイヤモンド・ビッグ社 (東京)	地球の歩き方 中部(中国・韓国・英語)	冊子
9	カーター・ウィット・メディア	NAGMAG (Nagoya's Magazine) (英語)	冊子
10	ナゴヤ・ポケット・ガイド	NAGOYA POCKET GUIDE (英語)	マップ

平成 25 年度 市民研究報告書

発 行 平成26年3月

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター

〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号

TEL 052-678-2200 FAX 052-678-2211

印 刷 株式会社 プロセスユニーク

この印刷物は再生紙を使用しています。